

国際芸術祭

あいち

2025

灰と薔薇の

あいまに



Aichi Triennale 2025:

A Time Between Ashes and Roses

9.13–11.30.2025

開催報告書



I 主催者あいさつ

2025年9月13日から11月30日までの79日間、6回目となる国際芸術祭「あいち2025」を開催いたしました。初めて海外からお迎えしたフル・アル・カシミ芸術監督が掲げたテーマ「灰と薔薇のあいまに」のもと、現代美術展、パフォーマンス、ラーニングの各プログラムや連携事業を展開し、国内外から52万人を超える多くの皆様に御来場いただき、大変素晴らしい芸術祭を開催することができました。

「あいち2025」では、中東、アフリカ、中南米など非欧米圏のアーティストや先住民族にルーツを持つアーティストが多く参加しました。多様なバックグラウンドを持つ62組のアーティストが、自らの社会的・文化的背景をもとに、テーマに呼応した作品を展示・上演することで、戦争や環境破壊など、昨今、世界各地で起きている課題と向き合い、新たな視点で考えるきっかけを提供できたと思います。

会場は、愛知芸術文化センターに加え、愛知県陶磁美術館と瀬戸市のまちなかを選定しました。愛知県陶磁美術館では、自然豊かな広大な敷地や展示室を贅沢に利用し、陶にまつわる作品も展示され、リニューアルした陶磁美術館の魅力を知っていただく機会になりました。せともの祭の賑やかな雰囲気の中開幕を迎えた瀬戸市のまちなかでは、地域を巡り、作品や展示会場を通じて地域の歴史や産業、文化も知っていただくという、国際芸術祭「あいち」ならではの展開が繰り広げられました。

また、巡回展示「ポップ・アップ！」では、豊田市、設楽町、大府市、豊川市の4市町に広域展開し、多くの方に現代アートに触れていただきました。

このたび、「あいち2025」の開催概要や、各プログラムの実施結果、来場者の状況などを報告書として取りまとめました。来場者アンケートでは、「大変良かった」と「良かった」を合わせた割合が過去6回の芸術祭で最も高くなるなど、非常に高い評価を頂きました。

引き続き、皆様から評価される芸術祭を継続して開催し、愛知の魅力を発信するとともに、国内外でのプレゼンスを高めてまいります。

最後になりますが、御来場いただきました皆様をはじめ、参加して下さったアーティスト、開催に当たり御支援、御協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

2026年3月

国際芸術祭「あいち」組織委員会



II 芸術監督報告

[国際芸術祭「あいち2025」の報告]

この不安定な世界で、芸術が果たすべき役割を

国際芸術祭「あいち2025」芸術監督
フール・アル・カシミ

2023年4月に国際芸術祭「あいち2025」の芸術監督への就任の知らせを受け取ってから、もうすぐ3年が経とうとしています。この間、幾度となく日本に足を運び、アーティストのアトリエを訪問し、スタッフとのミーティングを重ね、そして無事に開幕を迎えた「あいち2025」を、本当に多くの方楽しんでいただけたことを、心から嬉しく思っています。

以前から日本の文化に興味を持ち、大学時代にロンドンで日本語を学んだ私は、これまで若い頃から何度も日本を訪れ、「あいち」の出発点である「あいちトリエンナーレ2010」も拝見していました。ですから、縁あって今回「あいち」における初の海外出身の芸術監督という役職を拝命したことをとても光栄に感じています。

「あいち2025」は、名古屋という大都市の中心部に位置する愛知芸術文化センター、緑豊かな丘陵地に立つ谷口吉郎設計の美しい愛知県陶磁美術館、そして瀬戸市のまちなかの、ノスタルジックな雰囲気を湛えつつも活気のある商店街や陶磁産業と深く結びついた施設や工場など、愛知を特徴づけるさまざまな場所を舞台にしています。こうした土地の文脈は、テーマやコンセプトを練り上げる上で大きな刺激となりました。なかでも千年続くやきものまち瀬戸は、訪れるたびに新しい発見があるとりわけ魅力的な場所です。豊かな自然資源と人々の生活とが交わりながら発展してきた瀬戸の地場産業や文化資源を知った私は、それらが人間と環境の複雑に絡み合った関係について、新しく、幅をもった思考を促してくれると直感しました。

今回の芸術祭のテーマである「灰と薔薇のあいまに」は、直接的にはシリア出身の詩人アドニスの一節から借用したものです。アドニスは戦争の惨禍を目の当たりにし、それによる自然破壊を嘆きましたが、同時に破壊の先に希望を見出しました。この一節に私は日本、そして愛知の持つ固有の文脈を足し合わせて、灰か薔薇かという極端な二項対立を議論の中心に据えることなく、その「あいま」にあるニュアンスに富んだ思考で世界を解きほぐしたいという思いを込めました。

このテーマのもと、これまでの「あいち」が培ってきたレガシーをしっかりと受け継ぎながら私らしい視点で芸術祭を作り上げていくため、私は母国アラブ首長国連邦のシャルジャ・ビエンナーレをはじめとする世界各地の芸術祭に関わる中で深めてきた知識や経験、人脈を活かして、とりわけグロ

ーバル・サウスと言われる国や地域で活躍している優れたアーティストを紹介することに注力しました。一方で、日本、そして愛知で開催するこの芸術祭を訪れる世界中の人々に、日本の素晴らしいアーティストによる作品や公演はもちろんのこと、その長い歴史や文化、風土に親しんでもらいたいと考え、さまざまな工夫を凝らしました。たとえば、テーマが一目で伝わるような象徴的なイラストレーションのために、漫画家の五十嵐大介先生を起用したのも、その工夫の一つです。また、芸術祭を楽しみにしてくれているアートファンだけでなく、あまり現代美術や舞台公演に触れてこなかった若い人たちとも接点を持ちたいと思い、クラブを貸し切ったライブ・パフォーマンスも企画しました。あるいは、世界各地から参加してくれるアーティストたちの、お気に入りのレシピや食器を集めたり、瀬戸の食材を使った料理を提供したりするレストランを、参加アーティストに企画・運営してもらうことで、作品や公演だけではない楽しみ方もご提供できたのではないかと思います。

今もなお、世界各地で虐殺や環境破壊が起き続けているという現実を私たちは目の当たりにしています。世界はますます混沌とし、不安定なものになっていくかのようです。そのような絶望的な状況において、声を上げている人々、その声に耳を傾けるべき人々のために、芸術はまだ重要な役割を果たすことができるのだと、私は強く信じています。祝祭的でありながらも、同時に私たちを取り巻くさまざまな課題に対して人々の目を開かせ、声を一つに集めて平和で希望に満ちた未来のために戦う勇気を得られる、「あいち2025」がそのような芸術祭となることを、私は目指してきました。こうした「あいち2025」のテーマや姿勢に共感してくれた62組のアーティストたちは、大きなタイムスケールと幅広い視点からそれぞれが抱えている課題に目を向け、向き合い、解決への糸口を探りながら、素晴らしい作品や公演を作り上げてくれました。アーティストたちの作品や公演を通じて、「あいま」に身を置いて思考し続けることの大切さを、皆さんとも共有できたと確信しています。

「あいち2025」で皆さんと共に過ごした時間は、思いを寄せ合い連帯することでより良い未来を築いていこうという決意を、ますます強いものにしてくれました。

最後に、私と「あいち」を結びつけ、常に惜しみない協力をいただいた大林剛郎国際芸術祭「あいち」組織委員会会長、この芸術祭を支援いただき、私の故郷シャルジャまで足を運んでくださった大村秀章愛知県知事、そして、何より、素晴らしい作品や公演を見せてくれたアーティストの皆さんと、それを支えたスタッフの皆さん、「あいち2025」に関わり支えてくださった全ての方々に、改めて心より感謝を申し上げ、報告書のあいさつとさせていただきます。

[Report on the Aichi Triennale 2025]

A vital role of art in this unstable world.

Aichi Triennale 2025 Artistic Director

Hoor Al Qasimi

It has been nearly three years since I received the news, in April 2023, that I had been appointed Artistic Director of the Aichi Triennale 2025. During this time, I traveled to Japan on many occasions, visiting artists' studios and holding countless meetings with staff. After these preparations, I am truly delighted that Aichi Triennale 2025 was a success, enjoyed by so many people.

I have long been interested in Japanese culture, and while I was a university student in London, I studied the Japanese language. Since then, I have visited Japan many times and had the opportunity to see Aichi Triennale 2010, the point of departure for what is now the Aichi Triennale. With this meaningful connection, I feel deeply honored to have been entrusted with the role of the first Artistic Director from outside Japan in the history of Aichi Triennale.

Aichi Triennale 2025 unfolded across a range of distinctive sites that characterize the region: the Aichi Arts Center, located in the center of Nagoya; the beautifully designed Aichi Prefectural Ceramic Museum by Yoshirō Taniguchi, standing amid lush, rolling hills; and the townscape of Seto City, including its lively yet nostalgic shopping streets, as well as facilities and factories closely tied to the ceramic industry. These local contexts provided profound inspiration as I developed the triennale's theme and concept. Seto—a town of ceramics with a thousand-year history—is an especially compelling place, providing new discoveries with every visit. As I came to understand Seto's local industries and cultural resources, which have evolved through the interweaving of abundant natural resources and everyday life, I intuitively felt that they could encourage new and expansive ways of thinking about the complex entanglement between humans and the environment.

The theme of the triennale, *A Time Between Ashes and Roses*, was directly inspired by a line from the Syrian poet Adonis. Having witnessed the devastation of war, Adonis lamented the destruction of nature, yet at the same time found hope beyond that destruction. To this passage, I layered the particular contexts of Japan and Aichi, embedding my desire not to center the discussion on the extreme binary opposition of ashes versus roses, but rather to unravel the world through nuanced thinking that dwells in the “in-between.”

Under this theme, and in order to both firmly inherit the legacy cultivated by Aichi Triennale thus far and shape the triennale through my own perspective, I drew upon the experience and

networks I have developed through my involvement with art festivals around the world, including the Sharjah Biennial in my home country, the United Arab Emirates. In particular, I focused on introducing outstanding artists active in countries and regions often referred to as the Global South. At the same time, I hoped that visitors from around the world coming to this triennale in Japan and Aichi would not only encounter works and performances by remarkable Japanese artists, but also come to appreciate Japan's long history, culture, and natural environment. With this in mind, we devised a variety of approaches. One such effort was commissioning an iconic illustration that clearly conveyed the theme from the manga artist Igarashi Daisuke. Additionally, in order to connect not only with art enthusiasts eagerly awaiting the triennale but also with younger audiences who may not have had many opportunities to engage with contemporary art or performing arts, we organized live performances in rented nightclubs. Furthermore, by inviting participating artists to curate and operate a restaurant that brought together their favorite recipes and tableware from around the world, while also serving dishes made with ingredients from Seto, we sought to offer ways of enjoying the triennale that extended beyond artworks and performances alone.

Even today, we continue to witness the reality of massacres and environmental destruction occurring across the world. It often seems as though the world is becoming increasingly chaotic and unstable. In such despairing circumstances, I strongly believe that art can still play a vital role—for those who raise their voices, and for those who must listen to those voices. While being celebratory in nature, I aimed for Aichi Triennale 2025 to be a triennale that simultaneously opens our eyes to the many issues surrounding us, gathers voices together, and gives us the courage to fight for a peaceful and hopeful future. The sixty-two artists who resonated with the theme and stance of Aichi Triennale 2025 each turned their attention to the challenges they face, approaching them from broad perspectives and long time scales, and created outstanding works and performances while seeking paths toward resolution. Through these works and performances, I am confident that we were able to share with audiences the importance of continuing to think while positioning ourselves “in-between.”

The time we spent together at Aichi Triennale 2025 has further strengthened our determination to build a better future through mutual care and solidarity.

I would like to express my heartfelt gratitude once again to all those who supported Aichi Triennale 2025: to Mr. Obayashi Takeo, Chairperson of Aichi Triennale Organizing Committee, who connected me with Aichi and offered unwavering support; to Governor Omura Hideaki of Aichi Prefecture, who supported the triennale and even traveled to Sharjah; and above all, to the artists who presented such remarkable works and performances, the staff who supported them, and everyone who was involved in and supported Aichi Triennale 2025. With my deepest gratitude, I conclude this greeting for the triennale report.



III 開催概要

開催目的

- ・ 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する。
- ・ 現代美術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る。
- ・ 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る。

名称

国際芸術祭「あいち2025」

テーマ

灰と薔薇のあいまに

A Time Between Ashes and Roses

芸術監督

フール・アル・カシミ / Hoor Al Qasimi

(シャルジャ美術財団理事長兼ディレクター / 国際ビエンナーレ協会 (IBA) 会長)

会期

2025年(令和7年)9月13日(土)～11月30日(日)[79日間]

会場

- ・ 愛知芸術文化センター
- ・ 愛知県陶磁美術館
- ・ 瀬戸市のまちなか

主催

国際芸術祭「あいち」組織委員会

[会長 大林剛郎(株式会社大林組取締役会長兼取締役会議長)]

企画概要

現代美術

- ・ 国内外の54組のアーティスト及びグループの新作を含む作品を展示し、国際色豊かな現代美術を紹介。
- ・ 愛知県美術館を含む愛知芸術文化センターや、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなかでの作品展示など、県内で広域に展開。
- ・ 参加アーティストらによる短期間の巡回展示を県内4か所で開催。

パフォーミングアーツ

- ・ 国内外の先鋭的な演劇、ダンスなどの舞台芸術作品を、愛知芸術文化センターを中心に9演目上演。

ラーニング

- ・ 誰もが安心して楽しめる環境づくりを目指し、幅広い層を対象とした様々な「ラーニング・プログラム」を実施。

連携事業

- ・ 県内の芸術大学を始め、多様な主体との連携による事業を展開。

助成

SBS財団／オーストラリア大使館／公益財団法人大林財団／クリエイティブオーストラリア／
Creative New Zealand／公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド／シャルジャ政府／
セゾン文化財団／一般財団法人地域創造／テラ・アメリカ美術基金／一般財団法人東海テレビ国際基金／
ナショナル・アーツカウンシル・シンガポール／ブリティッシュ・カウンシル／文化庁／メキシコ大使館／
UAE Ministry

協賛

スペシャルパートナー

株式会社麻生／エレコム株式会社／株式会社大林組／株式会社大丸松坂屋百貨店／森ビル株式会社

スタンダードパートナー

イオン株式会社／UESHIMA MUSEUM／かんべ土地建物株式会社／建装工業株式会社／
東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社／吉野石膏株式会社

プラチナスポンサー

Eugenio López y la Fundación Jumex／株式会社メルコグループ

ゴールドスポンサー

愛知環状鉄道株式会社／公益社団法人愛知県医師会／一般社団法人愛知県歯科医師会／
一般社団法人愛知県薬剤師会／株式会社アルフレックスジャパン／SMBCグループ／NTP GROUP／
岡谷鋼機株式会社／河村電器産業株式会社／株式会社京屋／株式会社くふうカンパニー／
kurimanzutto, Mexico City / New York／公益財団法人現代芸術振興財団／ゴムノイナキ株式会社／
株式会社コングレ／株式会社近藤紡績所／瀬戸信用金庫／中部電力株式会社／
東海東京証券株式会社／名古屋競馬株式会社／名古屋鉄道株式会社／株式会社ニッショー／
日東工業株式会社／Pace ギャラリー／株式会社MARUWA／株式会社リュックス／
Ruth Benzacar Galería de Arte

シルバースポンサー

一般社団法人愛知県浄化槽協会／愛知県信用保証協会／愛知高速交通株式会社／朝日インテック株式会社／
天野エンザイム株式会社／NTT都市開発株式会社／榊原産業株式会社／サントリーホールディングス株式会社／
THE TOWER HOTEL NAGOYA／中部国際空港株式会社／東邦ガス株式会社／
名古屋樹脂工業株式会社／名鉄バス株式会社／八木兵殖産株式会社／リンナイ株式会社／ルイナル

ブロンズスポンサー

株式会社アイシン／株式会社あいち銀行／愛知県行政書士会／一般社団法人愛知県建設業協会／
一般社団法人愛知県鍼灸マッサージ師会／公益社団法人愛知建築士会／愛知県中小企業共済協同組合／
一般社団法人愛知県土木研究会／愛知県農業土木研究会／愛知県美術館友の会／愛知県舗装技術研究会／
一般財団法人愛知県民間社会福祉事業職員共済会／一般社団法人愛知ビルメンテナンス協会／
朝日電気工業株式会社／株式会社伊藤建築設計事務所／春日井司法書士事務所／壁絵錦三／
グリーンシティコム株式会社／サーラグループ／株式会社スペース／関谷醸造株式会社／セクダム株式会社／
瀬戸北ロータリークラブ／一般社団法人中部経済連合会／有限会社津島ロックサービス／
株式会社東海アドエージェンシー／株式会社東海理化／トーテックアメニティ株式会社／豊島株式会社／
トヨタ不動産株式会社／名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科／
名古屋学芸大学 メディア造形学部 デザイン学科／名古屋芸術大学／名古屋市教職員福利厚生会／
名古屋商工会議所／名古屋ファッション専門学校／株式会社日建設計／日本空調システム株式会社／
ネットトヨタ中部株式会社／株式会社ハセガワエスティ／松枝伸佳／名港海運株式会社／株式会社メニコン

特別協力

株式会社ハースト婦人画報社

協力

青山硝子株式会社／Senses AVL／株式会社タケナカ(シンユニティグループ)／NIKA Project Space／
ハーマンミラージャパン株式会社

会場提供

梅村商店／旧小川陶器店／株式会社 加仙鉦山／瀬戸信用金庫／瀬戸まちづくり株式会社／
旧日本鉦泉／松千代館再生の会

灰と薔薇のあいまに

A Time Between Ashes and Roses

枯れ木に花は咲くのか
灰と薔薇の間の時が来る
すべてが消え去り
すべてが再び始まる時に^{※1}

モダニズムの詩人アドニス、1967年の第3次中東戦争の後、アラブ世界を覆う灰の圧倒的な存在に疑問を投げかけ、自身を取り巻く環境破壊を嘆きました。アドニスの詩において、灰は自然分解の結果生じるものではなく、人間の活動による産物、つまり無分別な暴力、戦争、殺戮の結果なのです。環境に刻まれた痕跡を通して戦争を視覚化することで、アドニスは、直接的な因果関係や現代的な領土主義の理解ではなく、地質学的かつ永続的な時間軸を通して戦争の遺産を物語ります。したがって、アドニスにとってそれはただ暗いばかりではありません。消滅の後には開花が続くからです。

この感情は、再生と復活のためには必ず破壊と死が先行するという、そして人類の繁栄のためには、恐怖を耐え忍びながらその道を歩まなければならないという、一般的な心理的概念を表しています。アドニスは、希望と絶望の感情と闘いながら、新たな未来、現在と過去に結びつく恐怖から解放された未来を思い描きます。戦争を国家、民族、部族、人間中心のものよりも、集合体としての環境という視点から理解しようとする中で、アドニスは戦争の多様な顔を強調します。すなわち、人類が引き起こした戦争、地球に対する戦争、私たち自身の内なる戦争、他者との戦争、ヒエラルキー・服従・抑圧・飢饉・飢餓・搾取をめぐる象徴としての戦争、資源とエネルギーをめぐる戦争、所有権や著作権をめぐる戦争、希望・夢・想像力をかけた戦争などです。

観察者、目撃者として戦争と破壊を経験したアドニスがこの詩を書いた政治的背景は、私たちの現在の経験にも根差しており、この芸術祭ではそれをさらに拡張しています。「灰と薔薇のあいまに」というテーマにおいて、私は人間が作り出した環境の複雑に絡み合った関係を考えるために、灰か薔薇かの極端な二項対立も、両者の間の究極の境界線も選ばないことにしました。むしろ、啓蒙思想の知識文化から受け継がれた両者の境に疑問を投げかけ、人間と環境が交わる状態、条件、度合いを想定します。今回の芸術祭では、戦争と希望という両極のいずれでもなく、その間にある私たちの環境の極端な状態を受け止めながら、人間と環境の間にあると思われている双方向の道を解体する可能性を探ります。

「灰と薔薇のあいまに」において、私は、人間と自然の関係についての規範的な枠組みとは異なる問いを投げかけます。すなわち、人間が自然を変質させているのでしょうか、それとも自然が人間を変質させているのでしょうか。人間とは単なる生体物質なのでしょうか。内面的で心理的な人間と、外面的で植物的な世界との間に明確な区別はあるのでしょうか。人間と環境の現代的な関係に取り組むとき、人新世から資本新世、プランテーション新世、クトゥルー新

世^{※2}といった規範的な概念を受け入れ、批判するしか方法はないのでしょうか。芸術作品や展覧会制作は、未知の場所としての環境にアプローチし、新たな物語を発掘し、別の視点を見つけることができるのでしょうか。

第6回となる国際芸術祭「あいち2025」では、人間と環境の関係を見つめ、これまでとは別の、その土地に根差した固有の組み合わせを掘り起こしたいと考えました。農業が機械化され領土が金融化される以前には、世界の至るところで共同体が自然を管理し、環境景観との相互関係を発展させていました。そうした共同体は、自然の権利や保護を意識し、それを取り巻く動植物の生息地との間に親近感を感じて、互いに信頼し、育み、補い合う道を築いていました。この芸術祭では、そのような枠組みを現代的な芸術実践の一部として歓迎します。

このキュレトリアルなアプローチは、人間の痕跡が上に刻まれた複合体としての環境という現代的な想像力とは異なる、環境と共にある想像力の上に成り立っており、またそれを育むものでもあります。農業、化石燃料の採掘、深海採掘、資源の略奪、原料となる天然資源の開発といった活動が、帝国主義的な構造から受け継がれた成長中心の考え方と同様に、人間が環境に対して絶えずダメージを与えるシステムを構築し、また人間が環境に依存する危険な構造を発展させてきたことは、周知のとおりです。加えて、環境に関する私たちの知識は人間中心であり、自分たちの利益のために環境を変質・改造することができる存在として、人間を人間以外の生命体よりも優位に置いています。

人間は、原材料を収奪できる空間へと環境を均す専門技術を持ったエンジニアであるだけでなく、人類の間に存在する不平等を再強化してもいます。今日私たちが占有している環境は、ある共同体が他の共同体よりも恩恵を受け、その生活の質が高まるように、異質化され、細分化され、分類され、モデル化されています。現在のグリーンエネルギー化の言説もまた、片方の半球にいる人々のためのものであり、他方で環境回復のために欠かせない方策の恩恵を受けることのできない共同体が、世界中至るところに存在しているように思われます。このように、今日の人間と環境にまつわる実践の多くは、人種、社会、差別についての知識や考え方を何度も繰り返しているのです。

この結果、地球上の多くの地域が、何世紀にもわたって資源を採掘してきた植民地帝国の名残を生き、多国籍の食料・エネルギー・農業企業によって身動きが取れない現状に直面しています。こうした共同体の多くは、西側世界の植民地の遺産が作り出した人間と環境の関係から不当に大きな影響を受けており、そのような現在の都市と市民の構造は、私たちが今目にしている地球規模の変化の不可避的な原因となっているのです。そうした変化は、絶え間なく続く先住民族の大量虐殺と領土の略奪、植民地化された領土での数十年にわたる核実験、そして生活環境の壊滅的な喪失と人々の屈辱をもたらした、プランテーションや鉱山での強制労働の暴力とトラウマといった遺産の上に存在しています。このことは、私たちの寿命よりも長いスパンで感じられるようなかたちでこの惑星の地質を変え、そして今もなお変え続けており、人類そのものの生存に深刻な影響を及ぼしています。

今回の芸術祭では、現在の人間と環境の関係に関する一筋縄ではいかない物語や研究を念頭に置きながらも、私たちが直面している極端な終末論も楽観論も中心としないことを目指しています。私は、環境正義^{※3}に関する対話に複雑さを重ねることによってのみ、私たちが自らの責任に向き合い、不正義への加担に気づくことができるのだと考えています。ヒエラルキーの押しつけや偏った読み方を避けるために、世界中からアーティストやコレクティブを招き、私

たちが生きる環境について既に語られている、そしてまだ見ぬ物語を表現するのです。アドニスが想像したように、試練を乗り越えて死や破壊に耐えるからこそ自然は回復力を持つのでしょうか。それとも、生命を奪われ機械化された空疎な気候フィクション^{※4}が表現するディストピア的で黙示録的な未来像が、今まさに私たちが生きる現実なののでしょうか。

愛知県に根差した今回の芸術祭には、灰と薔薇の間にある日本独自の環境に対する想像力も組み込まれます。愛知県は陶磁製品の産地として、瀬戸市は「せともの」の生産地として知られています。周囲の環境から得た素材や資源を用いるこれらの地場産業は、アーティストたちの新作の中にも立ち現れてくるでしょう。こうした産業は、地域の誇りの源であり、人間と環境の関係についての新たなモデルを模索する本芸術祭の支柱となります。たとえばこの地では、歴史的な写真や資料で目にする陶磁製品の生産によって作り出された灰のような黒い空は、環境の汚染や破壊よりも、むしろ繁栄を意味していました。このように普遍主義的な人新世という人間中心の批評の視点から脱却する時、技術、地域に根差した知識、帝国の歴史、環境に対する想像力について、どのような思考が浮かび上がってくるのでしょうか。地場産業や地域遺産は、人間と環境の複雑に絡み合った関係について、新たな、幅を持った思考への道を開くのでしょうか。

今回の芸術祭ではさらに、手塚治虫の『来るべき世界』を始め、日本の大衆文化、小説、映画、音楽のさまざまなシーンや事例もまた参照します。手塚の物語では、アメリカ合衆国とソビエト連邦になぞらえた国同士の緊迫した関係が原爆の開発競争——それは日本の現代化と環境の状態に深く絡んだ歴史でもあります——を招き、偶然にも「フウムーン」と呼ばれる突然変異の動物種を生み出してしまいます。フウムーンは人間を超える能力と知性を持ち、多くの動物と少数の人々を地球から避難させる作戦を考えます。自然と人間の副産物であるフウムーンが、窮地を救うためにやって来るわけです。

『来るべき世界』は、今回の芸術祭のテーマとアドニスの詩に共鳴しつつ、終末と開花の間を横断します。愛知県という地域性、アドニスや手塚といった作家への参照、そして参加アーティストたちが共に示すのは、「灰と薔薇のあいまに」を掲げるこの芸術祭が、幅を持った考え方、有限なもの、そして中間にある状態を採り入れることによって、当然視されてきた位置づけやヒエラルキーを解きほぐせるということなのです。

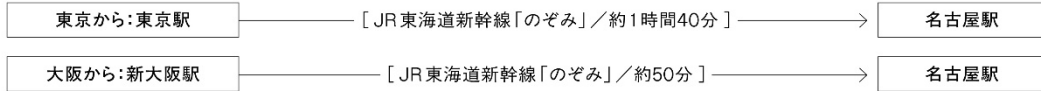
国際芸術祭「あいち2025」芸術監督
フルール・アル・カシミ

- ※1. Adonis, “An Introduction to the History of the Petty Kings,
” *A Time Between Ashes and Roses*, 1970.
- ※2. 人新世とは、人類が地球の環境を激変させた近現代を、地念代として指す言葉。それに対し、深刻な環境破壊を招いたのは人類全体ではなく資本主義やプランテーション化を伴う植民地主義だとする立場(資本新世、プランテーション新世)や、そもそも人類を中心に据えずに、あらゆる種類の生物や非生物から精霊や神話の登場人物までが、堆肥のように共に混じりながら「地下世界に(chthonic)」生きるべきだという立場(クトゥルー新世)がある。
- ※3. 出自や所得の多寡にかかわらず公平に安全な環境で暮らす権利を持つこと。
- ※4. 気候変動がもたらす悪影響にまつわるフィクション。

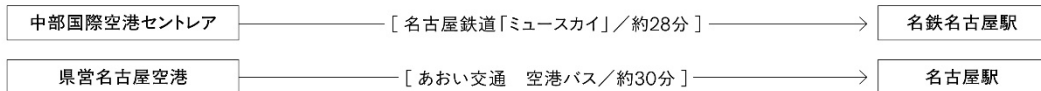
アクセス情報

愛知県(名古屋駅)までの主なアクセス

●電車

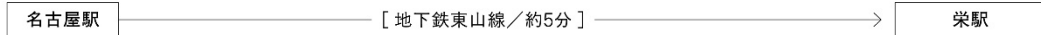


●飛行機



名古屋駅から各地区へのアクセス

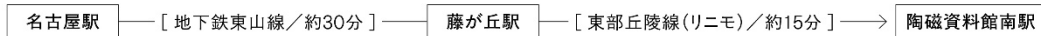
●愛知芸術文化センター



●瀬戸市のまちなか

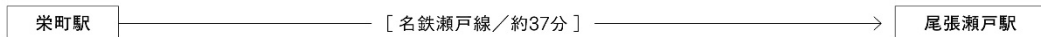


●愛知県陶磁美術館

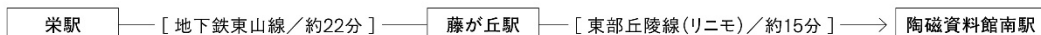


栄(愛知芸術文化センター周辺)エリアから各地区へのアクセス

●瀬戸市のまちなか



●愛知県陶磁美術館



※会期中は、尾張瀬戸駅と愛知県陶磁美術館をつなぐ路線バスが運行しています。



会場

愛知芸術文化センター／Aichi Arts Center

国内外の20世紀美術を中心に充実した作品を所蔵する「愛知県美術館」、大ホール、コンサートホール、小ホール、リハーサル室などを有する「愛知県芸術劇場」、アートのスペース、アートライブラリー、アートプラザで構成される「愛知県文化情報センター」からなる複合文化施設。

愛知県の文化芸術の拠点として、名古屋市の中心部に1992年開館。



愛知県陶磁美術館／Aichi Prefectural Ceramic Museum

日本を代表する窯業地・瀬戸に「愛知県陶磁資料館」として1978年開館。2013年に名称変更し、「愛知県陶磁美術館」として新たなスタートを切った。

緑あふれる広大な敷地に、充実した2つの展示施設「本館」「デザインあいち」、作陶体験施設「陶芸館」、古窯跡を公開する「窯の記憶」などがあり、様々な角度からやきものにアプローチするやきもの専門ミュージアム。



瀬戸市のまちなか／Seto City

名古屋市中心部から北東約20kmに位置し、周囲を小高い山々に囲まれ、千年以上のやきものの歴史を有する人口約13万人の市。

良質で豊富な陶土に恵まれたこの地で、先人たちは新しい技術や文化を柔軟に取り入れ、陶都として発展させたことから、やきものの代名詞「せとの（瀬戸物）」の語源ともなった。

2017年には日本六古窯（瀬戸・常滑・越前・信楽・丹波・備前）として日本遺産に認定され、現在でも、多くの陶芸作家や「ツクリテ」が市内の窯元や工房などで、日々新たな作品を生み出す。窯道具で組まれた窯垣や陶器でできた橋の欄干など、やきものまちならではの風情が随所に見られる。



・瀬戸市のまちなか 会場地図





IV 企画体制

■ 芸術監督

フール・アル・カシミ

アラブ首長国連邦をはじめ中東、そして世界中のアートを繋ぐ支援者として、2009年にシャルジャ美術財団を設立し、現在は理事長兼ディレクターを務める。

新たな試みやイノベーションの支援に情熱を注ぎ、国際巡回展をはじめ、レジデンス・プログラム、コミッション・ワークや制作助成、パフォーマンスや映画のフェスティバル、建築物の調査や保存、幅広い年齢層に向けた教育プログラムまで、同財団の活動領域を広げてきた。



Photo:SEBASTIAN BÖTTCHER

■ 学芸統括

飯田志保子

■ キュレーター(現代美術)

入澤聖明

■ キュレーター(パフォーミングアーツ)

中村茜

■ キュレーター(ラーニング)

辻琢磨

■ キュレトリアルアドバイザー(現代美術)

石倉敏明、趙純恵

■ プロジェクトマネージャー

副田一穂、芹澤なみき

現代美術展

■ アーキテクト

栗本真壱(栗本設計所)、丸田知明(丸田知明建築設計事務所)、
三谷裕樹(ナノメートルアーキテクチャー)、山岸綾(サイクル・アーキテツ)

■ テクニカル・ディレクター

西翼、山田晋平(株式会社青空)

■ プロジェクトオフィサー

北澤ひろみ

■ コーディネーター

大野高輝、小田鮎子、片岡麻美、清澤暁子、坂田実緒子、鈴木一絵、竹平洋基、恒川明美、
花田悠樹(パフォーミングアーツ兼務)、林育正、土方大、本多康紀

パフォーミングアーツ

■ コーディネーター

神田圭美、野崎美樹、林真智子、林芽生、上條桂子、加藤奈紬、篠田栞、田澤瑞希、黄木多
美子、小仲やすえ、斉藤友理、崎山貴文

■ テクニカル・ディレクター

守山真理恵

ラーニング

■ チームメンバー

浅野翔、黒田菜月、野田智子、村上慧

■ コーディネーター

蛭間友里恵

■ コミュニケーター

松村淳子

■ ファシリテーター

小出一葉、小林玲衣奈

■ 対話型鑑賞ツアーボランティア監修

会田大地、大場美葵

広報

■ アドバイザー

市川靖子(株式会社いろいろ)、犬飼貴俊(INUKAI inc.)、津田礼沙

公式カタログ

■ エディター

増田千恵

デザイン

■ デザイン

伊藤敦志 (AIRS)

■ 会場サイン デザイン

阿部航太

■ タイプセット／ロゴタイプ

岡田和奈佳

加納大輔

■ シンボルマーク

アリ・ムラード

■ Webサイト ディレクション

中本真生

■ Webサイト デザイン

石井喜博

<ロゴ>



国際芸術祭あいち2025

灰と薔薇のあいまに

<キービジュアル>



©五十嵐大介

■ 製作者

五十嵐大介

このシンプルで豊かな詩を絵にする。私がまず考えたのは「薔薇はどこに咲くのだろう」ということでした。灰は理不尽な破壊や死の結果なのか？ だとしたら薔薇は死者の国に咲くのかもしれない。わたしは死者の国の住人として幽霊を描くことにしました。描いているうちに、死んでいるはずの幽霊たちが少し生き生きとしてきたような気がしました。“死者の国”と思っていたのはもしかしたら“生まれる前の者たちの国”なのかもしれない。そこがこの絵です。



V 展開概要

1 現代美術

(1) 現代美術展

- ・ アジアに加え、中東、アフリカ、中南米など非欧米圏も含めた国内外から54組のアーティスト・団体が出品し、「灰と薔薇のあいまに」のテーマのもと、人間と環境との関係を考察する作品や自らの社会的・文化的アイデンティティを見つめ直す作品が数多く取り上げられた。
- ・ 会場は愛知県美術館を含む愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなかで広域に展開した。

■ 展示面積

会場	展示面積	備考
愛知芸術文化センター	7,600㎡	
愛知県陶磁美術館	4,100㎡	
瀬戸市のまちなか	2,900㎡	屋外の展示は作品面積を集計
計	14,600㎡	

■ 参加アーティスト一覧(姓のアルファベット順)

	アーティスト名(日本語)	アーティスト名(英語)	生/結成年 (没年)	出身/結成地	会場
1	バゼル・アッバス & ルアン・アブ＝ラーメ	Basel Abbas and Ruanne Abou-Rahme	1983 1983	キプロス 米国	芸文
2	メイサ・アブダラ	Maitha Abdalla	1989	アラブ首長国 連邦	瀬戸
3	ジョン・アコムフラ	John Akomfrah	1957	ガーナ	芸文
4	ロバート・アンドリュウ	Robert Andrew	1965	豪州	瀬戸
5	浅野友理子	Asano Yuriko	1990	日本	芸文
6	ミルナ・バーミア	Mirna Bamieh	1983	パレスチナ	芸文
7	Barrack(古畑大気+近藤佳那子)	Barrack (Furuhata Taiki + Kondo Kanako)	2017結成	日本	愛陶
8	マリリン・ボロル・ボール	Marilyn Boror Bor	1984	グアテマラ	愛陶
9	ミネルバ・クエバス	Minerva Cuevas	1975	メキシコ	瀬戸
10	エレナ・ダミアニー	Elena Damiani	1979	ペルー	愛陶
11	アフラ・アル・ダヘリ	Afra Al Dhaheri	1988	アラブ首長国 連邦	芸文
12	プリヤギータ・ディア	Priyageetha Dia	1992	シンガポール	芸文
13	ソロモン・イノス	Solomon Enos	1976	米国	芸文
14	シモーヌ・ファタル	Simone Fattal	1942	シリア	愛陶

	アーティスト名(日本語)	アーティスト名(英語)	生/結成年 (没年)	出身/結成地	会場
15	札本彩子	Fudamoto Ayako	1991	日本	芸文
16	ハイブ・アース	Hive Earth	2017結成	ガーナ	愛陶
17	ウェンディー・ヒュバート	Wendy Hubert	1954	豪州	芸文
18	イキバウイクルル	ikkibawiKrrr	2021結成	韓国	芸文
19	カマラ・イブラヒム・イシャグ	Kamala Ibrahim Ishag	1937	スーダン	芸文
20	加藤泉	Kato Izumi	1969	日本	愛陶
21	川辺ナホ	Kawabe Naho	1976	日本	芸文
22	ムハンマド・カゼム	Mohammed Kazem	1969	アラブ首長国 連邦	芸文
23	是恒さくら	Koretsune Sakura	1986	日本	芸文
24	久保寛子	Kubo Hiroko	1987	日本	芸文
25	シモーヌ・リー	Simone Leigh	1967	米国	愛陶
26	チャヌーパ・ハンスカルガー	Cannupa Hanska Luger	1979	米国	愛陶
27	マユンキキ	Mayunkiki	1982	日本	芸文
28	シェイハ・アル・マズロー	Shaikha Al Mazrou	1988	アラブ首長国 連邦	瀬戸
29	宮本三郎	Miyamoto Saburo	1905(1974)	日本	芸文
30	水谷清	Mizutani Kiyoshi	1902(1977)	日本	芸文
31	諸星大二郎	Morohoshi Daijiro	1949	日本	芸文
32	ムルヤナ	Mulyana	1984	インドネシア	芸文
33	ワンゲシ・ムトゥ	Wangechi Mutu	1972	ケニア	愛陶
34	永沢碧衣	Nagasawa Aoi	1994	日本	愛陶
35	ダラ・ナセル	Dala Nasser	1990	レバノン	芸文
36	小川待子	Ogawa Machiko	1946	日本	芸文
37	大小島真木	Ohkojima Maki	2023結成	日本	芸文 愛陶
38	沖潤子	Oki Junko	1963	日本	瀬戸
39	太田三郎	Ota Saburo	1884(1969)	日本	芸文
40	セルマ&ソフィアン・ウイスィ	Selma & Sofiane Ouissi	1975 1972	チュニジア チュニジア	瀬戸
41	クリストドゥロス・パナヨトゥ	Christodoulos Panayiotou	1978	キプロス	芸文
42	panpanya	panpanya	非公表	日本	瀬戸
43	マイケル・ラコウィッツ	Michael Rakowitz	1973	米国	瀬戸
44	シルビア・リバス	Silvia Rivas	1957	アルゼンチン	芸文
45	西條茜	Saijo Akane	1989	日本	愛陶
46	ハラール・サルキシアン	Hrair Sarkissian	1973	シリア	芸文
47	佐々木類	Sasaki Rui	1984	日本	瀬戸

	アーティスト名(日本語)	アーティスト名(英語)	生/結成年 (没年)	出身/結成地	会場
48	バーシム・アル・シャーケル	Bassim Al Shaker	1986	イラク	芸文
49	ヤスミン・スミス	Yasmin Smith	1984	豪州	愛陶
50	杉本博司	Sugimoto Hiroshi	1948	日本	芸文
51	富安由真	Tomiyasu Yuma	1983	日本	瀬戸
52	アドリアン・ビシャル・ロハス	Adrián Villar Rojas	1980	アルゼンチン	瀬戸
53	山本作兵衛	Yamamoto Sakubei	1892(1984)	日本	芸文
54	ロバート・ザオ・レンフイ	Robert Zhao Renhui	1983	シンガポール	芸文

芸文: 愛知芸術文化センター / 愛陶: 愛知県陶磁美術館 / 瀬戸: 瀬戸市のまちなか

(2) 主なイベント等

■ オープニングイベント

開催日	内容	実施場所
9月12日(金)	内覧会	全会場
	記者会見	愛知芸術文化センター12階 アートスペース A
	プレス向けバスツアー	愛知芸術文化センター、瀬戸市のまちなか
	オープニングセレモニー	愛知芸術文化センター2階 愛知県芸術劇場大ホール
9月13日(土)	オープニングイベント (テープカット)	愛知芸術文化センター10階 愛知県美術館 瀬戸市のまちなか
	プレス向けバスツアー	愛知県陶磁美術館



オープニングイベント(愛知芸術文化センター)



オープニングセレモニー

■ イベント等

○ ラウンドテーブル(開幕記念)

開催日	9月14日(日) 13:00~15:15
場所	愛知芸術文化センター12階 アートスペース A
内容	<p>開幕を記念して、参加アーティストたちが登壇して、自身の制作背景や「あいち」でのリサーチを基に制作した新作などについて語り合う。※公式YouTubeでアーカイブ公開あり</p> <p>[第一部]「あいちでのリサーチ」 [第二部]「それぞれの土地で」</p> <p>【登壇者】フール・アル・カシミ(「あいち2025」芸術監督) [第一部] イキバウイクルル(チョ・ジウン、コ・ギョル)(「あいち2025」参加アーティスト) 川辺ナホ(「あいち2025」参加アーティスト) シェイハ・アル・マズロー(「あいち2025」参加アーティスト) [第二部] ロバート・アンドリュウ(「あいち2025」参加アーティスト) 永沢碧衣(「あいち2025」参加アーティスト) ハラーイル・サルキシアン(「あいち2025」参加アーティスト)</p> <p>【モデレーター】 [第一部] 趙純恵(「あいち2025」キュレトリアルアドバイザー(現代美術)) [第二部] 石倉敏明(「あいち2025」キュレトリアルアドバイザー(現代美術))</p>
参加者数	129人

○ アーティスト・リレートーク

開催日	9月15日(月・祝) 10:00～16:30		
場所	愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか ※各アーティスト展示作品前		
内容	参加アーティストが自身の作品の前でトークを行う。 ※タイムテーブルは下表のとおり ※公式 YouTube でアーカイブ公開あり		
参加者数	各会場多数		
時間	アーティスト	会場(※各アーティスト展示作品前)	
10:00-	ソロモン・イノス	ラーニングセンターへたち前(8階 愛知県美術館ギャラリーJ室前)	愛知芸術文化センター
10:30-	ムルヤナ	10階 愛知県美術館	
11:00-	ダラ・ナセル	10階 愛知県美術館	
13:30-	マイケル・ラコウィッツ	梅村商店	瀬戸市のまちなか
14:15-	ミネルバ・クエバス	瀬戸市美術館	
15:00-	マリリン・ボロル・ボール	本館	愛知県陶磁美術館
15:30-	ヤスミン・スミス	本館	
16:00-	西條茜	本館	
16:30-	チャヌーパ・ハンスカ・ルガー	本館	



アーティスト・リレートーク(写真奥左:ダラ・ナセル)



アーティスト・リレートーク(マイケル・ラコウィッツ)

○ アーティストトーク

開催日	登壇者	実施場所	参加者数
10月11日(土)	是恒さくら(「あいち2025」参加アーティスト) 石倉敏明(「あいち2025」キュレトリアルアドバイザー(現代美術))	ラーニングセンターへたち	52人
11月2日(日)	小栗康寛(とこなめ陶の森資料館学芸員) 是恒さくら(「あいち2025」参加アーティスト) 副田一穂(「あいち2025」プロジェクトマネージャー)	愛知県陶磁美術館 本館	44人
11月7日(金)	ウェンディー・ヒュバート(「あいち2025」参加アーティスト) ロレイン・コッピン(ジュールワルグループ・アボリジナル・コーポレーション CEO) マイケル・ウッドリー(インジバルンディ・アボリジナル・コーポレーション) 北澤ひろみ(「あいち2025」プロジェクトオフィサー)	ラーニングセンターへたち	131人
計			227人

○ シンポジウム

開催日	11月29日(土) 14:00～17:00
場所	愛知芸術文化センター12階 アートスペース EF
内容	<p>芸術祭の目指す姿についての「ステートメント」を周知し、理解を深めるためのシンポジウムを開催。</p> <p>[第1部] 公開シンポジウム 事務局からの報告、専門家によるレクチャー、「あいち2025」参加アーティストからのコメントなどを通じて、ステートメントについて、より深く知り、学んだ。</p> <p>[第2部] 今後に向けて 来場者もワークショップを通じ、感想をシェアしながら、学びを深めた。</p> <p>【登壇者】 大小島真木、辻陽介(アートユニット「大小島真木」)(「あいち2025」参加アーティスト) 金満里(態変)(「あいち2025」参加アーティスト) ムンキキ(「あいち2025」参加アーティスト) 田村かのこ(アートトランスレーター) 河口尚子(立命館大学生存学研究所 客員協力研究員) 中村美亜(九州大学大学院芸術工学研究院 教授)</p>
参加者数	<p>会場28人、オンライン113人</p> <p>[第1部]の公開シンポジウムのみ12月6日までアーカイブ公開した。当日の参加者以外には限定視聴の申込みを募り、316人の方から申込みがあった。</p>

■ パフォーマンス・ワークショップ等

○ 愛知芸術文化センター

● クリストドゥロス・パナヨトウ関連 トーク

開催日	9月26日(金)
場所	愛知芸術文化センター8階 愛知県美術館
内容	クリストドゥロス・パナヨトウの指示を受けて同作家による作品《落選の花園》の制作に携わった造園家・糟谷護氏が、同作品の前で、制作の裏側についてのトークを行った。
参加者数	48人

● マンキキ パフォーマンス

開催日	11月30日(日)
場所	愛知芸術文化センター8階 愛知県美術館
内容	マンキキのインスタレーション作品《クシ》を構成している飯田線の走行音、アイヌ伝統歌をはじめとするさまざまな音や光、空間に呼応した、マンキキによる歌と、菊澤好紀による踊りの即興パフォーマンスを行った。
参加者数	①30人 ②192人 ③165人 ④243人

○ 愛知県陶磁美術館

● 炎を囲む三日三晩——「瀬戸」に触れる特別な時間

開催日	11月1日(土)～3日(月・祝)
場所	愛知県陶磁美術館 各所
内容	<p>①復元古窯焼成(愛知県陶磁美術館主催事業) 薪を使った復元古窯(登り窯)で焼成を行った。</p> <p>②窯に集う 愛陶窯巡り Night(愛知県陶磁美術館主催事業) 敷地内にある平安時代から現代までの窯を巡りながら、学芸員が解説を行った。</p> <p>③ナイトミュージアム 11月1日(土)、2日(日)に開館時間を3時間延長し、ナイトミュージアムを実施した。</p> <p>④版築ワークショップ「星をつくるテーブル」(ラーニング) 「版築」という古来の技術を手軽に体験できるワークショップを実施し、参加者は型枠を使って星型作品を制作した。</p> <p>⑤クオン・ビョンジュン『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』(パフォーマンスアーツ) 11月1日(土)のみ3時間延長し、夜間鑑賞を実施した。</p> <p>⑥特別出店 瀬戸少年院「陶陶塾」 《瀬戸の版築プロジェクト「凸と凹」》に参加した瀬戸少年院の少年たちが制作した雑貨を販売した。</p> <p>⑦特別出店 TEMPORA 芸術祭コラボレーションショップ TEMPORA が、アーティスト関連書籍などを販売した。</p> <p>⑧ホノオノ夜市 フード&ショップ、音楽ライブを実施した。 企画運営: Barrack(古畑大気+近藤佳那子) 音楽ライブ出演: THE TETORAPOTZ + SNATCH、シラオカ、DJ TANUKINEIRI CREW</p> <p>⑨詩を囲むタベ(ラーニング) 瀬戸・土・焼き物にまつわる詩を持ち寄り、朗読を行った。</p> <p>⑩凸凹トーク(ラーニング) 《瀬戸の版築プロジェクト「凸と凹」》制作の舞台裏についてのトークイベントを実施した。 登壇者: 辻琢磨、村上慧、松村淳子(いずれも「あいち2025」ラーニングチームメンバー)</p>
参加者数	6,742人



炎を囲む三日三晩——「瀬戸」に触れる特別な時間チラシ

● 西條 茜 パフォーマンス

開催日	11月2日(日)
場所	愛知県陶磁美術館 本館
内容	西條茜の作品「シーシュポスの柘榴」を、パフォーマーが押して移動させたり息を吹き込んだりしながら、身体を通して展示空間と作品を有機的に繋ぐパフォーマンスを行った。 【パフォーマー】 石原菜々子、大井卓也、遠藤リョウノスケ、益田さち、藤原美加

○ 瀬戸市のまちなか

● マイケル・ラコウィッツ パフォーマンス

開催日	9月12日(金)～15日(月・祝)、11月1日(土)～3日(月・祝)
場所	梅村商店
内容	展示空間にある調理スペースにおいて、地元住民等の協力も得ながら、作家の家庭に伝わる調理法を用いた「おこのみらき」(お好み焼き)を作るパフォーマンスを行った。

■ クロージングイベント

開催日	11月30日(日)
場所	愛知芸術文化センター10階 愛知県美術館
内容	閉幕日に組織委員会会長と愛知県知事らが来場者をお見送りした。
参加者数	メディア3社(5人)、来場者多数



クロージング

(3) チケット

■ 現代美術展チケットの種類と制度

フリーパス	会期中、各会場を何度でも観覧可能
1DAYパス	入場当日に限り、各会場を何度でも観覧可能

※アップグレード：一定料金（一般1,400円、学生900円）の支払いで、「1DAYパス」から「フリーパス」へ交換可

■ 現代美術展チケットの種類と金額

- ・ 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方と付添の方1名までは無料とした。
- ・ 学校向け団体鑑賞プログラムで来場される場合、学生及び引率者は無料とした。（要事前申込）

チケットの種類 販売期間		特別販売券※ ～11月30日	前売券 6月3日～9月12日	会期中販売券 9月13日～11月30日
フリーパス	一般	2,500円	3,000円	3,500円
	学生(高校生以上)	1,600円	2,000円	2,300円
1DAYパス	一般	1,500円	1,800円	2,100円
	学生(高校生以上)	1,000円	1,200円	1,400円

※チケットを10万円分以上まとめて購入する場合

■ EX旅パック「EXこだわりツアー」

【内容】首都圏・関西・その他エリアからのご来場者向けに、往復新幹線と現代美術展1DAYパスがセットになった旅行商品を販売。

【販売期間】7月28日(月)～11月30日(日) 【取扱券種】前売券、会期中販売券

■ 愛知環状鉄道チケット付き企画乗車券

【内容】愛知環状鉄道の乗車券と現代美術展1DAYパスがセットになった商品を販売。

【販売期間】9月13日(土)～11月30日(日) 【取扱券種】会期中販売券

【販売場所】中岡崎駅・北岡崎駅・三河豊田駅・新豊田駅・八草駅・瀬戸口駅・瀬戸市駅

フリーパス

〈表面〉



〈裏面〉



1DAYパス

〈表面〉



〈裏面〉



(4) 巡回展示「ポップ・アップ！」

- ・ 10月・11月に、54組の現代美術展参加アーティストのうち14組の作品及び漫画家・五十嵐大介による「あいち2025」のキービジュアルの原画を巡回展示した(入場無料)。作品展示に併せ、週末にはワークショップや作品ガイドツアーなども開催した。
- ・ 本展で展示される作品とは異なる作品を主に展示した。

■ 出品アーティスト

浅野友理子、プリヤギーター・ディア、札本彩子、カマラ・イブラヒム・イシャグ、加藤泉、是恒さくら、久保寛子、大小島真木、セルマ&ソフィアン・ウイスィ、panpanya、シルビア・リバス、西條茜、佐々木類、ロバート・ザオ・レンフイ、五十嵐大介(特別出品)

■ 開催地及び日程

開催市町	会場	日程	日数	来場者数
豊田市	豊田市民芸館	10月24日(金)～26日(日)	3日	645人
設楽町	旧設楽町立田峯小学校	10月31日(金)～11月3日(月・祝)	4日	333人
大府市	大府市歴史民俗資料館、 大府市役所	11月7日(金)～9日(日)	3日	1,441人
豊川市	豊川市桜ヶ丘ミュージアム	11月14日(金)～24日(月・振休) ※11月17日(月)は休館	10日	917人
計				3,336人

■ ワークショップ

開催市町	タイトル	開催日	参加者数
豊田市	是恒さくら「みつける！あつめる！民芸館のかたち」	10月26日(日)	17人
設楽町	浅野友理子「灰で植物を描く！」	11月2日(日)	29人
大府市	札本彩子「ステーキの付け合わせを考えよう！」	11月8日(土)	38人
豊川市	西條茜「オリジナル埴輪を作ってみよう！」	11月16日(日)	14人
計			98人

■ 主催

- ・ 国際芸術祭「あいち」組織委員会／(豊田市会場)豊田市／(設楽町会場)設楽町／(大府市会場)大府市／(豊川市会場)豊川市



Photo: 城戸保

設楽町での展示風景



Photo: 城戸保

豊田市でのワークショップ

2 パフォーミングアーツ

- ・国内外の先鋭的な演劇、ダンス、サウンド・インスタレーションなどの舞台芸術作品を愛知県芸術劇場および愛知芸術文化センター周辺、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなかで9演目上演した。
- ・劇場内だけでなく、名古屋市内のクラブや愛知県陶磁美術館の芝生広場などでも公演を行った。
- ・作品やアーティストをより深く理解し身近に感じるためのミート・ザ・アーティスト(アフタートーク)や、障害のある方や高齢者、小さなお子様など様々な方が作品を楽しめるよう、リラックス・パフォーマンス公演、字幕や音声ガイド等の鑑賞サポートを行った。
- ・多くの方に現代美術展とともにパフォーミングアーツ公演を鑑賞していただけるよう、会期中の毎週末に公演を行った。

■ 公演一覧

アーティスト名	演目	公演日	会場	来場者数
ブラック・グレース	Paradise Rumour (日本初演)	9月13日(土)* 9月14日(日) 9月15日(月・祝)	愛知県芸術劇場 小ホール	493人
バゼル・アッバス& ルアン・アブ＝ラーメ、 バラリ、ハイカル、 ジュルムッド	Enemy of the Sun (新作/世界初演)	9月13日(土) 9月14日(日)	Live&Lounge Vio・ CLUB MAGO	647人
態変	BRAIN (新作/世界初演)	9月26日(金) 9月27日(土) 9月28日(日)	愛知県芸術劇場 小ホール	505人
マユンキキ+	クシテ (新作/世界初演)	10月3日(金) 10月4日(土) 10月5日(日)	瀬戸蔵 つばきホール	414人
		10月12日(日)* 10月13日(月・祝)*	愛知県芸術劇場 大リハーサル室	375人
オル太	Eternal Labor (新作/世界初演)	10月10日(金)~ 10月19日(日) ※ 10月14日(火)を除く ※ 同会場にて公演 に連動した展示 も公開	愛知県芸術劇場 小ホール	公演: 771人 展示: 1,739人

セルマ&ソフィアン・ウイスィ	Bird (日本初演)	11月14日(金) 11月15日(土) 11月16日(日)	愛知県芸術劇場 小ホール	519人
AKN プロジェクト	喜劇『人類館』 (新演出)	11月22日(土) 11月23日(日)* 11月24日(月・振休)	愛知県芸術劇場 小ホール	581人
フォスタン・リニエクラ	My body, my archive (日本初演)	11月28日(金) 11月29日(土) 11月30日(日)	愛知県芸術劇場 小ホール	515人
クオン・ビョンジュン	ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ (新作/世界初演) ※サウンド・インスタレーション	9月13日(土)~21日(日)、10月25日(土)~11月9日(日) ※10月27日(月)、11月4日(火)を除く	愛知県陶磁美術館 芝生広場	1,480人

*1日2公演上演

■ アーティスト・団体一覧

アーティスト名 (姓のアルファベット順)	生/結成年(没年)	活動拠点
バゼル・アッバス & ルアン・アブ=ラーメ※、 バラリ、 ハイカル、 ジュルムッド	1983 1983 1994 1992 1991	米国、パレスチナ 米国、パレスチナ パレスチナ 米国 パレスチナ
AKN プロジェクト	2020発足	日本
ブラック・グレース	1995結成	ニュージーランド(アオテアロア)
クオン・ビョンジュン	1971	韓国
フォスタン・リニエクラ	1974	コンゴ民主共和国
マユンキキ※	2025結成	拠点を定めずに活動
オル太	2009結成	日本
セルマ&ソフィアン・ウイスィ※	1975 1972	チュニジア、フランス チュニジア
態変	1983結成	日本

※バゼル・アッバス&ルアン・アブ=ラーメ、マユンキキ、セルマ&ソフィアン・ウイスィは現代美術展へも参加

■ チケット一覧

アーティスト名・演目等	料金	販売開始日
ブラック・グレース Paradise Rumour	一般: 3,500円 U25: 2,000円 ペアチケット(前売のみ): 6,500円	7月12日(土)
バゼル・アッバス&ルアン・アブ＝ラーメ、バラリ、ハイカル、ジュ ルムッド Enemy of the Sun		
態変 BRAIN		
マユンキキ* クシテ		
オル太 Eternal Labor		
セルマ&ソフィアン・ウイスイ Bird		
AKN プロジェクト 喜劇『人類館』		
フォスタン・リニエクラ My body, my archive		
全演目チケット(前売のみ)		
3演目チケット(前売のみ)	一般: 9,900円 U25: 5,400円	

※ 当日券は、一般・U25それぞれ一律500円増

※ ペアチケットは、同一演目・日時の公演を2名で鑑賞する際のみ有効

※ U25は公演日に25歳以下の方を対象にしたチケット(当日要証明書)

※ 障害のある方の同伴介助者は1名まで無料(当日要障害者手帳)

※ 未就学児入場可能な公演では、未就学児は同伴者の膝の上での鑑賞は無料。座席が必要な場合は有料。AKN プロジェクト 喜劇『人類館』は未就学児入場不可。オル太『Eternal Labor』はリラックス・パフォーマンス公演及び展示のみ未就学児入場可

※ クォン・ビョンジュン『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』、オル太『Eternal Labor』(展示)は現代美術展チケットで鑑賞可

3 ラーニング

- ・ ラーニング・プログラムでは、誰もが安心して楽しめる環境づくり及び来場者やボランティア、地域の方々がそれぞれの立場で積極的に参加できる仕組みづくりを行った。
- ・ 愛知芸術文化センター及び瀬戸市のまちなかに「ラーニングセンター」を設置するとともに、「ラーニング・ラーニング」、「アクセシビリティプログラム」、「瀬戸の版築プロジェクト「凸と凹」」、「学校向けプログラム」、「ボランティアプログラム」などの多様なプログラムを開幕前から開催期間まで継続して実施した。
- ・ ラーニング・プログラムへの参加費は無料とした。

(1) 拠点

- ・ 来場者が芸術祭との関わりを多角的に増やせる場所として、愛知芸術文化センターと瀬戸市のまちなかに拠点を設けた。
- ・ 2つの拠点は、もともとその建物にあった家具等を活用しながら、来場者が休憩やおしゃべりなどにも気軽に利用できるような憩いの場や、レクチャーやワークショップなどのプログラムを実施する学びの場として環境づくりを行った。
- ・ 芸術祭を支えるボランティアの活動拠点としての役割も担い、来場者とボランティアの交流を深めることができる場としても運営した。

名称	場所	来場者数
ラーニングセンターへたち	愛知芸術文化センター8階 愛知県美術館ギャラリーJ 室	27,242人
ラーニングセンターせと	旧小川陶器店(瀬戸市のまちなか)	10,680人
計		37,922人



ラーニングセンターへたちの様子
撮影：三浦知也



ラーニングセンターせとの様子

■ 会期中のプログラム

○ ラーニングボランティアによる活動・展示

● 「鑑賞」をふかぼる

- ・ ボランティアのファシリテーションにより、作品の感想を話し合い、鑑賞体験を深めるプログラムを実施した。
- ・ 2つのラーニングセンターを電話でつなぎ、対話を通じて鑑賞体験を共有する「ふかぼるテレホン」を設置した。
- ・ 作品の写真を貼った掲示板やまちなかの地図を使い、鑑賞体験や思い出、おすすめのお店など様々な情報を誰でも付箋でコメントを残せる場をつくった。

プログラム	開催日	場所	参加方法
週末の「鑑賞」をふかぼる	土日祝 (9月20日以降)	ラーニングセンターへたち ラーニングセンターせと	随時自由参加
ふかぼるテレホン	休館日を除く毎日	ラーニングセンターへたち ラーニングセンターせと	随時自由参加

● インタビューの練習

- ・ ボランティアによる芸術祭に関わる人々へのインタビュー映像(全7本)をラーニングセンターへたち、ラーニングセンターせとで常時上映した。

● あいま研

- ・ ボランティアがファシリテーターを担い、芸術祭のテーマ・コンセプトを紐解くワークショップを実施した。

開催日	場所	参加方法
①10月4日(土) ②10月18日(土)	①ラーニングセンターへたち ②ラーニングセンターせと	随時自由参加

● ラーニング・ボランティア・ウィーク

- ・ 11月15日(土)～29日(土)の2週間を「ラーニング・ボランティア・ウィーク」とし、ラーニングボランティアによる様々な自主企画を実施した。

[イベント]

プログラム	開催日	場所	参加方法
ふたつのあいまを遊ぶ	①11月16日(日) ②11月21日(金)	ラーニングセンターへたち	随時自由参加
視点を変えてパーシム・アル・シャーケルを鑑賞してみよう	11月21日(金)	ラーニングセンターへたち	当日先着5人
凸撃！インタビュー！！ ひとつこと！！ログ@あいち2025	①11月21日(金) ②11月23日(日・祝)	愛知芸術文化センター 8階ロビー	随時自由参加

瀬戸のココとミライのあいまを探るワークショップ	①11月22日(土) [対象:一般] ②11月23日(日・祝) [対象:学生(高校生以上)] ③11月29日(土) [対象:①、②参加者]	ラーニングセンターせと	①②当日先着8人
あいまを見つけるタナ散歩	11月23日(日・祝)	愛知県陶磁美術館	当日先着10人
みてきたをシェア「みてきたカード」をつくろう	11月23日(日・祝)	ラーニングセンターへたち	随時自由参加
FARM2025 「あいち2025」の作品を通して世界をcultivateする!!	11月24日(月・振休)	ラーニングセンターへたち	当日先着10人
あなたの「あいち2025」を振り返りまとめるバイディング	11月29日(土)	ラーニングセンターへたち	随時自由参加

[展示]

プログラム	場所	展示方法
ふたつのあいまを遊ぶ	ラーニングセンターへたち	ハンズオン展示
詩とあいち2025のあいまに		展示及び配布
瀬戸と芸文をほめまろう！誰かに伝えたい心に残るエピソードを教えてください		展示
もっと楽しむ！「みたくなるカード」		展示及び貸出
こんにちは ボランティアさん		展示
凸撃！インタビュー！！ひとこと！！ログ@あいち2025 スケッチブック公開		展示
FARM2025 ワードマップ		展示
図書だより		ラーニングセンターへたち ラーニングセンターせと

○ へたちトーク

- ・ 作品制作のサポートに関わった方や芸術祭の関係者をゲストに招き、芸術祭にまつわる裏話をお聞きするトークイベントシリーズをラーニングセンターへたちにて開催した。

タイトル	ゲスト等	開催日	参加者数
vol.01「見えないアーキテクトの仕事」	<p>【ゲスト】 武藤隆（建築家、あいちトリエンナーレ2010・2013アーキテクト、2016シニアアーキテクト）</p> <p>【登壇者】 丸田知明（「あいち2025」アーキテクト） 三谷裕樹（「あいち2025」アーキテクト） 山岸綾（「あいち2025」アーキテクト） 栗本真壱（「あいち2025」アーキテクト）</p> <p>【モデレーター】 辻琢磨（「あいち2025」キュレーター（ラーニング））</p>	10月17日（金）	70人
vol.02「サインデザインから国際芸術祭「あいち2025」をみてみよう」	<p>【登壇者】 阿部航太（デザイナー、「あいち2025」サインデザイン担当） 伊藤健太（デザイナー、「あいち2025」サインデザイン担当）</p> <p>【聞き手】 辻琢磨（「あいち2025」キュレーター（ラーニング））</p>	10月24日（金）	35人
vol.03「はじめまして、テクニカル・ディレクターです」	<p>【登壇者】 山田晋平（「あいち2025」テクニカル・ディレクター（現代美術）） 守山真利恵（「あいち2025」テクニカル・ディレクター（パフォーミングアーツ））</p> <p>【聞き手】 浅野翔（「あいち2025」ラーニングチームメンバー）</p>	11月8日（土）	15人
vol.04「あいちで育まれる対話型鑑賞の文化～あいちの地力～」	<p>【ゲスト】 会田大也（ミュージアムエディケーター／あいちトリエンナーレ2019、「あいち2022」ラーニングキュレーター）</p> <p>【モデレーター】 恒川明美（「あいち2025」コーディネーター（現代美術））</p>	11月14日（金）	60人
vol.05「「あいち2025」ラーニングを建築する」	<p>【登壇者】 辻琢磨（「あいち2025」キュレーター（ラーニング）、辻琢磨建築企画事務所主宰）</p> <p>【聞き手】 服部浩之（キュレーター、東京藝術大学准教授、国際芸術センター青森館長）</p> <p>【モデレーター】 蛭間友里恵（「あいち2025」コーディネーター（ラーニング））</p>	11月21日（金）	30人
計			210人

○ アーティストトーク

- ・ 参加アーティストによるトークイベントをラーニングセンターへたちで開催した。

タイトル	ゲスト等	開催日	参加者数
『ありふれたくじら』(是恒さくら・著／ELVIS PRESS・刊) 刊行記念トークイベント	【ゲスト】 是恒さくら(「あいち2025」参加アーティスト) 石倉敏明(「あいち2025」キュレトリアルアドバイザー(現代美術))	10月11日(土)	52人
アボリジナルの大地、インジバルンディの芸術、物語、文化ーウエンディー・ヒュバートの作品とジュルワル・アート・グループのビジョンー	【ゲスト】 ウエンディー・ヒュバート(「あいち2025」参加アーティスト) ロレイン・コッピン(ジュルワルグループ・アボリジナル・コーポレーション CEO、アートディレクター、アーティスト) マイケル・ウッドリー(インジバルンディ・アボリジナル・コーポレーション) 【モデレーター】 北澤ひろみ(「あいち2025」プロジェクトオフィサー)	11月7日(金)	131人 【内訳】 対面: 48人 ウェビ ナー: 83人

○ ライブラリー

- ・ 参加アーティストや芸術祭に関する書籍を配架し、来場者が自由に読めるライブラリーをラーニングセンターへたち及びラーニングセンターせとに設置した。
- ・ ライブラリーの書籍を紹介することを目的に、ラーニングボランティアが作成した図書だよりを掲示した。

○ 瀬戸リソースバンク

- ・ 瀬戸市のまちなかにある瀬戸信用金庫アートギャラリーにて、愛知県陶磁美術館の協力のもと瀬戸の産業や資源についての展示を行い、約6,000人が来場した。

(2) ラーニング・ラーニング

- ・“ラーニングを学ぶ”ということコンセプトとし、参加者一人一人が、自分たちの立っている場所をともに学ぶ・知る・気づく・対話することを重視する参加型プロジェクトを会期前から会期中にかけて実施した。
- ・様々な専門家を招いたトークイベントに加えて、ディスカッションやワークショップなどのアクティビティを通じ、一人一人が芸術祭を通じた学びを、より身近に感じられる場とした。

内容	開催日	場所	参加者数
vol.01「多文化を認め合う交流拠点を目指して」 ゲスト:阿部航太・児玉美香(わくせいプロジェクト)	1月11日(土)	アートラボあいち	44人
vol.02「灰と薔薇のあいまに」の解釈 ゲスト:石倉敏明(「あいち2025」キュレトリアルアドバイザー(現代美術))	1月18日(土)	梅村商店	61人
vol.03「アクセシブルな表現の未来」 ゲスト:中村茜(「あいち2025」キュレーター(パフォーミングアーツ))	2月1日(土)	アートラボあいち	31人
vol.04「愛知県陶磁美術館から見つけるものづくりと自然」 ゲスト:佐藤一信(愛知県陶磁美術館館長)	3月22日(土)	愛知県陶磁美術館 レストラン	43人
vol.05「灰から生まれる時間」 協力:愛知県陶磁美術館	5月25日(日)	愛知県陶磁美術館 つくとこ!陶芸館	26人
vol.06「道具を作る道具」 ゲスト:七沢智樹(Technel 合同会社代表、山梨県立大学特任教授)	8月10日(日)	瀬戸くらし研究所	20人
vol.07「映画とともに読み解く、イスラーム文化圏と人々」 ゲスト:藤本高之(イスラーム映画祭主宰)	10月4日(土)	愛知芸術文化センター12階 アートスペースA	84人
番外編「「あいち2025」ラーニングドキュメントブック公開編集会議」 登壇者:ラーニングチーム	11月30日(日)	ラーニングセンター へたち	88人
計			397人

(3) アクセシビリティプログラム

- ・ 視聴覚に障がいのある方や小さなお子さんを連れた方など、様々な人々を対象にして、キュレーターやボランティアなどが、ツアーや鑑賞サポートを行った。
- ・ 子どもや日本語以外の言語を母語とする方も読みやすいような「やさしい」広報物を配布した。

■ ツアープログラム

○ 対話型鑑賞

- ・ 研修を受けた対話型鑑賞ツアーボランティアがファシリテーターとなり、参加者が作品について自由に意見を交換し、対話を通じて作品の解釈を深めていく「対話型鑑賞」の手法を用いたツアープログラムを実施した。
- ・ 活動するボランティア自身も、本事業を通して来場者と対話をしながら作品の世界を味わうとともに、作品を通じて世界の見方を知る方法論を学んだ。

監修: 会田大也(ミュージアム・エデュケーター／あいちトリエンナーレ2019、「あいち2022」ラーニングキュレーター)、大場美葵(エデュケーター／「あいち2022」ラーニングコーディネーター)

● 対話型鑑賞ツアー

- ・ 一般来場者を対象とした対話型鑑賞ツアーを実施した。(事前申込不要)

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター8階・10階	金曜日(各1回)、土・日・祝日(各2回)	1,037人
愛知県陶磁美術館	土・日・祝日(各1回)	219人
瀬戸市のまちなか	土・日・祝日(各1回)	194人
計		1,450人

● 子ども向け対話型鑑賞ツアー

- ・ 小学生とその保護者を対象とした対話型鑑賞ツアーを実施した。(要申込、定員各回20名)

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	10月18日(土)	20人
愛知県陶磁美術館	11月23日(日・祝)	11人
計		31人

● 聞こえない・聞こえづらい方のための対話型鑑賞ツアー【筆談編】

- ・ 聴覚に障害のある方を対象とした筆談による対話型鑑賞ツアーを実施した。(要申込、定員各回15名)

協力: NPO 法人愛知県難聴・中途失聴者協会

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	11月8日(土)(2回開催)	11人

● **見えない・見えづらい方のための対話型鑑賞ツアー**

- ・「ことば」による作品鑑賞の楽しさを体験することを目的に、視覚に障害のある方を対象とした対話型鑑賞ツアーを実施した。(要申込、定員15名)

協力: 社会福祉法人名古屋ライトハウス 情報文化センター

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	11月24日(月・振休)(2回開催)	14人

● **日本語以外が母語の方のための対話型鑑賞ツアー**

- ・日本語以外を母語とする方を対象とした対話型鑑賞ツアーを実施した。(要申込、定員各回15名)

会場	開催日	言語	参加人数
愛知芸術文化センター	10月19日(日)	英語	3人
瀬戸市のまちなか	11月16日(日)	やさしい日本語	4人
計			7人

○ **作品解説**

- ・「あいち2025」の作品制作に携わったキュレーターやコーディネーターをはじめとしたスタッフとともに、作品をめぐるツアープログラムを実施した。制作の背景や作品に込められた意図などを紹介し、作品への理解を深めた。

● **作品解説ツアー**

- ・一般来場者を対象とした作品解説ツアーを行った。(要申込、定員各回20名)

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	9月27日(土)	25人
	10月4日(土)	25人
愛知県陶磁美術館	10月5日(日)	25人
瀬戸市のまちなか	11月9日(日)	25人
	11月22日(土)	25人
計		125人

● **作品解説ツアー【小さな子ども連れ向け】**

- ・小さな子ども連れの保護者を対象に、キュレーターのガイドにより、一緒にゆったりと作品を鑑賞できるツアーを行った。(要申込、定員各回5組)

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	10月13日(月・祝)	10人(4組)
愛知県陶磁美術館	11月15日(土)	13人(4組)
計		23人(8組)

● **作品解説ツアー【中高生向け】**

- ・ 中高生を対象とした作品解説ツアーを行った。(要申込、定員各回20名)

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	10月13日(月・祝)	8人
瀬戸市のまちなか	11月16日(日)	2人
計		10人

● **作品解説ツアー【聞こえない・聞こえづらい方向け】**

- ・ 聴覚に障害のある方を対象とした作品解説ツアーを行った。ツアーでは、手話通訳及びボランティアによる筆談サポートを実施した。(要申込、定員各回15組)

※協力:NPO 法人愛知県難聴・中途失聴者協会、あいち聴覚障害者センター

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	10月25日(土)	7人(5組)

■ **やさしい日本語チラシ**

- ・ 子どもや日本語以外の言語を母語とする方々に向けて、「あいち2025」の内容をわかりやすく伝えることを目的に、やさしい日本語を用いたチラシを作成した。
- ・ チラシは、県内の小学校や日本語教育機関、文化施設等への配布を行ったほか、会場に配架した。

配布先	県内の小学校や日本語教育機関、文化施設(約1,200カ所)
配布部数	約29万部



(4) 学校向けプログラム

- ・ 児童・生徒が国際色豊かな現代アートに触れ、楽しんでもらう機会とするため、教育機関と連携し、学校向け団体鑑賞プログラムやアーティスト派遣事業を実施した。

■ 学校向け団体鑑賞プログラム

- ・ ボランティアによる対話型鑑賞を導入した学校向け団体鑑賞プログラムを愛知芸術文化センター及び愛知県陶磁美術館で実施した。愛知県陶磁美術館では陶芸館の協力により体験型プログラム「土のアートプログラム」を実施した。
- ・ 県内各地域から幅広く申込があり、合わせて24校、1,106人(引率者数含む)が参加した。

鑑賞方法	(1)対話型鑑賞ツアー(90分) (2)自由鑑賞(90分) (3)対話型鑑賞ツアー(90分)+土のアートプログラム(120分) (4)自由鑑賞(90分)+土のアートプログラム(120分)
対象	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の団体
定員	愛知芸術文化センター:平日180人・土日祝日60人、愛知県陶磁美術館:100人
実施期間	9月30日(火)~11月28日(金)の期間中毎日 ※休館日及び11月22日(土)、23日(日)、24日(月・振休)を除く。
会場	愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館
参加費	無料(引率する教員等を含む) ※「土のアートプログラム」は実習室使用料及び材料費等が別途必要

● 実績(学校数)

	小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	計
愛知芸術文化センター	3校 (12.5%)	5校 (20.8%)	7校 (29.2%)	5校 (20.8%)	1校 (4.2%)	21校 (87.5%)
愛知県陶磁美術館	1校 (4.2%)	0校 (0.0%)	0校 (0.0%)	1校 (4.2%)	1校 (4.2%)	3校 (12.5%)
合計	4校 (16.7%)	5校 (20.8%)	7校 (29.2%)	6校 (25.0%)	2校 (8.3%)	24校 (100.0%)

● 実績(人数) ※引率者数含む

	小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	計
愛知芸術文化センター	268人 (24.2%)	88人 (8.0%)	341人 (30.8%)	323人 (29.2%)	19人 (1.7%)	1,039人 (93.9%)
愛知県陶磁美術館	43人 (3.9%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	18人 (1.6%)	6人 (0.5%)	67人 (6.1%)
合計	311人 (28.1%)	88人 (8.0%)	341人 (30.8%)	341人 (30.8%)	25人 (2.3%)	1,106人 (100.0%)

● 実績(地域別・学校数)

	名古屋	尾張	海部	知多	西三河	東三河	県内計	県外	計
愛知芸術文化センター	11校	4校	2校	1校	1校	0校	19校	2校	21校
愛知県陶磁美術館	0校	3校	0校	0校	0校	0校	3校	0校	3校
合計	11校	7校	2校	1校	1校	0校	22校	2校	24校

● 実績(鑑賞方法別・学校別)

	対話型鑑賞ツアー	自由鑑賞	対話型鑑賞ツアー +土のアートプログラム	自由鑑賞+土の アートプログラム	計
愛知芸術文化センター	15校 (62.5%)	6校 (25.0%)	— —	— —	21校 (87.5%)
愛知県陶磁美術館	2校 (8.3%)	0校 (0.0%)	1校 (4.2%)	0校 (0.0%)	3校 (12.5%)
合計	17校 (70.8%)	6校 (25.0%)	1校 (4.2%)	0校 (0.0%)	24校 (100.0%)

■ 学校向け団体鑑賞プログラム in 瀬戸

- ・ 瀬戸市のまちなか会場にて、瀬戸市内の小中学校を対象に団体鑑賞を実施した。
- ・ 授業や部活で計9校、632人(引率者数含む)が参加した。

学校名	日程	参加人数
瀬戸市立效範小学校	10月1日(水)	83人
瀬戸市立長根小学校	10月9日(木)	100人
瀬戸市立にじの丘小学校	10月24日(金)	165人
瀬戸市立南山中学校	11月7日(金)	26人
瀬戸市立西陵小学校	11月10日(月)	109人
瀬戸市立陶原小学校	11月12日(水)	77人
瀬戸市立萩山小学校	11月14日(金)	12人
瀬戸市立にじの丘中学校(陶芸部)	11月22日(土)	25人
瀬戸市立八幡小学校	11月28日(金)	35人
計		632人



対話型鑑賞ツアーの様子



学校向け団体鑑賞プログラムの様子

■ アーティスト派遣事業

- ・アートとの出会いを通じて、より多くの子どもたちの感性や創造性の成長に働きかけるため、アーティストを県内の教育施設に派遣した。

○ アイヌ伝統歌・影絵ワークショップ及び公演

- ・アイヌの伝統歌を歌うマユンキキと、影絵ユニット「hoshifune」による影絵のワークショップと公演を実施した。
- ・授業や休み時間を利用して児童らとアーティストで影絵に用いるパペットの一部分を制作するとともに、公演前には、アイヌの歌の輪唱や振り付けを練習するなど、公演を鑑賞するだけでなく、児童らも参加できるようなプログラムとした。

参加アーティスト	派遣先	開催日	参加人数
マユンキキ*(マユンキキ、hoshifune(小谷野哲郎、わたなべなおか))	瀬戸市立長根小学校	6月4日(水)[制作]	145人
		6月5日(木)[制作]	141人
		6月6日(金)[制作・鑑賞]	74人[制作] 176人[鑑賞]

○ 壁画制作ワークショップ

- ・ネイティブ・ハワイアの画家ソロモン・イノスによる壁画制作のワークショップを実施した。
- ・ワークショップで制作したドローイングは、イノスが繋ぎ合わせ、会期中に一つの大きな壁画として愛知芸術文化センターにて展示した。

参加アーティスト	派遣先	開催日	参加人数
ソロモン・イノス	古瀬戸保育園(瀬戸市)	8月4日(月)	22人
	東保育園(瀬戸市)	8月5日(火)	22人
	品野西保育園(瀬戸市)	8月6日(水)	37人
	愛知県児童総合センター	8月7日(木)~13日(水)	946人
計			1,027人

○ 版築制作ワークショップ

- ・ガーナのスタジオ「ハイブ・アース」のメンバーの指導のもと、土を叩いて固める「版築」という技法を用いて、土のブロックを制作するワークショップを実施した。
- ・制作したブロックは、会期中、愛知県陶磁美術館に設置する作品の一部として使用した。

参加アーティスト	派遣先	開催日	参加人数
ハイブ・アース (クワメ・ディヘル)	瀬戸少年院	8月20日(水) [レクチャー・版築作業]	4人
		9月3日(水)[脱型]	

(5) 瀬戸の版築プロジェクト「凸と凹」

- ・ ガーナを拠点にアートとデザイン、そして環境に配慮した建築の融合に取り組むスタジオのハイブ・アース(Hive Earth)と協働し、土を叩いて固める「版築」という技法を用いて、愛知県陶磁美術館にて、版築と土をテーマにしたプロジェクトを実施した。
- ・ 版築にはおもに愛知県陶磁美術館の敷地内の土を利用し、土を掘った穴を「凹」、その土で突き固められた版築を「凸」としてそれぞれを敷地内に展示した。
- ・ 制作までの過程は、パネル及び映像にまとめ、「凸」を展示している陶芸館内に掲示した。
- ・ 会期終了後、「凸」は解体し、「凹」に埋め戻した。
- ・ 瀬戸の土を材料に小物などを制作するワークショップを実施した。

■ 関連プログラム

○ 版築制作ワークショップ(再掲)

- ・ 前ページ参照

○ 「炎を囲む三日三晩——「瀬戸」に触れる特別な時間」内でのプログラム

● 星を作るテーブル

- ・ 「版築」を手軽に体験できるワークショップを実施した。
- ・ 型を組み合わせて、自分だけの星を作り、完成した作品は参加者にお持ち帰りいただいた。

会場	愛知県陶磁美術館 つくるとこ！陶芸館
実施期間	11月1日(土)、11月3日(月・祝)11:00～16:00
参加者数	61人

● 詩を囲む夕べ

- ・ “瀬戸・土・焼き物”にまつわる詩を持ち寄り、腰を下ろして朗読を行った。

会場	愛知県陶磁美術館 瀬戸の版築プロジェクト「凹」
実施日	11月2日(日)16:30～18:00
参加者数	100人

● 凸凹トーク

- ・ 瀬戸の版築プロジェクト「凸と凹」の制作に関するトークイベントを実施した。

会場	愛知県陶磁美術館 瀬戸の版築プロジェクト「凸と凹」
実施日	11月3日(月・祝)15:30～16:30
登壇者	辻琢磨(「あいち2025」キュレーター(ラーニング)) 村上慧(「あいち2025」ラーニングチームメンバー) 松村淳子(「あいち2025」コミュニケーター)
参加者数	73人

(6) ボランティアプログラム

- ・ 会場運営サポート(来場者の案内・誘導等)、対話型鑑賞ツアー(対話型鑑賞の手法を用いたツアーの先導、鑑賞サポート)、ラーニング(プログラムの企画、実施)などを多くのボランティアに担ってもらい、「あいち2025」を盛り上げていただいた。
- ・ 対話型鑑賞ツアーボランティアについては、オンラインテスト及び対話型鑑賞ファシリテートのロールプレイングによる選考を行った。
- ・ ラーニングボランティアについては、オンラインテスト及び面接による選考を行った。
- ・ ボランティア登録者には「あいち2025」の概要に関する研修を実施したほか、対話型鑑賞ツアーボランティア及びラーニングボランティア登録者については、それぞれ専門研修を実施した。

○ ボランティアの登録者数

第一希望活動区分	活動内容	登録者数(人)			
		愛知芸術文化センター	愛知県陶磁美術館	瀬戸市のまちなか	計
会場運営サポート	来場者の案内・誘導等	777 (70.7%)	89 (8.1%)	124 (11.3%)	990 (90.1%)
対話型鑑賞ツアー	対話型鑑賞ツアーの実施等	44 (4.0%)	7 (0.6%)	8 (0.7%)	59 (5.4%)
ラーニング	プログラムの企画実施	36 (3.3%)	6 (0.5%)	8 (0.7%)	50 (4.5%)
計		857 (78.0%)	102 (9.3%)	140 (12.7%)	1,099 (100%)

○ ボランティアの活動実績

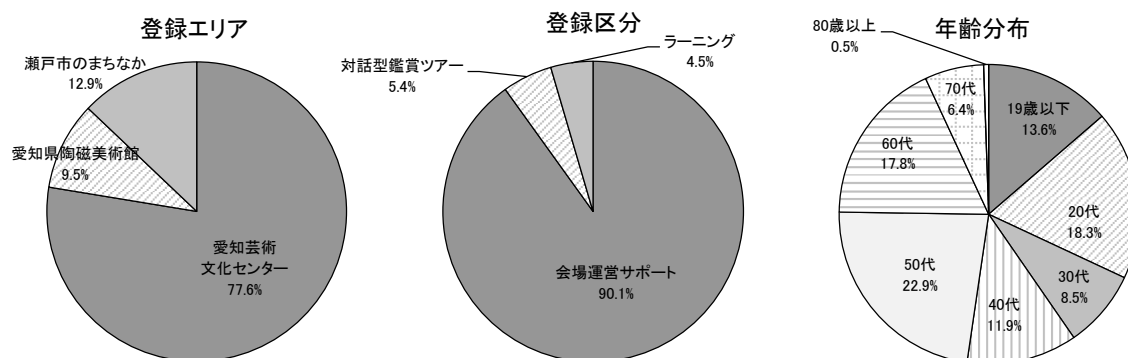
活動区分	活動内容	延べ活動回数(回)			
		愛知芸術文化センター	愛知県陶磁美術館	瀬戸市のまちなか	計
会場運営サポート	来場者の案内・誘導等	1,457 (34.0%)	711 (16.6%)	1,351 (31.6%)	3,519 (82.2%)
対話型鑑賞ツアー	対話型鑑賞ツアーの実施等	436 (10.2%)	64 (1.5%)	52 (1.2%)	552 (12.9%)
ラーニング	プログラムの企画実施	145 (3.4%)	1 (0.02%)	64 (1.5%)	210 (4.9%)
計		2,038 (47.6%)	776 (18.1%)	1,467 (34.3%)	4,281 (100%)

※実活動者数(登録者のうち1回以上活動実績のある者): 779人

※上記のほかパフォーミングアーツ補助: 179回

○ 登録者の年齢分布

区分	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	計
人数	150	201	93	131	252	196	70	6	1,099
割合	13.6%	18.3%	8.5%	11.9%	22.9%	17.8%	6.4%	0.5%	100.0%



○ 研修

行事名	開催日	会場	
全体研修 (必須)	第1回※1	6月20日(金)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		6月21日(土)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		6月22日(日)※2	【瀬戸】瀬戸蔵 多目的ホール
	第2回※1	7月18日(金)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		7月19日(土)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		7月20日(日)※2	【瀬戸】瀬戸蔵 多目的ホール
	第3回	8月29日(金)	【瀬戸】パルティセと アリーナ 【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		8月30日(土)※2	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		8月31日(日)	【瀬戸】瀬戸蔵 多目的ホール 【名古屋】愛知県図書館 大会議室

※1 第1回、第2回については、研修内容をオンラインで配信

※2 1日2回開催

行事名		開催日	会場
対話型鑑賞ツアー 専門研修 ※専門研修①～ ③は参加必須	専門研修①※	7月26日(土)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
	練習会①	7月27日(日)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
	専門研修②※	8月9日(土)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
	練習会②	8月10日(日)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
	専門研修③※	9月6日(土)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
	練習会③	9月7日(日)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
	下見研修	9月20日(土)	【名古屋】愛知芸術文化センター12階 アートスペース A
	下見研修	9月21日(日)	【愛陶】愛知県陶磁美術館 会議室
	下見研修	9月21日(日)	【瀬戸】パルティセと マルチメディアルーム
	専門研修④	9月28日(日)	【名古屋】愛知芸術文化センター12階 アートスペース EF

行事名		開催日	会場
ラーニング 専門研修	「鑑賞」をふ かぼる	専門研修①	7月27日(日) 【愛陶】愛知県陶磁美術館
		専門研修②	8月3日(日) 【名古屋】愛知県美術館
		専門研修③	8月17日(日) 【名古屋】アートラボあいち
		専門研修④	9月13日(土) 【名古屋】ラーニングセンターへたち
		専門研修⑤	9月15日(月・祝) 【瀬戸】ラーニングセンターせと
	インタビュー の練習	専門研修①	7月27日(日) 【名古屋】アートラボあいち
		専門研修②	8月3日(日) 【名古屋】アートラボあいち
		専門研修③	8月17日(日) 【名古屋】アートラボあいち
		専門研修④	9月7日(日) 【名古屋】アートラボあいち ラーニングセンターへたち
		専門研修⑤	9月15日(月・祝) 【名古屋】ラーニングセンターへたち
	あいま研	専門研修①	7月27日(日) 【名古屋】愛知県図書館 中会議室
		専門研修②	8月3日(日) 【名古屋】愛知県図書館 中会議室
		専門研修③	8月17日(日) 【名古屋】愛知県図書館 中会議室

4 連携事業

(1) 芸術大学連携プロジェクト

- ・ 地元芸術大学(愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学、名古屋学芸大学)と連携したプロジェクトを「アートラボあいち」で開催した。

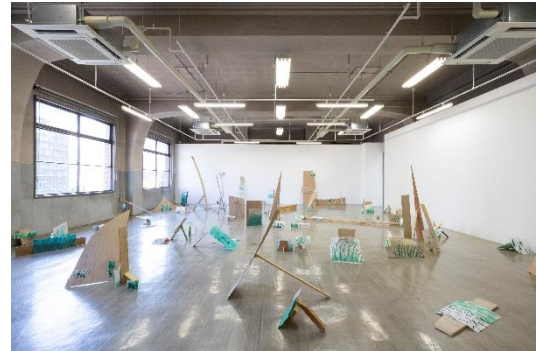
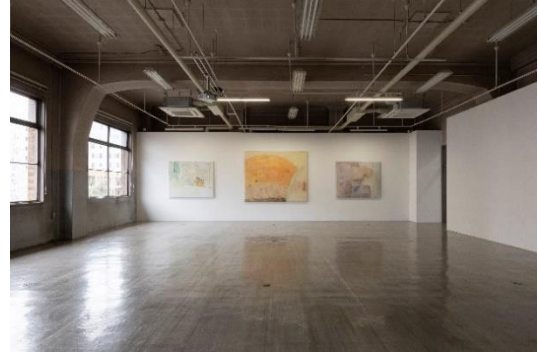
■ アートラボあいちと四芸大による連続個展

- ・ 「アートラボあいちと四芸大による連続個展」では、愛知県内4つの芸術大学とアートラボあいちがプロジェクトチームを組み、各大学を卒業・修了後10年以内の今後の活躍が期待されるアーティストを1名ずつ選出し、「あいち2025」に合わせて4つの個展を連続で開催した。

展覧会名	会期	アーティスト	卒業・修了	来場者数
窓、風、光、またね	9月13日(土)～28日(日)	西川滉都	名古屋学芸大学	282人
太古の残滓(ざんし)をくみ上げる	10月4日(土)～19日(日)	山ノ内陽介	名古屋造形大学	298人
fill the space	10月25日(土)～11月9日(日)	中崎由梨	名古屋芸術大学	308人
答えのない自由に、答えを描く	11月15日(土)～30日(日)	川西りな	愛知県立芸術大学	470人

プロジェクトチームメンバー	
アートラボあいち	服部浩之(キュレーター) 近藤令子(マネージャー)
愛知県立芸術大学 名古屋芸術大学 名古屋造形大学 名古屋学芸大学	横山奈美 吉田有里 佐藤克久 伏木啓、村上将城

関連イベント		参加者数
9月27日(土)	・アーティストトーク: 西川滉都 ・ゲストプログラム「感受性のワークショップ」 ゲスト: 山城大督(美術家・映像作家) プログラムゲスト: 梅田幸史朗(チェリスト)	11人
10月4日(土)	・アーティストトーク: 山ノ内陽介 ・ゲストレクチャー「美術におけるシュルレアリスムについて」 ゲスト: 副田一穂(愛知県美術館学芸員)	19人
11月2日(日)	・アーティストトーク: 中崎由梨 ・ゲストプログラム「照明ワークショップ」 ゲスト: 伊藤啓太(ゲーム開発・展示照明)	11人
11月23日(日・祝)	・アーティストトーク: 川西りな ・ゲストレクチャー「自然と庭の境界について考える」 ゲスト: マレス・エマニュエル(京都産業大学文化学部准教授)	26人



アートラボあいちと四芸大による連続個展

Photos: Fuji Masami

■ 四芸大による展覧会

- ・各大学とアートラボあいちの主催により、大学ごとの特色を生かした展覧会を開催した。

展覧会名	会期	主催	来場者数
「朝食のあとで vol.2 スープの冷めないうちに」	7月11日(金) ～8月3日(日)	・名古屋造形大学 ・国際芸術祭「あいち」組織委員会	400人
「微分される景色 / Traces of a Differential Landscape」	8月10日(日) ～9月7日(日)	・名古屋学芸大学 ・国際芸術祭「あいち」組織委員会	723人
「リップ・アレルゲン(live allergen)」	12月12日(金) ～2026年1月12日(月・祝)	・愛知県立芸術大学 ・国際芸術祭「あいち」組織委員会	265人
「『if』宇留野圭」	2026年2月6日(金) ～3月1日(日)	・名古屋芸術大学 ・国際芸術祭「あいち」組織委員会	409人

(2) 連携企画プログラム

- ・「あいち2025」と同時期に開催される、芸術祭のテーマや企画等と連携した内容で実施されるプログラムを「連携企画プログラム」とし、相互に広報展開を図った。
- ・一部の「連携企画プログラム」は、相互割引も実施した。

■ 連携企画プログラム一覧

○ 愛知県関係の連携企画プログラム

主催	プログラム名	期間
愛知万博20周年記念事業 実行委員会	愛知万博20周年記念事業 「愛・地球博20祭」	3月25日(火)～9月25日(木)
愛知県陶磁美術館	愛陶コレクション展 「世界はやきものでできている」	4月1日(火) ～2026年3月31日(火)
愛知県障害者芸術活動参加 促進事業実行委員会	あいちアール・ブリュット障害者アーツ展 (作品展)	9月11日(木) ～15日(月・祝)
	あいちアール・ブリュット障害者アーツ展 (舞台企画)	9月12日(金)、 9月13日(土)
公益財団法人あいち男女共 同参画財団、あいち国際女 性映画祭2025運営委員会	第30回 あいち国際女性映画祭2025	9月11日(木)～15日(月・祝)
愛知県児童総合センター (公益財団法人 愛知公園協会)	アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラ ム2025 汗かくメディア	10月4日(土)～19日(日)

○ 瀬戸市のまちなかの連携企画プログラム

主催	プログラム名	期間
土街人プロジェクト	国際芸術祭「あいち2025」の歩き方	①7月19日(土) ②10月25日(土)
瀬戸蔵ミュージアム、 公益財団法人瀬戸市文 化振興財団	瀬戸蔵ミュージアム企画展 瀬戸焼 受け継がれる千年の技と美	9月6日(土) ～2026年1月18日(日)
瀬戸市美術館、 公益財団法人瀬戸市文 化振興財団	瀬戸市制施行96周年記念 瀬戸市美術館 特別企画展 瀬戸の原風景 —陶都瀬戸の記憶を辿る—	9月13日(土)～11月30日(日)
瀬戸陶芸協会	瀬戸陶芸協会展—瀬戸陶芸の今に触れる—	9月13日(土)～10月13日(月・祝)
	瀬戸陶芸協会—内なる声を視る—	9月13日(土)～11月30日(日)
せと末広町商店街	めぐる、みつげる、共につくる。 すえひろ商店街ミュージアム	9月13日(土)～11月30日(日)
瀬戸現代美術展実行委 員会／Barrack(古畑大気 ＋近藤佳那子)	瀬戸現代美術展2025	9月27日(土)～10月26日(日)
タネリスタジオビルディング	アート×茶室 タネリ庵	10月4日(土)～11月30日(日) (期間中の土日のみ)

瀬戸市新世紀工芸館、 公益財団法人瀬戸市文化振興財団	瀬戸市新世紀工芸館企画展 「hope—あいちの陶芸・ガラス工芸教育機関学生選抜展」	10月11日(土)～11月30日(日)
ノベルティ・こども創造館	粘土でつくる一輪の薔薇	10月13日(月・祝)
瀬戸現代アート倶楽部	瀬戸ならではの現代アート展覧会～物語は続いていく～	10月30日(木) ～11月23日(日・祝)
本のさんぽみち実行委員会	瀬戸 まちなか本の市 / 民俗会議	11月15日(土)～16日(日)

○「ポップ・アップ！」巡回展示地域の連携企画プログラム

主催	プログラム名	期間
豊田市美術館	アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦	10月4日(土)～11月30日(日)
豊田市民芸館	鈴木繁男 手と眼の創作	10月11日(土) ～2026年1月12日(月・祝)
公益財団法人豊田市文化振興財団、豊田市	とよたまちなか芸術祭2025 Stereo	10月14日(火)～10月26日(日)
豊川市	特別展「埴輪大相撲 豊川場所」	10月18日(土)～11月30日(日)
アートオブリスト実行委員会	アートオブリスト2025ワタナベエイジ展 「Morning Monsters/W Eiji」	11月1日(土)～12月7日(日)

○ その他の地域の連携企画プログラム

主催	プログラム名	期間
岐阜県現代陶芸美術館	伊藤慶二 祈・これから	6月28日(土)～9月28日(日)
	タピオ・ヴィルカラ 世界の果て	10月25日(土) ～2026年1月12日(月・祝)
松坂屋美術館、朝日新聞社、メ〜テレ	朝日新聞名古屋本社発刊90周年記念 松本市美術館所蔵「草間彌生 版画の世界—反復と増殖—」	9月27日(土)～11月16日(日)
名古屋市教育委員会、名古屋市美術館、読売新聞社、メ〜テレ	特別展「藤田嗣治 絵画と写真」	9月27日(土)～12月7日(日)
長者町スクール・オブ・アーツ Chojamachi School of Arts	ART FARMing 2025 『声になる町』 The Town Is A Voice	10月3日(金) ～11月30日(日)の金・土・日
一宮市尾西歴史民俗資料館	旧林家住宅美術展「時とアートの交差展—結ひ—」	10月4日(土)～26日(日)
INAX ライブミュージアム	愛知県陶磁美術館コレクション あの世でもハッピーライフ —中国二千年前の住宅設備機器—	10月18日(土) ～2026年4月7日(火)
株式会社大丸松坂屋百貨店 松坂屋名古屋店	「ただ一輪の薔薇、それはすべての薔薇」 —国際芸術祭「あいち2025」に寄せて	10月29日(水) ～11月24日(月・振休)

(3) パートナーシップ・プログラム

- ・民間企業や自治体、地元文化芸術団体等が原則として愛知県で行う文化芸術事業を「パートナーシップ・プログラム」として募集し、相互に広報協力を行った。
- ・2025年2月13日(木)から7月14日(月)まで募集を行い、総合的な審査のうえ、90件を選定した。
- ・地域別では、全体の半数以上を占める名古屋のほか、県内各地域から幅広く応募があった。
- ・まちなか会場となった瀬戸市内においては、15件が実施された。
- ・応募分野は、美術が半数近くを占め、音楽、芸術祭・アートフェスティバル、舞踊、演劇、伝統芸能など多岐に渡った。

■ 地域別内訳(県内各地域別)

名古屋	尾張	西三河	東三河	県内複数地域	計
49件 (54.4%)	24件 (26.7%)	9件 (10.0%)	4件 (4.4%)	4件 (4.4%)	90件 (100.0%)

■ 分野別内訳(複数分野に跨るプログラムあり)

美術	音楽	芸術祭・アートフェスティバル	舞踊	演劇	伝統芸能	その他
59件	8件	11件	10件	5件	5件	24件

■ パートナーシップ・プログラム一覧

—	プログラム名
1	分館 爲三郎記念館 特別企画「生誕110年 加藤舜陶展」
2	unpis 個展「BowWow Meow」
3	こども食堂 × 田中満幸
4	やさしい物語展
5	「味岡伸太郎展 弓張・邂逅と聯想、再び」
6	写真展「ニュースにならないイランの風景」
7	名鉄瀬戸線アートコンテスト2025
8	3枚の RECORD 展 / 「ライムライト」「チングヒさんの家・カセキさんの寺」「綱領の秋」
9	連歌－言葉を継ぐもの－
10	あいまのあいま ①写真展「あいまのあいま」②「鷹巣由佳 展」
11	①庄司達展 ②篠田桃紅展 ③伊津野雄二展 ④直野宣子展 ⑤吉岡弘昭展
12	NHK ビル日曜アートコンサート
13	MU exhibition «Rock me rock»

—	プログラム名
14	壁絵錦三(かべえきんさん)
15	瀬戸焼若手陶芸作家4人展
16	もったいない
17	第3回藝探展
18	the bank of xx
19	瀬戸ノベルティを再考する - ザ・ドクター
20	場と声 - three solos, one resonance -
21	Delightful Moments with Art
22	鈴木昭男・宮北裕美「写物静生」
23	ANCIENT 古代のものづくりから読み解く今と未来
24	第11回哲学プラクティス連絡会大会〈ひらかれた場〉って言うけれど、誰に？ 何に？ どうやって？
25	一宮美術作家協会展2025
26	「カイコ録」水田雅也 他
27	OBARA PAPER SCAPE 2025「山のアルス 紙へのまなざし」
28	近藤隆弘個展
29	景色のいまいけ
30	第17回いけばなスペース花展
31	原歩『GIRLS' WAR ~ IF I WERE YOU, / わたしはあなたになれないけれど〜』
32	アイロンビーズ アート展「ぼくの好きな街」
33	葉栗里 個展「Wavering Tales」
34	小原瀬戸芸術祭 2025
35	長谷川崇平 個展・林 柚里 個展
36	平和をテーマとした陶作品の展示と平和を考えるシンポジウム
37	鈴木 守『Composition トンネルとアイコン』
38	滲む気色 高橋美穂展
39	清須市はるひ絵画トリエンナーレ アーティストシリーズ+ 対話する風景
40	ゲンダイアートノキセキ
41	廻りめぐる営みの跡～有松に見る～
42	中野岳 個展「止まったふりをして」
43	犬山フルまちミュージアム2025企画展「TARO EXPLODED 若い太陽の塔と対立の交差点」
44	サクラデファミリア(林裕己+岡庭智子)『表現と家族』展
45	最後の晩餐…かもしれない展

—	プログラム名
46	Un/Fold たたむ／ひらく
47	荻須高德リトグラフ展—稲沢市荻須記念美術館コレクション—
48	第22回 とよはし街かど文化祭 sebone
49	まち NAF2025
50	藤原史江 個展
51	いけばなストリート展2025
52	対話と五感と庭
53	有松ミチアカリ2025
54	外国人芸術作品展・Foreign Artists Exhibition
55	「たゆたう日陰」～空想と現実のあいまに
56	OVERTURE
57	凧山ギャラリー遊々
58	SOLASTALGIA/ソラストルジア
59	ART garden ANJO 2025「ルナールまがひの親愛」
60	安藤尚成展
61	YURI Inoue artworks 2025 『カラージャーナル』 - 色に溶けてゆく記憶達 -
62	LOOK
63	After Death, Something Else
64	紅葉のおもてなし
65	CBC が選ぶ新鋭作家展2025
66	アートプロジェクト「朝顔 morning glory」中村愛音
67	Ai アートなインクルージョン物語展2025
68	アイチアートブックフェア
69	Alternative Rice Field
70	愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURA 展覧会
71	名古屋造形大学美術表現領域 展示プロジェクト2025
72	JAM クロ(ジャム Croquis)
73	日韓国交正常化60周年記念公演 伝統と現代 Tradition and Contemporary～未来へ紡ぐ
74	第34回 創作舞踊公演 花心遊創 ～花を踊る～
75	鈴木ユキオプロジェクト「あなたは静かなのがすき」
76	イ・ラン: ジャパン・ツアー2025「SHAME」名古屋公演
77	ピーピング・トム『トリプティック』

—	プログラム名
78	ダンス・加藤おりは+独吟連句・馬場駿吉 『詩劇新ロミオとジュリエット～荒廃は繁栄の母か～』
79	空焼-sorayaki - ついに空も作品に
80	文化の家野外劇場 vol.2宵祭『KONTON』
81	新境地 2025 私の哲学 幽玄の扉
82	双身機関第29回公演 創立30周年記念公演 「しあわせな日々」
83	文化の掘り起し、未来と繋ぐ 伝統芸能「あいち 2025」にむけて at ビル与白
84	ゆかりバレエ創立35周年記念公演
85	農村舞台アートプロジェクト2025 World Roots Culture in Fujioka
86	せとものの歴史が音になる、未来が動き出す
87	Metamorphosis III
88	カロタセグの灰と薔薇 Hamvak és rózsák Kalotaszegen
89	七ツ寺企画 ガザ・モノローグ2023/2024
90	手塚治虫作品に見る未来の世界

(4) 芸術祭等との連携

- ・ 他の芸術祭や文化イベントと連携して、相互 PR を行った。

■ 芸術祭等との連携一覧

芸術祭等名	会期等	主な連携内容
瀬戸内国際芸術祭2025	春会期:4月18日(金)～5月25日(日) 夏会期:8月1日(金)～8月31日(日) 秋会期:10月3日(金)～11月9日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ メイン会場である高松港総合案内所にて「あいち2025」のポスター及びチラシを設置 ・ 公式サイト相互掲載
森、道、市場2025	5月23日(金)～5月25日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場のラグーナテンボス・ラグナシア遊園地プールへの作品展示(「あいち2025」参加アーティスト・久保寛子) ・ 遊園地エリアにて「あいち2025」PRブースの出展
愛知万博20周年記念事業「愛・地球博20祭」	作品展示期間:6月25日(水)～9月1日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場の愛・地球博記念公園への作品先行展示(「あいち2025」参加アーティスト・ワンゲシ・ムトゥ)
Tokyo Gendai	ヴェルニサージュ: 9月11日(木)17:00～20:00 一般公開日: 9月12日(金)11:00～18:00 9月13日(土)11:00～18:00 9月14日(日)11:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポスター及びチラシの相互設置 ・ Tokyo Gendai の SNS にて「あいち2025」を投稿 ・ 「あいち2025」公式サイトにて Tokyo Gendai を掲載
岡山芸術交流2025	9月26日(金)～11月24日(月・振休) 休館日:月曜日(10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)、11月24日(月・振休)開館、10月14日(火)、11月4日(火)休館)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「六本木アートナイト2024」(2024年9月27日～9月29日)にて共同 PR ブース出展 ・ 岡山芸術交流2025にて「あいち2025」のポスター及びチラシを設置 ・ 公式サイト相互掲載
舞台芸術祭「秋の隕石2025 東京」	10月1日(水)～11月3日(月・祝)	<ul style="list-style-type: none"> ・ チラシの相互設置 ・ 「あいち2025」公式サイトにて舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」を掲載
SOCIAL CASTLE MARKET2025	10月4日(土)、10月5日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ チラシの設置
SOCIAL TOWER MARKET2025	11月8日(土)、11月9日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラジオ DJ ブースで「あいち2025」の PR ・ 会場のオアシス21の大地の広場にてラッピングカーの展示

(5) コラボレーションショップ

- ・「あいち2025」との期間限定のコラボレーションショップとして「TEMPORA(テンポラ)」(愛知芸術文化センター地下2階 アートショップ跡地)と「LIVERARY Extra Season5(ライブラリー エクストラ シーズンファイブ)」(瀬戸市のまちなか せと末広町商店街内)を出店した。

■ コラボレーションショップ一覧

店舗名	開設期間	備考
TEMPORA(テンポラ)	9月13日(土)～11月30日(日)	「あいち2025」と名古屋の bookshop & gallery 「ON READING(オン・リーディング)」のコラボレーションショップ。店内にギャラリースペースとドリンクスタンドなどを設け、東海圏で活動するアーティスト4組の展示や、東海圏の飲食店を日替わりでポップアップ出店した。
LIVERARY Extra Season5 (ライブラリー エクストラ シーズンファイブ)	9月13日(土)～11月30日(日)	「あいち2025」と名古屋拠点のローカル／カルチャーWEB マガジン「LIVERARY(ライブラリー)」のコラボレーションショップ。平山昌尚、大橋裕之ほか全国各地のアーティストやクリエイターとのコラボグッズやオリジナルアイテムをセレクトし販売。また、ゲストアーティストやショップをく特集する店内ポップアップや展示企画を店内外で実施した。



Photo: ToLoLo studio

TEMPORA
(テンポラ)



Photo: ToLoLo studio

LIVERARY Extra Season5
(ライブラリー エクストラ シーズンファイブ)

(6) 市民団体等との連携

- 国際芸術祭「あいち」の開催目的である「文化芸術の日常生活への浸透」及び「地域の魅力の向上」を図るため、以下のとおり市民団体等との連携事業を行った。

連携団体	事業名	期間	事業内容
あい撮りカメラ部	「あいち2025」の記録撮影及び写真とSNSを利用した国際芸術祭「あいち」の情報発信事業	9月13日(土)～11月30日(日)	写真撮影ボランティアを母体とする市民団体であり、これまで写真や動画等を用いて「あいちトリエンナーレ」、国際芸術祭「あいち」の記録撮影・情報発信を続けてきたあい撮りカメラ部により、「あいち2025」の開催風景やイベントの様子などの撮影、写真とSNSを利用した国際芸術祭「あいち」の情報発信が行われた。
大ナゴヤツアーズ	あいち せともの体感ツアー	瀬戸本業窯 & 瀬戸民芸館 11月3日(月・祝) 株式会社加仙鉦山 10月24日(金) 11月30日(日)	地元在住の方を対象にまち歩きツアーなどを開催している大ナゴヤツアーズとコラボレーションし、「あいち2025」の瀬戸市のまちなか会場において、アートを巡りながら「あいちのものづくり」を体感できる2つのツアーを開催した。

5 その他

(1) 企業・団体等からの協賛・協力

- ・ 企業、団体及び個人（以下、企業等）から、寄付、チケット購入、人材派遣、物品・サービス、展示場所の提供など、124件の支援を得た。

■ 協賛等の内容

種類		対応等	支援件数
協賛	寄付	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公式ガイドブック等の印刷物や公式Webサイトへ企業名またはロゴを掲載した。 ・ レセプションへの招待などを行った。 ・ 愛知県外に本社を置く企業は、愛知県に寄付をすることで、企業版ふるさと納税の適用を受け、損金算入による軽減効果に加え、税額控除による軽減効果を受けることができる。 ・ 公益社団法人企業メセナ協議会を通じた寄付は、法人税法上、一般の寄付金の損金算入限度額とは別枠で、損金限度額まで算入することができる。 	48件
	チケット購入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10万円以上まとめて購入の場合は、通常の前売り価格よりも廉価な特別販売券を提供した。 ・ チケット購入価格を「協賛区分」に当てはめて、各種広報媒体への企業名またはロゴの掲載及び特典の対応を行った。 	48件
	物品提供 (金額換算できるもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アーティストの作品制作に必要な物品やセレモニー及びボランティア用の飲料等の提供については、その料金を市場価格により現金換算し、換算価格の2分の1を「協賛区分」に当てはめて、各種広報媒体への企業名またはロゴの掲載や特典の対応を行った。 	2件
	サービス提供 (金額換算できるもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広告スペースの提供や会場使用料の減免、作品制作に係る機材の貸与等、サービスを提供の場合はその料金を市場価格により現金換算し、換算価格の2分の1を「協賛区分」に当てはめて、各種広報媒体への企業名またはロゴの掲載や特典の対応を行った。 	8件
	人材派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費に応じて、各種広報媒体への企業名またはロゴの掲載や特典の対応を行った。 	1件
特別協力	国際芸術祭あいちへの協力 (一定の基準を満たしたもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金額換算が可能で、「協賛」区分にはなじまない協力のうち、会長が必要と認めたものについて、各種広報媒体への企業名またはロゴに掲載及び特典の対応を行った。 	1件
協力	作品制作・展示等への協力 (一定の基準を満たしたもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種広報媒体への企業名の掲載を行った。 	5件
会場提供	まちなかの展示スペース等の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種広報媒体への企業名またはロゴの掲載を行った。 	7件
有償広告掲載		<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業等と組織委員会が有償広告の掲載に係る契約を結び、ガイドマップの有償広告スペースに企業等の広告を掲載した。 ・ 企業等が広告宣伝費として処理すれば、法人税法上、損金に算入することができる。 	4件
計			124件



企業名またはロゴの掲示(愛知芸術文化センター10階会場内パネル)

(2) 旅行会社・ホテル等との連携

- ・ 旅行会社と連携し、チケットと新幹線等がセットになったツアーを造成し、計176名の利用があった。また、旅行会社が造成したバスツアーが計13件、319名の利用があった。
- ・ 名古屋市内18か所、瀬戸市内1か所、常滑市内1か所のホテルと連携し、チケット付宿泊プランやフロントでのチケット販売を実施し、合計で276件の利用があった。
- ・ 愛知・名古屋・東海地方方面への旅行パンフレット等に、国際芸術祭「あいち」の情報を掲載した。
- ・ 百貨店友の会や互助会等と連携し、チケットの委託販売や機関誌等での広報を実施した。

(3) 会場周辺店舗等との連携

- ・「あいち2025」会場としての一体感のある盛り上げやにぎわいを創出するとともに、来場者へのおもてなし・サービス向上のため、会場周辺の店舗等と連携を図った。
- ・各会場周辺の店舗等が「おもてなし店舗」として参加し、現代美術展チケットを提示した方への限定サービスや特別メニューを提供いただいた。
- ・愛知芸術文化センター：3店舗、愛知県陶磁美術館周辺：6店舗、瀬戸市のまちなか：37店舗、その他瀬戸市内：14店舗、ポップ・アップ！会場：3店舗
- ・会場市との連携により作成したマップ及びデジタルマップに、「おもてなし店舗」を、展示場所の情報とともに掲載した。
- ・店舗には、「おもてなし店舗ロゴマーク」のステッカーを配付するとともに、「おもてなし店舗ロゴマーク」「おもてなし商品ロゴマーク」のデータを配付した。



「あいち2025」瀬戸おもてなしマップ
(発行：瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会)



おもてなし店舗ロゴマーク

(4) 会場運営

- ・ 展示場所やインフォメーション等にスタッフを配置したほか、来場者案内等においてボランティアの協力を得るなど、会場内の利便性向上に努めた。
※ボランティアについては、45ページ「ボランティアプログラム」を参照
- ・ 各会場で救護スペースの確保や医療従事者への相談体制を整えた。
- ・ 乳児や未就学児連れの方にも気軽に来場いただけるよう、愛知芸術文化センター8階に授乳スペースを設置したほか、愛知芸術文化センター12階において託児サービスを実施した。

■ インフォメーション

- ・ 愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか会場（旧小川陶器店）にインフォメーションを設置し、「あいち2025」に関する来場者からの様々な問合せ等に対応したほか、チラシや公式ガイドマップの配架、イベント情報の掲出など情報発信を行った。
- ・ 「あいち2025」に関する問合せに対応するため、組織委員会事務局内にコールセンターを設置した。

■ チケット販売

- ・ 各会場インフォメーションに加え、瀬戸市のまちなか会場では瀬戸市新世紀工芸館、旧瀬戸市立深川小学校、旧日本鉱泉、瀬戸市美術館、瀬戸観光案内所にチケット販売所を設置し、現代美術展チケット（会期中販売券）の販売を行った。

■ バリアフリー対応

- ・ 身体等に障害をお持ちの方にも来場いただき、現代美術等に触れていただけるよう、会場内のバリアフリー対策を実施した。
- ・ 各会場のバリアフリー対策情報を公式Webサイトやデジタルマップに掲載し、来場者に周知した。

<p>会場内の バリアフリー対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場内の段差を解消するため、簡易スロープやゴムマットを配備した。 スロープ 【愛知芸術文化センター】8階ライトコート（中庭） 【瀬戸市のまちなか】梅村商店、旧瀬戸市立深川小学校、旧日本鉱泉、無風庵 ・ ゴムマット 【愛知県陶磁美術館】茶室「陶翠庵」 ・ 各会場において、介助や案内を必要とする方に対応するため、介助スタッフの会場巡回を委託した。（委託先：社会福祉法人AJU自立の家） ・ 車椅子の入れるスペースがない、入り口の段差が高くて展示室内に入れないなど、車椅子等をご利用の方の鑑賞が難しい展示作品については、各会場インフォメーションに配備したタブレット端末により作品の写真や動画、360度カメラで撮影した映像・画像を利用した展示場所のVR体験を提供した。
<p>ガイドツアー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚、聴覚に障害のある方を対象に、ボランティア等によるガイドツアーを実施した。 ※ガイドツアーについては、38ページ「アクセシビリティプログラム」を参照
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無料配布した公式ガイドマップに、多機能トイレの設置場所やスロープの有無などのバリアフリー情報を掲載した。 ・ デジタルマップ上にある展示作品のスポット情報や各会場の作品解説にある二次元コードをスマートフォン等で読み取ることで、解説文の音声読み上げ機能を利用できるようにした。

■ 会場サイン

- ・ キービジュアルやタイプセットを活用したサイン計画を策定し、各会場の屋内外に来場者誘導のためのサインを設置した。



愛知芸術文化センター2階西玄関 Photo: ToLoLo studio



オアシス21地下連絡通路 Photo: ToLoLo studio



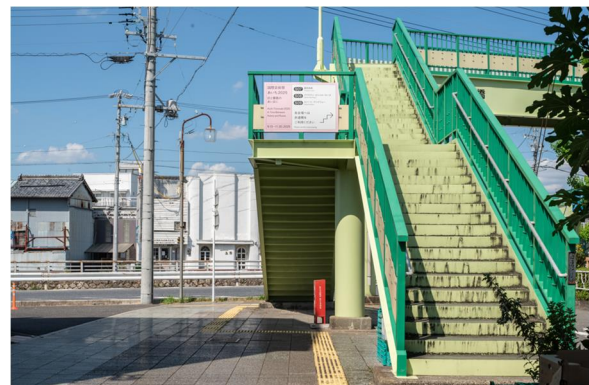
愛知県陶磁美術館 本館壁面 Photo: ToLoLo studio



愛知県陶磁美術館 本館入口付近 Photo: ToLoLo studio



パーティセト



歩道橋に設置した誘導サイン Photo: ToLoLo studio

■ ユニフォーム

- 各会場の運営スタッフ及び服装にレギュレーションのないスタッフ、ボランティアスタッフの着用するTシャツは、来場者がそれぞれのスタッフを直感的に認識できるような色やデザインとした。また、全てのスタッフがスタッフ証を着用することで、国際芸術祭としての統一感も図った。



運営スタッフTシャツ

ボランティアスタッフTシャツ



コーチジャケット



スタッフ証

(5) 会場間輸送

- ・ 来場者へのサービス向上を図るため、「愛知県陶磁美術館」会場と「瀬戸市のまちなか」会場間の移動手段として、土日祝日のみ運行している既存の路線バスを会期中の平日も運行した。
- ・ 車体にはキービジュアルを使用したラッピングを施し、「動く広告塔」として PR 面でも大きな効果を果たした。

運行区間	瀬戸駅前(名鉄尾張瀬戸駅)～(陶磁美術館)～愛・地球博記念公園駅	
運行日	愛知県陶磁美術館会場の休館日を除く毎日	
運行時間	平日 1日4往復 9:50～15:45の間	土日休日 1日5往復 8:49～16:53の間
運賃	大人410円 小人210円(瀬戸駅前～陶磁美術館の片道運賃)	
利用者数	3,956人(※陶磁美術館での乗降者数)	



「あいち2025」のキービジュアルを配したラッピングバス

(6) 広報・PR

■ パブリシティ実績

- 多くの新聞、テレビ等のメディアを通じて広く情報が発信され、確認できたパブリシティ件数は1,319件であった。

種別	掲載・放映件数	内訳		
		全国	地方	海外
新聞	119件	51件	67件	1件
雑誌	80件	43件	25件	12件
テレビ	36件	1件	35件	0件
ラジオ	16件	1件	14件	1件
Web	1,068件	国内：912件		156件
計	1,319件	1,149件		170件

※2023年4月から2025年12月までの件数

■ 記者等への情報提供

- 企画内容や参加アーティスト等の主要な情報が決定した際に記者会見を開催したほか、海外への情報発信や、記者クラブ等への情報提供を行った。

○ 記者会見

- 愛知県内で5回の記者会見を開催し、芸術監督やキュレーターによる企画概要の説明を行った。

	開催日	会場	主な発表内容	参加社数
1	2023年7月27日(木)	愛知芸術文化センター 12階 アートスペース A	芸術監督就任	26社 (32名)
-	2023年10月26日(木)	(資料配布)	会期・会場	-
2	2024年2月1日(木)	愛知芸術文化センター 12階 アートスペース A	テーマ・コンセプト、参加アーティスト(第1弾)	31社 (42名)
3	2024年9月12日(木)	愛知芸術文化センター 12階 アートスペース A	参加アーティスト(第2弾)、キービジュアル	22社 (30名)
-	2月26日(水)	(資料配布)	全参加アーティスト等	-
4	5月30日(金)	愛知芸術文化センター 12階 アートスペース A	プログラムの全体概要・チケット等	39社 (62名)
5	9月12日(金)	愛知芸術文化センター 12階 アートスペース A	開幕発表	112社 (144名)

- ・ 記者会見の他、東京で3回、芸術監督やキュレーター等によるマスメディアへの説明の場を設けた。

	開催日	会場	主な発表内容	参加社数
1	2月2日(日)	東急歌舞伎町タワー (東京都)	芸術監督・会期・会場・テーマ・ 参加アーティスト(第1弾)	17社 (17名)
2	6月3日(火)	コンファレンススクエア M+(東京都)	プログラムの全体概要	21社 (23名)
3	7月15日(火)	有楽町アートアーバニ ズム(東京都)	パフォーミングアーツ プレス説 明会	8社 (15名)

- ・ 閉幕日(11月30日)に、愛知芸術文化センター10階の愛知県美術館で、会長及び愛知県知事による来場者へのお見送りを実施した。

	開催日	会場	主な発表内容	参加社数
1	11月30日(日)	愛知芸術文化センター 10階 愛知県美術館	閉幕における来場者へのお見 送り	3社 (5名)

○ 海外向け情報発信

- ・ 海外の美術専門家に確実に情報が届くよう、次の媒体により情報発信を行った。

● International Biennale Association(IBA)(国際ビエンナーレ協会)

- ・ 世界各国のビエンナーレやトリエンナーレなどの国際現代美術展に関わる団体や個人(ディレクターやキュレーター)が会員として運営されている「国際ビエンナーレ協会」に会員登録し、当協会の公式 Web サイトから情報配信を5回実施した。

<Webニュース配信概要>

	—	配信日	主な発表内容
1	2023年7月5日記者発表後	2023年7月6日	芸術監督就任
2	2023年10月26日記者発表後	2023年11月3日	会期・会場
3	2024年2月1日記者会見後	2024年2月22日	テーマ・コンセプト、参加アーティスト(第1弾)
4	2025年2月26日記者発表後	2025年2月27日	全参加アーティスト
5	2025年5月30日記者会見後	2025年6月20日	プログラム全体概要

● e-flux

- ・ e-flux は、現代アートに関する世界的なオンラインプラットフォームである。次のとおり情報配信を実施した。

	—	配信日	主な発表内容
1	2025年2月26日記者発表後	2025年2月26日	全参加アーティスト
2	2025年9月12日記者会見後	2025年9月13日	閉幕

● 海外のアートフェアでの PR

- ・ 2024年11月7日～10日に、ドイツのアートフェア「アート・ケルン2024」において PR ブースを出展したほか、2025年3月には香港で開催されたアジア最大のアートフェア「アート・バーゼル香港2025」での PR を行った。

ー	アートフェア名	期間	主な実施内容
ドイツ	アート・ケルン2024	2024年11月7日～10日	・ 「あいち2025」PR ブースの出展
香港	アート・バーゼル香港2025	2025年3月28日～30日 (うちマユンキキのパフォーマンスは3月28日のみ)	・ マユンキキ(「あいち2025」参加アーティスト)によるパフォーマンス & トークの実施 ・ The Art Newspaper にて記事広告及び紙広告の展開(会場内で配布)

○ 記者への情報提供

- ・ 2023年7月から2025年12月1日までに、愛知県政記者クラブ及び中部芸術文化記者クラブを中心に、計67回の資料配付を行った。また、同時に公式 Web サイトにも掲載した。
- ・ 記者会見の開催にあわせて、企画内容や参加アーティスト等の主要な情報を掲載したプレスリリース冊子を作成し、出席メディアや関係者に配布した。また、公式Webサイトのプレス向け情報ページにも掲載した。

■ 取材への対応

- ・ 芸術監督、キュレーター、アーティスト等へのインタビューのコーディネート、立ち合い(対面、オンライン)、作品解説や会場案内を行うなど、取材内容によって個別に対応した。
- ・ 内覧会開催日(9月12日)から閉幕日(11月30日)までに、国内外からの399件の会場取材に対応した。

○ 取材件数

● メディア別・時期別取材件数

(単位: 件)

	プレスツアー 9/12-13	内覧会 9/12	9/13-30	10/1-15	10/16-31	11/1-15	11/16-30	計	割合
新聞	30	4	13	20	5	10	14	96	24.1%
雑誌	22	11	14	5	5	9	5	71	17.8%
テレビ	0	8	10	0	3	1	0	22	5.5%
ラジオ	0	2	0	3	1	0	0	6	1.5%
Web	53	23	36	24	3	7	13	159	39.8%
その他	17	7	8	5	0	2	6	45	11.3%
計	122	55	81	57	17	29	38	399	100.0%
割合	30.6%	13.8%	20.3%	14.3%	4.3%	7.3%	9.4%	100.0%	

● メディア別・地域別取材件数(プレスツアーを除く)

(単位:件)

	県内	県外	海外	計	割合
新聞	53	12	1	66	23.8%
雑誌	12	26	11	49	17.7%
テレビ	20	2	0	22	7.9%
ラジオ	4	2	0	6	2.2%
Web	37	46	23	106	38.3%
その他	9	17	2	28	10.1%
計	135	105	37	277	100.0%
割合	48.7%	37.9%	13.4%	100.0%	

○ プレス証の発行

- ・ 会場への入場が必要となる取材にはプレス証を発行した。
- ・ 内覧会開催日(9月12日)から閉幕日(11月30日)までに、プレス証を発行した報道関係者は551人であった。

● メディア別・時期別プレス証発行件数

(単位:件)

	プレスツアー 9/12-13	内覧会 9/12	9/13-30	10/1-15	10/16-31	11/1-15	11/16-30	計	割合
新聞	48	6	14	22	5	11	14	120	21.8%
雑誌	31	13	20	5	5	13	5	92	16.7%
テレビ	0	23	26	0	9	1	0	59	10.7%
ラジオ	0	2	0	8	3	0	0	13	2.4%
Web	60	32	47	29	4	7	14	193	35.0%
その他	35	12	11	5	0	3	8	74	13.4%
計	174	88	118	69	26	35	41	551	100.0%
割合	31.6%	16.0%	21.4%	12.5%	4.7%	6.4%	7.4%	100.0%	

● メディア別・地域別プレス証発行取材件数(プレスツアーを除く)

(単位:件)

	県内	県外	海外	計	割合
新聞	58	13	1	72	19.1%
雑誌	12	34	15	61	16.2%
テレビ	56	3	0	59	15.6%
ラジオ	11	2	0	13	3.4%
Web	48	61	24	133	35.3%
その他	15	22	2	39	10.4%
計	200	135	42	377	100.0%
割合	51.3%	35.8%	11.1%	100.0%	

○ プレスツアーの実施

- ・ 報道関係者向けに、内覧会開催日(9月12日)及び開幕日(9月13日)に、芸術監督はじめキュレーター等が各会場で作品を解説するプレス向けのバスツアー(国内プレス:大型バス2台、海外プレス:大型バス1台)を実施し、2日間で延べ174名(国内:105名、海外69名)が参加した。

○ プレスルームの設置

- ・ 9月12日から16日までの5日間、愛知芸術文化センター12階アートスペースE・Fにプレスルームを設置した。
- ・ プレスルームには複数のスタッフが常駐し、当日取材申請の受付、プレス証の発行、プレスキットの配付、イベント・会見告知、打合せスペース、Wi-Fi通信環境、荷物一時預かりなどのサービスを提供した。

■ 広報用印刷物

- ・ 「あいち2025」全体を広報するものから現代美術展、舞台芸術、ラーニング等それぞれの分野を広報するものまで、計73種類を作成した。

● 印刷物全体

種別	種類	数量
チラシ、リーフレット	50	1,147,620
ポスター	17	9,725
リリース資料	5	4,600
発送用資材	2	3,000
計	74	1,164,945



全体ポスター(2025年8月制作)

■ PR 動画

- ・ 「あいち2025」を PR するために、開催概要、会場の映像、参考作品画像、アーティストの制作風景、展示風景等を盛り込んだ動画を制作した。また、生成 AI を活用したアニメーションやドローンを活用した撮影など、現代の映像制作・撮影手法を大いに取り入れた。
- ・ SNS での投稿を重視したため、SNS の属性に合わせて、縦型動画、横型動画を制作した。また、交通広告での展開も実施したため、基本となる本編動画を再編集して対応した。
- ・ 開幕前広報用5種類(6本)、開幕中広報用4種類(6本)、会期後半広報用1種類(5本)、ラウンドテーブルアーカイブ2種類(4本)、アーティストリレートークアーカイブ9本、巡回展示「ポップ・アップ！」ダイジェストビデオ1本の合計31本のプロモーション動画を制作した。
- ・ ベースとなるプロモーションビデオは、会場編(開幕前)、メイキング編(開幕日)、ダイジェスト(会期後半)に分けて展開した。特に、メイキング編は、開幕に向けて同時進行でアーティストの作品制作・準備が進んでいる様子を、ダイジェスト版は、その同時進行している状況が芸術監督の号令で一気に放出された様子を映像で表した。

- その他、委託業者からの自主提案により、作品鑑賞補助として VR 映像等を3会場のインフォメーションに配備した。また、VR 映像を愛知県庁本庁舎公開イベントでも特別に活用し、本展への集客につなげた。さらに、巡回展示「ポップ・アップ！」ダイジェストビデオも制作した。
- 例年、ダイジェスト映像を会期後に公開していたが、「あいち2025」では会期内に公開し、SNS 広告も同時に行い、本芸術祭に足を運んでいただけるように工夫した。

区分	内容
Webサイト	「あいち2025」公式Webサイト
SNS	「あいち2025」公式SNS
YouTube	国際芸術祭「あいち」公式YouTubeチャンネル
公共施設等のモニター	愛知芸術文化センター、中部国際空港、各種鉄道構内広告、市町村窓口等
せともの祭での放映	大型ビジョンカーで放映



公式 Web サイトトップページへの PA 動画の埋め込み



VR 視聴（作品鑑賞補助）のイメージ写真



「あいち 2025」公式ダイジェストビデオ

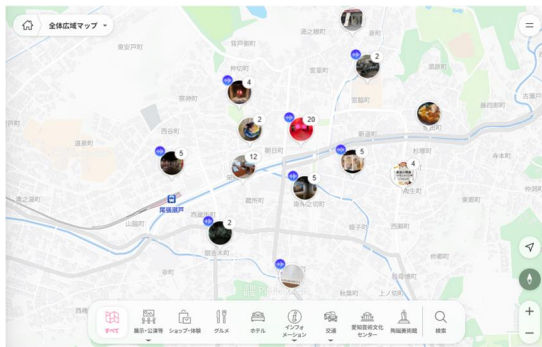


せともの祭ビジョンカー広告

■ デジタルマップを用いた広報

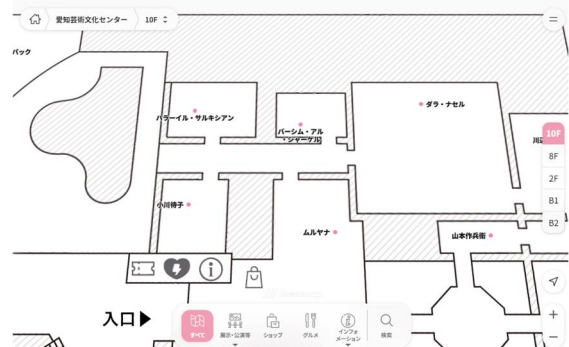
- ・ 各種情報をデジタル形式で提供する地図として、デジタルマップを実装した。
- ・ デジタルマップには、展示内容の紹介だけでなく、連携事業やオフィシャルグッズショップ、飲食店等、芸術祭に協力するおもてなし店舗、連携ホテルなどの情報も幅広く掲載し、来場者の周遊促進が図れるよう、整備し、公開した。
- ・ まちなかに掲示している誘導サインにもデジタルマップの二次元コードを配置した。
- ・ 生成 AI を活用し、展示作品の作品解説を読み上げる、音声読み上げ機能も搭載した。

全体広域マップ



主に瀬戸市のまちなかの作品を掲載。展示作品の他、連携企画プログラム・パートナーシップ・プログラム、巡回展示「ポップ・アップ！」などの情報も網羅した。

愛知芸術文化センターフロアマップ

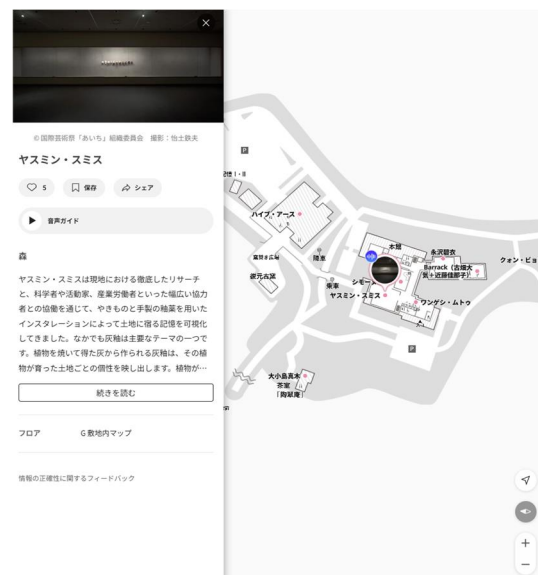


愛知芸術文化センターの作品を掲載。ガイドマップで使用しているフロアマップ(10階・8階・2階・B1階・B2階)を活用した。

愛知県陶磁美術館フロアマップ



愛知県陶磁美術館の作品を掲載。ガイドマップで使用している敷地内マップ、本館内のフロアマップを活用した。画像右は、作品情報の画面。



■ Web を用いた広報

- ・ 公式 Web サイトを中心に、SNS (Instagram、X (旧 Twitter)、Facebook) を積極的に活用して即時性の高い情報発信を行った。
- ・ 公式 Web サイトは、スマートフォン利用者の拡大に伴い、「スマホファースト」の仕様とすべく、サイト構造やユーザーインターフェイスの設計・デザインを行った。実際に、閲覧者の約8割がモバイル系 OS からのアクセスであった。
- ・ 公式 Web サイトからの離脱率の低下及びサイト内周遊のしやすさの向上のため、グローバルナビゲーションの見やすさと、ページ内リンクの徹底などを実施し、サイト内のクリック数の最小化に取り組んだ。
- ・ トップページにイベントピックアップや Web バナーを実装し、おすすめの情報をきめ細かく発信した。
- ・ 本組織委員会のステートメントをトップページで自動表示するように設定し、本組織委員会としての姿勢を明確にした。

○ 公式 Web サイト

- ・ 会期中 (9/13～11/30) の公式 Web サイトの表示回数は、1,253,275※ (セッション数が507,729セッション※) であった。※表示回数: 閲覧されたページの合計回数 (クリック単位)、セッション数: サイトへの訪問回数 (人単位)

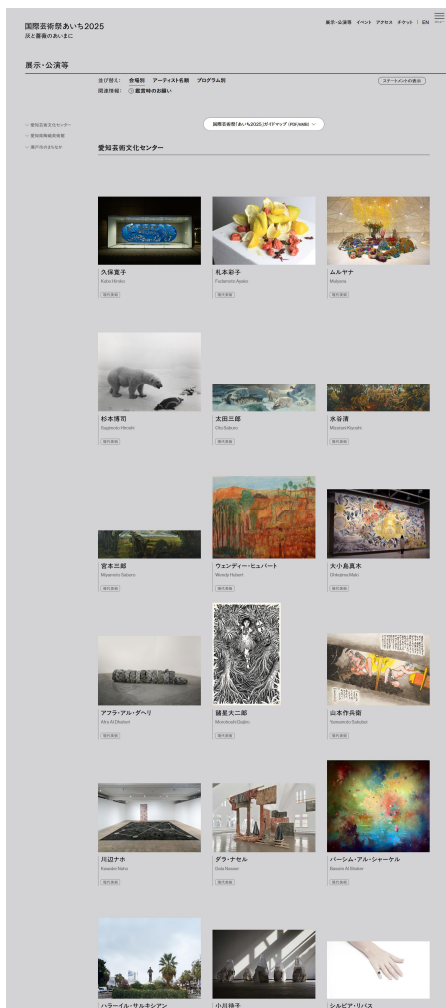
トップページ



トップページに自動表示させたステートメント



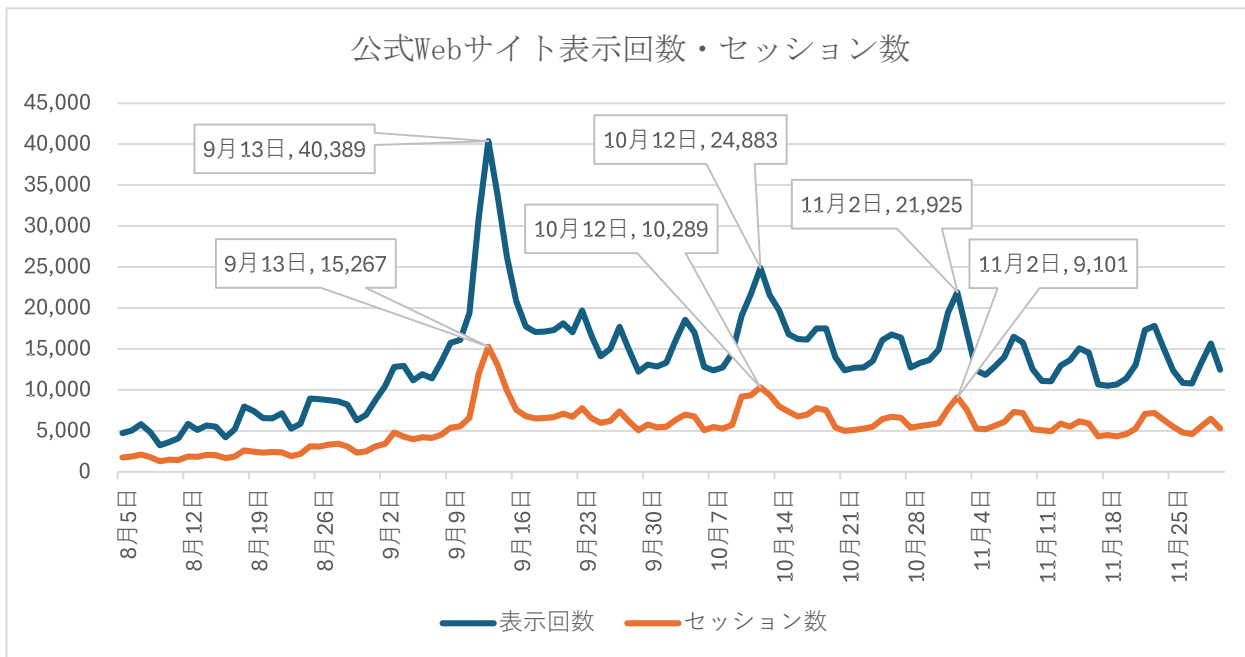
展示・公演等



イベント一覧



■ 表示回数・セッション数の推移



○ Webサイト広告

- ・ 2023年4月から2025年12月までの記事掲載などの広告出稿の合計は23件（国内23件、海外0件）であった。

○ 公式SNS

- ・ 開幕前の準備の様子や開幕後のニュース、イベント情報、緊急のお知らせなどをリアルタイムで配信した。
- ・ 近年、国内外でアクティブユーザーが増加している、Instagramでの情報発信に最も力を入れた。

● Instagram

- ・ [基本概要 (2026年1月31日現在)]
 アカウント開設日: 2020年11月16日
 フォロワー総数: 18,082
 投稿数: 476件 (2023年4月1日～)



● X (旧 Twitter)

- ・ [基本概要 (2025年11月30日現在)]
- アカウント開設日: 2020年11月17日
- フォロワー総数: 5,136
- 投稿数: 1,037件 (2023年4月1日～2026年1月31日)



● Facebook

- ・ [基本概要 (2026年1月31日現在)]
- アカウント開設日: 2020年11月17日
- フォロワー総数: 2,048
- 投稿数: 493件 (2023年4月1日～)



● YouTube

- ・ [基本概要 (2026年1月31日現在)]
- アカウント開設日: 2021年5月28日
- チャンネル登録者総数: 804
- 投稿総数: 24件
- 合計再生回数: 46,298回 (2023年4月1日～)
- 総再生時間: 2,658.4時間 (2023年4月1日～)



■ 愛知県、市町村、交通機関等と連携した広報・PR

- ・ 愛知県、愛知県内の市町村、交通機関、その他団体等と連携し、各種広報活動を行った。

○ 愛知県、市町村との連携

区分	主な内容
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞内「広報あいち」への掲載(4回) ・ テレビ番組「まるまる◎あいち」「村上佳菜子の週刊愛ちっち」等での放送(5回) ・ ラジオ番組「AICHI SUNDAY TIPS」「あいち県政リポート」等での放送(5回) ・ 「愛知県公式動画チャンネル」へPR動画・情報掲載 ・ 広報資料「愛知だより」への掲載(4回) ・ 広報掲示板デジタルサイネージでのPR動画放映 ・ 知事記者会見用バックボードへの掲出 ・ 名古屋テレビ主催「ドデ祭」、東海テレビ主催「イッチー祭」での広報物配布 ・ NEXCO中日本高速道路エリア内SA、PA のマルチインフォメーションボード(電子掲示板)(87箇所) ・ 愛知のあゆみ掲載 ・ 2025年版愛知県手帳とのコラボレーション ・ Aichi Sky Expoでのプロモーションビデオ放映 ・ あいち県民の日連携事業としてPR ・ 愛知県図書館文化講座2025第3回国際芸術祭「あいち2025」キュレータートーク ・ 東京事務所ショーウィンドウでのポスター掲示、PV放映、フラッグ展示、ステッカー配布 ・ 県観光サイト「Aichi Now」へ芸術祭情報を掲載 ・ 旅ろっ愛知 ポスター掲載 ・ ジブリパーク周遊観光促進事業 インフルエンサーツアー ・ 大阪・関西万博 「あいち・なごやフェスタinEXPO」チラシ・カタログ出展
瀬戸市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報せとへの掲載(8回) ・ 広報せとへのチラシ折込 ・ 銀座通り商店街への横断幕設置 ・ せと末広町商店街への横断幕設置 ・ 瀬戸蔵・瀬戸市役所への横断幕設置 ・ 街灯へのフラッグ設置 ・ 瀬戸市9月定例議会キャプション ・ せともの祭チラシへの広告掲載 ・ 招き猫まつりチラシへの情報掲載 ・ 瀬戸市広報番組(ケーブルテレビ、ラジオ)での放送 ・ タクシーツアー
豊田市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報とよた、豊田市公式SNS、豊田市政番組「とよたNOW」、豊田市公式Webサイトで芸術祭情報や「ポップ・アップ!」の告知を掲載 ・ 「ポップ・アップ!」会期中に「あいち2025」のテーマ「灰と薔薇のあいまに」をイメージしたお菓子とコーヒーのセットを販売
設楽町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報したら、設楽町公式Webサイトで芸術祭情報や「ポップ・アップ!」の告知を掲載 ・ 「ポップ・アップ!」会期中に、米麴を練り込んだソフトクリーム、酒粕を餌に食べ育った黒毛和牛の肉まん、お酒の仕込み水で淹れたコーヒーなどを提供する関谷醸造株式会社(設楽町)のキッチンカーが出店

<p>大府市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報おおぶ、大府市公式SNS、大府市公式Webサイトで芸術祭情報や巡回展示「ポップ・アップ！」の告知を掲載 ・ 大府市長8月定例記者会見で「ポップ・アップ！」の全体概要を発表 ・ カフェ「KURUTOおおぶ」にチラシを配架。さらに同店がおもてなし店舗として連携し、「あいち2025」のテーマ「灰と薔薇のあいまに」にちなんだ特製ティラミス「ザクロと炭の香り」を販売 ・ 開幕日に大府記者クラブ等向けの学芸員による解説ツアーを実施
<p>豊川市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報とよかわ、豊川市公式Webサイトで芸術祭情報や「ポップ・アップ！」の告知を掲載 ・ 「ポップ・アップ！」会期内の11月15日・16日に、SNS等で本展をPRしてくれた観覧者に、名産のバラを配布（各日先着75名）
<p>その他市町村</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村広報誌への掲載（2024年度16市町村、2025年度26市町村） ・ 市町村窓口等のモニターでのPR映像の放映（2025年度7市町村） ・ 市町村公式SNSでのPR投稿（2025年度8市町村） ・ 文化イベント等でのチラシ配布（2025年度29市町村）

○ 交通機関との連携

区分	主な内容
名古屋鉄道株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要駅構内にポスターを掲出(120枚) ・ 名鉄全線の車内中吊りポスター掲示(3,000枚)
愛知環状鉄道株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代美術展入場券と愛環電車の区間乗り放題きっぷをセットにした企画乗車券のポスターを作成し、駅構内及び名鉄車内に掲出(駅貼40枚、車内吊170枚)
愛知高速交通株式会社 (リニモ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要駅構内ポスター掲示及び藤が丘駅ホーム階段連貼りを実施(20枚) ・ 車内連結部ポスター掲示(40枚) ・ 有償枠のドア横ステッカー貼り期間延長(9/9～11/30)
中部国際空港株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ セントレアのターミナルビル内大型ビジョンでPR動画を放映 ・ 国際線到着ロビー壁面にマグネットシート貼り
名鉄バス株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あいち2025」ラッピングバスの運行(3/30～11/30)

○ その他団体等との連携

区分	主な内容
あいち男女共同参画財団	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あいち国際女性映画祭2025」のパンフレットに芸術祭の広告を掲載 ・ 同映画祭において、連携企画プログラムとしてアル・カシミ芸術監督の推薦作品が上演作品の1つとして上演。コメントの読み上げ
グリーンシティコム株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンシティコム株式会社が所有する工作物の一部を借りて、名鉄瀬戸線尾張旭駅に「あいち2025」の看板を掲出 ・ せともの祭の際、旧小川陶器店西側駐車場のビジョンカー広告にてPVを放映
株式会社大丸松坂屋百貨店	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大丸松坂屋名古屋店ショウウィンドウに、「あいち2025」及び出展作家を紹介した広告展開
スーパー・コンビニエンスストア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛知県と流通業者との包括協定を活用し、コンビニエンスストア等においてポスター掲出
書店	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名古屋市内の大型書店を中心にチラシ設置
チケットプレゼント企画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑誌とのタイアップ企画として、チケットプレゼント企画を実施(12企画)
KADOKAWA	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントバンク経由で掲載があった「ウォーカープラス」のおでかけ情報として、ファミリーマートビジョンへ掲載



大丸松坂屋名古屋店ショウウィンドウで広告展開

■ 広告

- ・ 現代美術展前売券発売日(6月3日)や開幕日の前後の時期、会期中を中心に、各種メディア等への広告や交通広告を展開した。

○ 各種メディア広告

- ・ 雑誌・フリーペーパー、ラジオに計75件の広告出稿を行った。

種別	広告出稿件数
新聞	0件
雑誌・フリーペーパー・タブロイド紙	2件
テレビ	0件
ラジオ	6件
チラシ・パンフレット	3件
Web	23件
SNS	41件
計	75件

○ 交通広告

- ・ 現代美術展前売券発売日前後に、乗降客が多い名古屋駅、栄駅、金山駅や、会場最寄り駅である栄町駅、尾張瀬戸駅を中心に、デジタルサイネージ等の広告掲出を集中して行った。また、開幕前後での PR 強化のため、9月初旬から、地下鉄名古屋駅のビッグウォールや、名古屋駅、栄駅、金山駅を中心にデジタルサイネージ放映等を行った。
- ・ 名鉄瀬戸線栄町駅及び尾張瀬戸駅には看板及び垂幕を会期中に掲示した。
- ・ 瀬戸内国際芸術祭の会期に合わせた、岡山駅・高松駅でのデジタルサイネージ放映や、アートファン層の多い六本木駅・上野駅でのデジタルサイネージ放映を行った。
- ・ JR 名古屋駅のコンコース周辺において、6月初旬から9月末までの長期間にわたってデジタルサイネージを展開した。

区分	掲出箇所
ポスター	会場最寄り駅、リニモ車内
看板	地下鉄名古屋駅ホーム、地下鉄栄駅改札口付近、名鉄栄町駅、名鉄尾張瀬戸駅
デジタルサイネージ	JR名古屋駅、名鉄名古屋駅、地下鉄名古屋駅・栄駅・金山駅等



名古屋駅

■ ラッピングカー

- ・ 車両2台に「あいち2025」をPRするラッピングを施し、広告塔としての役目を担うとともに、巡回展示「ポップ・アップ！」会場にて車両展示を行った。
- ・ 車体デザインは五十嵐大介氏の作成したキービジュアル及びロゴタイプを活用して、デザイナーの伊藤敦志氏が手がけた。
- ・ 11月8・9日のSOCIAL TOWER MARKETでは、ラジオDJブースで「あいち2025」のPRを行うとともに、会場のオアシス21の大地の広場にてラッピングカーの展示を行った。



プリウス



アルファード

■ PR イベント

- 国際芸術祭「あいち」組織委員会主催（一部共催）のPRイベントを東京、瀬戸市、愛知芸術文化センター等にて開催した。

	タイトル	開催日	会場	登壇者	参加者数
1	シンポジウム	2024年2月4日(日)	愛知芸術文化センター12階 アートスペースA	アル・カシミ芸術監督、 片岡「あいち2022」芸術監督、 アドリアン・ビジュアル・ロハス、 拝戸愛知県美術館長	132人
2	トークイベント	2024年9月15日(日)	国立新美術館 3階 講堂	アル・カシミ芸術監督、 メイサ・アブダラ、是恒さくら、 ワンゲシ・ムトゥ、 マイケル・ラコウィッツ	103人
3	SOCIAL TOWER MARKETにて 芸術祭エリア創出	2024年11月9日(土)、 10日(日)	オアシス21 緑の大地	なし	多数
4	トークセッション in 瀬戸	6月1日(日)	瀬戸蔵 つばきホール	Barrack(古畑大気+近藤佳那子)、 浅野友理子、佐々木類、 オル太(メグ忍者、長谷川義朗)	250人
5	せともの祭にてPRブース出展	9月13日(土) 9月14日(日)	青の広場ほか	なし	多数
6	愛知県庁本庁舎公開イベント にてPRブース出展	11月3日(月・祝)	愛知県庁 本庁舎	なし	多数



シンポジウム



トークイベント



SOCIAL TOWER MARKETにて芸術祭エリア創出



トークセッションin瀬戸

■ 国際ビエンナーレ協会 (IBA) 理事会のメンバーの来場

- ・ 11月1日(土)、11月2日(日)に、「あいち2025」のアル・カシミ芸術監督が会長を務める国際ビエンナーレ協会 (IBA) の理事会のメンバーが「あいち2025」を視察に訪れた。
- ・ また、愛知芸術文化センターで IBA の理事会を開催した。

日	11月1日(土)	11月2日(日)
内容	・ 愛知芸術文化センターにて作品鑑賞 ・ IBA 理事会の開催(会場:愛知芸術文化センター)	・ 瀬戸市のまちなかにて作品鑑賞 ・ 愛知県陶磁美術館(「炎を囲む三日三晩」含む)にて作品鑑賞



愛知芸術文化センターでの視察

(7) 公式出版物

■ 公式ガイドマップ

- 持ち歩きしやすいA5サイズで「公式ガイドマップ」を制作し、会期中に来場者へ無料配布したほか、「あいち2025」公式Webサイトから、PDFデータにて閲覧・ダウンロードできるようにした。

媒体名	国際芸術祭「あいち2025」公式ガイドマップ(日本語版)
発行日	9月1日(月)
判型等	A5サイズ、中綴じ冊子左開き、32ページ
言語	日本語
発行部数	200,000部
配布	無料
内容	芸術監督メッセージ、3会場へのアクセスと見どころ、地図、展示場所と作家名、作品、瀬戸市のまちなか会場の立ち寄りスポット、パフォーミングアーツ公演、カレンダー・開館情報等、「あいち2025」巡りに必要な情報を掲載。



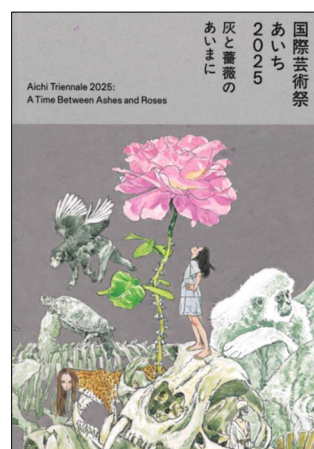
媒体名	国際芸術祭「あいち2025」公式ガイドマップ(英語版)
発行日	9月9日(火)
判型等	A5サイズ、中綴じ冊子左開き、32ページ
言語	英語
発行部数	20,000部
配布	無料
内容	日本語版のガイドマップを英訳。 ※スポンサー枠のスポンサーロゴ／表記は英語もしくは日本語



■ 公式カタログ

- 国内外から参加したアーティスト62組を網羅した公式カタログを発行した。

発行日	11月27日
判型等	A5変型判、390ページ(小冊子の付録つき)
言語	バイリンガル(日本語・英語)
販売額	3,300円(税込)
内容	・芸術監督メッセージ及びキュレトリアルアドバイザー等エッセイ ・アーティスト作品ページ ・「あいち2025」出品作品リスト 等
編集	国際芸術祭「あいち」組織委員会
発行・販売	株式会社大伸社 ライブアートボックス



(8) オフィシャルグッズ

- ・ デザイナーである伊藤敦志氏がキービジュアル・ロゴタイプを基調にデザインする「公式グッズ」、参加アーティストの出展作品等のポストカード、「あいち2025」タイプセット/ロゴタイプをデザインした岡田和奈佳氏、加納大輔氏による「スペシャルデザイングッズ」をオフィシャルショップ等で販売した。
- ・ 参加アーティストの関連商品を「アーティストグッズ」として、オフィシャルショップ等で販売した。

■ オフィシャルグッズ

区分	品目数	備考
公式グッズ	11品目(37種類)	ピンバッジ、半袖Tシャツ(2種)、長袖Tシャツ、トートバッグ、サコッシュ、手ぬぐい、クリアファイル(2種類)、ポストカード(キービジュアル2種、アーティスト作品22種)、薔薇ノベルティ(瀬戸のやきもの)、マグカップ(瀬戸のやきもの)、ショッパー(2種)
スペシャルデザイングッズ	9品目(16種類)	和紙香、マスキングテープ、Pad A(2種)、Pad B(2種)、Pad C(2種)、Pad D(2種)、ポスター(2種)、トートバッグ(2種)、カットソー(2種)
アーティストグッズ	29品目	諸星大二郎のマグカップ「カオカオ様」、札本彩子の肉に関するキーホルダー、久保寛子ゴッデスTシャツ、オル太かるたなど



Photo: ToLoLo studio

ピンバッジ



Photo: ToLoLo studio

半袖Tシャツ



Photo: ToLoLo studio

ポストカード・薔薇ノベルティ(瀬戸のやきもの)



和紙香



Photo: ToLoLo studio

カットソー



諸星大二郎のマグカップ「カオカオ様」

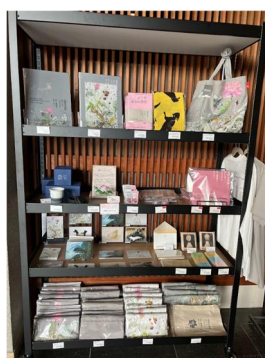
■ ショップ

○ オフィシャルショップ

場所	開設期間	売上金額
愛知芸術文化センター10階 ミュージアムショップ	9月12日(金)～11月30日(日)	13,464千円
愛知県陶磁美術館 本館1階インフォメーション横	同上	2,055千円
旧小川陶器店(インフォメーションセン ター、瀬戸市のまちなか)	同上	1,220千円



愛知県美術館10階ミュージアム
ショップ(愛知芸術文化センター)



愛知県陶磁美術館 本館1階
インフォメーション



旧小川陶器店(インフォメーションセンタ
ー、瀬戸市のまちなか)



会期中のイベント・プログラム

■ 9月

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
12日 (金)	芸文	-	9:30-10:00	記者会見	報道関係者	112社
	芸文・瀬戸	-	10:00-17:30	プレス向けバスツアー	報道関係者	75社
	全会場	-	13:00-17:00	内覧会	招待者	925人
	芸文	-	17:30-18:30	オープニングセレモニー	招待者	約1,100人
	瀬戸	現代美術	-	マイケル・ラコウィッツ パフォーマンス公演	無料	-
13日 (土)	芸文	-	9:45-10:00	オープニングイベント ※せともの祭式典内においてもテープカットを実施	報道関係者	27社
	瀬戸	現代美術	-	マイケル・ラコウィッツ パフォーマンス公演	無料	-
	愛陶	-	10:30-17:30	プレス向けバスツアー	報道関係者	66社
	芸文	パフォーミングアーツ	9:30-17:00	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	67人
			14:00-15:10 18:30-19:40	『Paradise Rumour』／ブラック・グレース	要チケット	224人
	Live & Lounge Vio		18:00 OPEN 20:30 Performance 24:00 CLOSE	『Enemy of the Sun』／パゼル・アツバス&ルアン・アブ=ラーメ、バラリ、ハイカル、ジュールムッド	要チケット	362人
アートラボ	連携事業	11:00-19:00	アートラボあいちと四芸大による連続個展 西川滉都「窓、風、光、またね」 ※28日(日)まで開催	無料	282人	
14日 (日)	芸文	-	13:00-15:15	ラウンドテーブル(「あいち2025」開幕記念)	無料	129人
	瀬戸	現代美術	-	マイケル・ラコウィッツ パフォーマンス公演	無料	-
	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-17:00	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	70人
	芸文		18:30-19:40	『Paradise Rumour』／ブラック・グレース	要チケット	142人
	Live & Lounge Vio		18:00 OPEN 20:30 Performance 24:00 CLOSE	『Enemy of the Sun』／パゼル・アツバス&ルアン・アブ=ラーメ、バラリ、ハイカル、ジュールムッド	要チケット	285人
15日 (月・祝)	全会場	-	10:00-17:00	アーティスト・リレートーク(「あいち2025」開幕記念)	要美術展券	約400人
	瀬戸	現代美術	-	マイケル・ラコウィッツ パフォーマンス公演	無料	-
	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-17:00	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	61人
	芸文		14:00-15:10	『Paradise Rumour』／ブラック・グレース ※公演後、ミート・ザ・アーティスト(ポストトーク)を実施	要チケット	127人
16日 (火)	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-17:00	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	45人
17日 (水)	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-17:00	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	46人
18日 (木)	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-17:00	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	45人
19日 (金)	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-17:00	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	69人
20日 (土)	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-17:00	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	69人

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
21日 (日)	愛陶	パフォーマンスアート	9:30-17:00	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	64人
26日 (金)	芸文	現代美術	14:30-15:45	美術館にパラ園を！クリストドゥロス・パナヨトウ《落選の花園》の裏側	要美術展券	48人
		パフォーマンスアート	18:30-19:50	『BRAIN』／態変 ※公演後、ミート・ザ・アーティスト(ポストトーク)を実施	要チケット	170人
		ラーニング	18:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
27日 (土)	芸文	パフォーマンスアート	18:30-19:50	『BRAIN』／態変	要チケット	176人
		ラーニング	14:00-15:00	作品解説ツアー	要美術展券	25人
	全会場	ラーニング	10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
28日 (日)	芸文	パフォーマンスアート	14:00-15:20	『BRAIN』／態変	要チケット	159人
	全会場	ラーニング	10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-

■ 10月

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
3日 (金)	瀬戸蔵	パフォーマンスアート	18:30-19:50	『クシテ』／マユンキキ*	要チケット	112人
	芸文	ラーニング	18:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
4日 (土)	瀬戸蔵	パフォーマンスアート	17:30-18:50	『クシテ』／マユンキキ*	要チケット	142人
	芸文	ラーニング	10:30-11:30	作品解説ツアー	要美術展券	25人
			13:30-16:30	ラーニング・ラーニング【vol.07】「映画とともに読み解く、イスラム文化圏と人々」	無料	84人
	全会場	ラーニング	10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
アートラボ	連携事業	11:00-19:00	アートラボあいちと四芸大による連続個展 山ノ内陽介「太古の残滓(ざんし)をくみ上げる」 ※19日(日)まで開催	無料	298人	
5日 (日)	瀬戸蔵	パフォーマンスアート	14:00-15:20	『クシテ』／マユンキキ* ※公演後、ミート・ザ・アーティスト(ポストトーク)を実施	要チケット	160人
	愛陶	ラーニング	13:30-14:30	作品解説ツアー	要美術展券	25人
	全会場		10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
10日 (金)	芸文	パフォーマンスアート	13:00-17:30	『Eternal Labor』／オル太(展示)	要美術展券	114人
			18:30-20:30	『Eternal Labor』／オル太	要チケット	65人
		ラーニング	18:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
11日 (土)	芸文	現代美術	10:00-12:00	『ありふれたくじら』(是恒さくら・著／ELVIS PRESS・刊)刊行記念トークイベント	無料	52人
		パフォーマンスアート	13:00-17:30	『Eternal Labor』／オル太(展示)	要美術展券	255人
			18:30-20:30	『Eternal Labor』／オル太 ※公演後、ミート・ザ・アーティスト(ポストトーク)を実施	要チケット	84人
	全会場	ラーニング	10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
12日 (日)	芸文	パフォーマンスアート	13:00-14:20	『クシテ』／マユンキキ*	要チケット	201人
			18:30-19:50			
			13:00-17:30	『Eternal Labor』／オル太(展示)	要美術展券	361人
			18:30-20:30	『Eternal Labor』／オル太	要チケット	104人
	全会場	ラーニング	10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数		
13日 (月・祝)	芸文	パフォーミングアーツ	11:00-12:20 16:30-17:50	『クシテ』／マユンキキ+	要チケット	174人		
			10:00-14:00	『Eternal Labor』／オル太(展示)	要美術展券	187人		
			15:00-17:00	『Eternal Labor』／オル太	要チケット	101人		
		ラーニング	10:30-11:30	作品解説ツアー【小さな子ども連れ向け】	要美術展券	10人		
			13:30-14:30	作品解説ツアー【中高生向け】	要美術展券	8人		
全会場	10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-				
15日 (水)	芸文	パフォーミングアーツ	13:00-17:30	『Eternal Labor』／オル太(展示)	要美術展券	162人		
			18:30-20:30	『Eternal Labor』／オル太 ※公演後、ミー ト・ザ・アーティスト(ポストトーク)を実施	要チケット	91人		
16日 (木)	芸文	パフォーミングアーツ	13:00-17:30	『Eternal Labor』／オル太(展示)	要美術展券	124人		
			18:30-20:30	『Eternal Labor』／オル太	要チケット	76人		
17日 (金)	芸文	パフォーミングアーツ	13:00-17:30	『Eternal Labor』／オル太(展示)	要美術展券	174人		
			18:30-20:30	『Eternal Labor』／オル太	要チケット	81人		
		ラーニング	18:00-19:30	へたちトークvol.01「見えないアーキテクトの 仕事」	無料	70人		
			18:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-		
18日 (土)	芸文	パフォーミングアーツ	13:00-17:30	『Eternal Labor』／オル太(展示)	要美術展券	248人		
			18:30-20:30	『Eternal Labor』／オル太	要チケット	80人		
		ラーニング	10:30-11:30	子ども向け対話型鑑賞ツアー	要美術展券	54人		
	全会場		10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-		
19日 (日)	芸文	パフォーミングアーツ	10:00-14:00	『Eternal Labor』／オル太(展示)	要美術展券	114人		
			15:00-17:00	『Eternal Labor』／オル太	要チケット	89人		
		ラーニング	14:00-15:00	日本語以外が母語の方のための対話型鑑 賞ツアー【英語編】	要美術展券	3人		
	全会場		10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-		
24日 (金)	芸文	ラーニング	18:00-19:30	へたちトークVol.02サインデザインから国際 芸術祭「あいち2025」をみてみよう	無料	35人		
			18:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-		
	豊田	現代美術	9:30-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	120人		
25日 (土)	瀬戸	連携事業	10:00-12:30	全国のやきものには瀬戸産の蛙目粘土が必 要不可欠！「加仙鉾山」ツアー／大ナゴヤ ツアーズ	要チケット	14人		
	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-16:30	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／ク オン・ビョンジュン	要美術展券	71人		
			芸文	ラーニング	13:30-15:00	作品解説ツアー【聞こえない・聞こえづらい方向け】	要美術展券	7人
					全会場	10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券
	豊田	現代美術	9:30-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	214人		
アートラボ	連携事業	11:00-19:00	アートラボあいちと四芸大による連続個展 中崎由梨「fill the space」※9日(日)まで開催	無料	308人			
26日 (日)	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-16:30	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／ク オン・ビョンジュン	要美術展券	57人		
	全会場	ラーニング	10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-		
	豊田	現代美術	9:30-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	311人		
13:30-15:30			巡回展示「ポップ・アップ！」是恒さくらワークシ ョップ「みつける！あつめる！民芸館のかたち」	無料	17人			
28日 (火)	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-16:30	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／ク オン・ビョンジュン	要美術展券	63人		

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
29日 (水)	愛陶	パワーミダアート	9:30-16:30	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』/クオン・ピョンジュン	要美術展券	65人
30日 (木)	愛陶	パワーミダアート	9:30-16:30	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』/クオン・ピョンジュン	要美術展券	62人
31日 (金)	愛陶	パワーミダアート	9:30-16:30	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』/クオン・ピョンジュン	要美術展券	53人
	芸文	ラーニング	18:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	設楽	現代美術	9:00-16:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	60人

■ 11月

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
1日 (土)	愛陶	-	-	炎を囲む三日三晩——「瀬戸」に触れる特別な時間	無料	-
			10:00-	【炎を囲む三日三晩】復元古窯焼成	無料	約400人
			11:00-16:00	【炎を囲む三日三晩】版築ワークショップ「星をつくるテーブル」	無料	29人
			17:00-19:00	【炎を囲む三日三晩】窯に集う 愛陶窯巡りNight	無料	125人
			16:30-19:30	【炎を囲む三日三晩】ナイトミュージアム	要美術展券	-
		パワーミダアート	9:30-19:30	【炎を囲む三日三晩】『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』/クオン・ピョンジュン	要美術展券	96人
	全会場	ラーニング	10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	設楽	現代美術	9:00-16:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	63人
2日 (日)	愛陶	-	-	炎を囲む三日三晩——「瀬戸」に触れる特別な時間	無料	-
			-	【炎を囲む三日三晩】復元古窯焼成	無料	約780人
			16:00-18:00	【炎を囲む三日三晩】特別出店 瀬戸少年院「陶陶塾」	無料	-
			16:00-21:00	【炎を囲む三日三晩】特別出店 TEMPORA	無料	-
			16:00-21:00	【炎を囲む三日三晩】ホノオノ夜市	無料	約4,200人
			16:30-18:00	【炎を囲む三日三晩】詩を囲むタベ	無料	約100人
			16:30-19:30	【炎を囲む三日三晩】ナイトミュージアム	要美術展券	-
	現代美術	11:00-12:00	西條茜《シーシュポスの柘榴》パフォーマンス公演	要美術展券	-	
		12:30-13:30				
	14:30-15:30	11:00-12:00	土管と鯨の意外な関係！？(アーティスト・是恒さくら出演)	無料	44人	
	パワーミダアート	9:30-16:30	【炎を囲む三日三晩】『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』/クオン・ピョンジュン	要美術展券	78人	
	全会場	ラーニング	10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	瀬戸	現代美術	-	マイケル・ラコウィッツ パフォーマンス公演	無料	-
設楽	現代美術	9:00-16:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	118人	
		13:30-15:30	巡回展示「ポップ・アップ！」浅野友理子ワークショップ「灰で植物を描く！」	無料	29人	

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
3日 (月・祝)	愛陶	-	-	炎を囲む三日三晩——「瀬戸」に触れる特別な時間	無料	-
			-	【炎を囲む三日三晩】復元古窯焼成	無料	約30人
			11:00-16:00	【炎を囲む三日三晩】版築ワークショップ「星をつくるテーブル」	無料	32人
			15:30-16:30	【炎を囲む三日三晩】「凸凹トーク」	無料	73人
		パフォーミングアーツ	9:30-16:30	【炎を囲む三日三晩】『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	63人
	全会場	ラーニング	10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	瀬戸	現代美術	-	マイケル・ラコウィッツ パフォーマンス公演	無料	-
	設楽	現代美術	9:00-16:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	92人
	瀬戸	連携事業	10:00-13:00	筆をはしらせる馬の目皿(20cm)絵付体験！民藝・柳柳悦が愛した「瀬戸本業窯」&「瀬戸民藝館」ツアー／大ナゴヤツアーズ	要チケット	9人
5日 (水)	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-16:30	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	62人
6日 (木)	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-16:30	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	63人
7日 (金)	芸文	現代美術	18:00-19:40	アポリジナルの芸術、物語、文化【アーティストトーク ウェンディー・ヒュバート】	要美術展券	131人
	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-16:30	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	70人
	芸文	ラーニング	18:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	大府	現代美術	9:00-18:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	439人
8日 (土)	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-16:30	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	79人
	芸文	ラーニング	10:30-12:00	へたちトークvol.03「はじめまして、テクニカル・ディレクターです」	無料	15人
			10:30-12:00 14:00-15:30	聞こえない・聞こえづらい方のための対話型鑑賞ツアー【筆談編】	要美術展券	11人
			10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	大府	現代美術	9:00-18:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	554人
13:30-16:30			巡回展示「ポップ・アップ！」札幌彩子ワークショップ「ステーキの付け合わせを考えよう！」	無料	38人	
9日 (日)	愛陶	パフォーミングアーツ	9:30-16:30	『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』／クオン・ビョンジュン	要美術展券	62人
	瀬戸	ラーニング	10:30-11:30	作品解説ツアー	要美術展券	25人
	全会場		10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	大府	現代美術	9:00-18:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	448人
14日 (金)	芸文	パフォーミングアーツ	18:30-19:20	『Bird』／セルマ&ソフィアン・ウスイ ※公演後、ミート・ザ・アーティスト(ポストトーク)を実施	要チケット	175人
		ラーニング	18:00-19:30	へたちトークvol.04「あいちで育まれる対話型鑑賞の文化～あいちの地力～」	無料	60人
			18:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	豊川	現代美術	9:00-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	50人

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
15日 (土)	芸文	パフォーミングアーツ	18:30-19:20	『Bird』／セルマ&ソフィアン・ウイスイ	要チケット	182人
	愛陶	ラーニング	10:30-11:30	作品解説ツアー【小さな子ども連れ向け】	要美術展券	13人
	全会場		10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	豊川	現代美術	9:00-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	93人
	アートラボ	連携事業	11:00-19:00	アートラボあいちと四芸大による連続個展 川西りな「答えのない自由に、答えを描く」 ※30日(日)まで開催	無料	470人
16日 (日)	芸文	パフォーミングアーツ	18:30-19:20	『Bird』／セルマ&ソフィアン・ウイスイ	要チケット	162人
	瀬戸	ラーニング	10:30-11:30	日本語以外が母語の方のための対話型鑑賞ツアー【やさしい日本語編】	要美術展券	4人
			13:00-15:00	ふたつのあいまを遊ぶ	無料	-
			13:30-14:30	作品解説ツアー【中高生向け】	要美術展券	2人
	全会場		10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	豊川	現代美術	9:00-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	122人
			13:30-15:30	巡回展示「ポップ・アップ！」西條茜ワークショップ「オリジナル埴輪を作ってみよう！」	無料	14人
18日 (火)	豊川	現代美術	9:00-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	50人
19日 (水)	豊川	現代美術	9:00-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	52人
20日 (木)	豊川	現代美術	9:00-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	46人
21日 (金)	芸文	ラーニング	13:00-15:00	ふたつのあいまを遊ぶ	無料	-
			17:00-18:00	視点を変えてバーシム・アル・シャーケルを鑑賞してみよう	要美術展券	-
			18:00-19:30	へたちトークvol.05「「あいち2025」ラーニングを建築する」	無料	30人
			18:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	豊川	現代美術	9:00-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	134人
22日 (土)	芸文	パフォーミングアーツ	18:30-20:20	喜劇『人類館』／AKNプロジェクト ※公演後、ミート・ザ・アーティスト(ポストトーク)を実施	要チケット	141人
	瀬戸	ラーニング	13:00-15:00	瀬戸のカコとミライのあいまを探るワークショップ	無料	-
			13:30-14:30	作品解説ツアー	要美術展券	25人
	全会場		10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
豊川	現代美術	9:00-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	127人	
23日 (日)	芸文	パフォーミングアーツ	13:00-14:50 18:30-20:20	喜劇『人類館』／AKNプロジェクト ※18:30-20:20の公演後、ミート・ザ・アーティスト(ポストトーク)を実施	要チケット	289人
	愛陶	ラーニング	10:30-11:30	子ども向け対話型鑑賞ツアー	要美術展券	33人
	瀬戸		13:00-15:00	瀬戸のカコとミライのあいまを探るワークショップ	無料	-
	芸文		13:00-16:00	みてきたをシェア「みてきたカード」をつくろう	要美術展券	-
	愛陶		13:30-14:20	あいまを見つけるタナ散歩	無料	-
	全会場		10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	豊川		現代美術	9:00-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
24日 (月・祝)	芸文	パフォーマンス	14:00-15:50	喜劇『人類館』／AKNプロジェクト	要チケット	151人
		ラーニング	10:30-12:00 14:00-15:30	見えない・見えづらい方のための対話型鑑賞ツアー	要美術展券	14人
			13:00-15:30	FARM2025 「あいち2025」の作品を通して世界をcultivateする!!	要美術展券	-
			10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	豊川	現代美術	9:00-17:00	巡回展示「ポップ・アップ！」	無料	138人
28日 (金)	芸文	パフォーマンス	18:30-19:35	『My body, my archive』／フォスタン・リニエクラ	要チケット	176人
	芸文	ラーニング	18:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
29日 (土)	芸文	現代美術	14:00-17:00	国際芸術祭「あいち2025」のステートメントを知る・学ぶ・そしてこれから	無料	141人
		パフォーマンス	18:30-19:35	『My body, my archive』／フォスタン・リニエクラ ※公演後、ミート・ザ・アーティスト(ポストトーク)を実施	要チケット	175人
	瀬戸	ラーニング	13:00-15:00	瀬戸のカコとミライのあいまを探るワークショップ	無料	-
	芸文		13:30-16:30	あなたの「あいち2025」を振り返りまとめるバイディング	無料	-
	全会場		10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
30日 (日)	芸文	現代美術	10:00-17:30	マユンキキ《クシ》× 菊澤好紀 パフォーマンス公演	要チケット	630人
		パフォーマンス	14:00-15:05	『My body, my archive』／フォスタン・リニエクラ	要チケット	164人
		ラーニング	13:30-16:30	ラーニング・ラーニング【番外編】「あいち2025」ラーニングドキュメントブック公開編集会議	無料	88人
			10:30-、15:30-	対話型鑑賞ツアー	要美術展券	-
	瀬戸	連携事業	10:00-12:30	全国のやきものには瀬戸産の蛙目粘土が必要不可欠！？「加仙鉦山」ツアー／大ナゴヤツアーズ	要チケット	16人

〈会場〉

全会場＝愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか

芸文＝愛知芸術文化センター

愛陶＝愛知県陶磁美術館

瀬戸＝瀬戸市のまちなか

アートラボ＝アートラボあいち

Vio & Lounge Vio＝Live & Lounge Vio・CLUB MAGO

瀬戸蔵＝瀬戸蔵つばきホール

豊田＝豊田市民芸館

設楽＝旧設楽町立田峯小学校

大府＝大府市歴史民俗資料館・大府市役所

豊川＝豊川市桜ヶ丘ミュージアム



VI 来場者数の状況等

1 来場者数

■ プログラム別、会場別

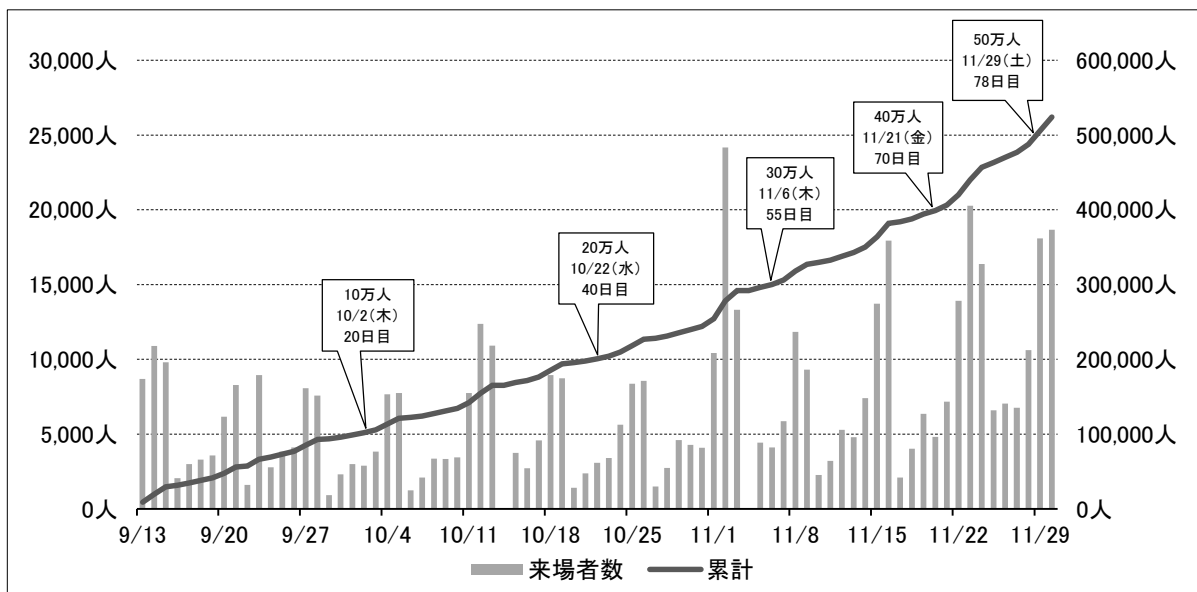
- ・ 最終的な来場者数は、524,069人となった。
- ・ プログラム別では、現代美術展(「ポップ・アップ!」を除く)の来場者(460,553人)が最も多く、全体の87.9%を占めている。
- ・ 現代美術展の来場者数を会場別で比較すると、愛知芸術文化センターが178,561人で最も多い。また、今回新たに展開した愛知県陶磁美術館では116,954人、瀬戸市のまちなかでは165,038人であった。

プログラム		来場者数	割合	内訳	
現代美術展		460,553人	87.9%	愛知芸術文化センター	178,561人 (38.8%)
				愛知県陶磁美術館	116,954人 (25.4%)
				瀬戸市のまちなか	165,038人 (35.8%)
				小計	460,553人 (100.0%)
ポップ・アップ!		3,336人	0.6%	豊田市	645人 (19.3%)
				設楽町	333人 (10.0%)
				大府市	1,441人 (43.2%)
				豊川市	917人 (27.5%)
				小計	3,336人 (100.0%)
パフォーマンスアート		8,039人	1.5%		
ラーニング・プログラム		43,986人	8.4%		
連携事業	芸術大学連携プロジェクト	1,347人	0.3%	※9月13日から11月30日まで	
	イベント等	6,808人	1.3%		
計		524,069人	100.0%		

■ 開催日別

- ・ 一日あたりの平均来場者数は6,634人（平日3,739人、土・日・祝日11,624人）で、会期末に大幅に増加した。（9月5,313人、10月4,774人、11月9,347人）
- ・ 最も来場者が多かったのは、【炎を囲む三日三晩】ホノオノ夜市を開催した11月2日（日）の24,147人で、11月23日（日）の20,264人がそれに続いた。

9月				10月				11月			
日目	日	来場者数	累計人数	日目	日	来場者数	累計人数	日目	日	来場者数	累計人数
1	13(土)	8,680	8,680	19	1(水)	2,987	98,621	50	1(土)	10,402	254,054
2	14(日)	10,884	19,564	20	2(木)	2,876	101,497	51	2(日)	24,147	278,201
3	15(月・祝)	9,786	29,350	21	3(金)	3,826	105,323	52	3(月・祝)	13,305	291,506
4	16(火)	2,033	31,383	22	4(土)	7,657	112,980	53	4(火)	0	291,506
5	17(水)	2,982	34,365	23	5(日)	7,742	120,722	54	5(水)	4,419	295,925
6	18(木)	3,288	37,653	24	6(月)	1,222	121,944	55	6(木)	4,092	300,017
7	19(金)	3,551	41,204	25	7(火)	2,073	124,017	56	7(金)	5,860	305,877
8	20(土)	6,151	47,355	26	8(水)	3,354	127,371	57	8(土)	11,820	317,697
9	21(日)	8,261	55,616	27	9(木)	3,317	130,688	58	9(日)	9,288	326,985
10	22(月)	1,582	57,198	28	10(金)	3,441	134,129	59	10(月)	2,244	329,229
11	23(火・祝)	8,938	66,136	29	11(土)	7,741	141,870	60	11(火)	3,206	332,435
12	24(水)	2,763	68,899	30	12(日)	12,352	154,222	61	12(水)	5,282	337,717
13	25(木)	3,822	72,721	31	13(月・祝)	10,894	165,116	62	13(木)	4,770	342,487
14	26(金)	4,101	76,822	32	14(火)	0	165,116	63	14(金)	7,383	349,870
15	27(土)	8,060	84,882	33	15(水)	3,725	168,841	64	15(土)	13,700	363,570
16	28(日)	7,554	92,436	34	16(木)	2,712	171,553	65	16(日)	17,932	381,502
17	29(月)	902	93,338	35	17(金)	4,558	176,111	66	17(月)	2,074	383,576
18	30(火)	2,296	95,634	36	18(土)	8,935	185,046	67	18(火)	4,003	387,579
				37	19(日)	8,714	193,760	68	19(水)	6,344	393,923
				38	20(月)	1,408	195,168	69	20(木)	4,806	398,729
				39	21(火)	2,352	197,520	70	21(金)	7,146	405,875
				40	22(水)	3,075	200,595	71	22(土)	13,901	419,776
				41	23(木)	3,385	203,980	72	23(日)	20,264	440,040
				42	24(金)	5,623	209,603	73	24(月・祝)	16,369	456,409
				43	25(土)	8,348	217,951	74	25(火)	6,572	462,981
				44	26(日)	8,558	226,509	75	26(水)	7,018	469,999
				45	27(月)	1,484	227,993	76	27(木)	6,748	476,747
				46	28(火)	2,715	230,708	77	28(金)	10,601	487,348
				47	29(水)	4,590	235,298	78	29(土)	18,069	505,417
				48	30(木)	4,273	239,571	79	30(日)	18,652	524,069
				49	31(金)	4,081	243,652				



■ 現代美術展の来場者内訳

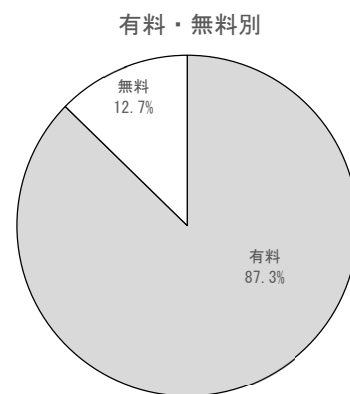
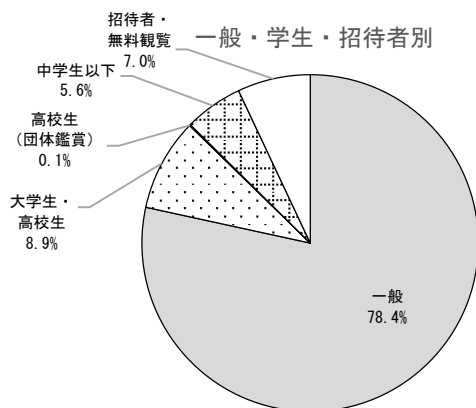
- ・ 現代美術展の来場者については、一般来場者が78.4%を占めており、続いて大学生・高校生が8.9%、中学生以下の来場者が5.6%となっている。
- ・ 有料・無料の別でみると、有料来場者（一般・大学生・高校生）が87.3%、無料来場者（高校生（団体鑑賞）・中学生以下・招待者）が12.7%となっている。

○ 一般・学生・招待者別

一般	学生 (大学生・高校生)	高校生 (団体鑑賞)	中学生以下	招待者・無料観覧	計
361,208人 (78.4%)	41,071人 (8.9%)	609人 (0.1%)	25,569人 (5.6%)	32,096人 (7.0%)	460,553人 (100.0%)

○ 有料・無料別

有料	無料	計
402,279人 (87.3%)	58,274人 (12.7%)	460,553人 (100.0%)



2 チケットの販売状況

■ 現代美術展

- ・ 全体の販売枚数は、72,044枚となった。
- ・ 会期中販売券の販売枚数は、48,872枚で全体の67.8%を占めた。
- ・ 1DAYパスの販売枚数は、52,264枚で全体の72.5%を占めた。

チケットの種類		特別販売券	前売券	会期中販売券		計	
					割引		
フリーパス	一般	4,021枚	4,617枚	7,203枚	89枚	15,930枚	17,359枚 (24.1%)
	学生	346枚	278枚	802枚	3枚	1,429枚	
1DAYパス	一般	11,986枚	1,336枚	31,002枚	339枚	44,663枚	52,264枚 (72.5%)
	学生	482枚	106枚	6,995枚	18枚	7,601枚	
アップグレード	一般			2,187枚		2,187枚	2,421枚 (3.4%)
	学生			234枚		234枚	
計		16,835枚 (23.4%)	6,337枚 (8.8%)	48,872枚 (67.8%)		72,044枚 (100.0%)	
売上額		29,067,100円	16,683,100円	105,673,400円		151,423,600円	

■ パフォーミングアーツ

- ・ 愛知県芸術劇場を中心に、9演目349公演開催し、3,640枚(12,132,300円)のチケットを販売した。

	演目	販売枚数 (枚)	券種	枚数 (枚)	単価 (円)	販売金額 (円)
1	ブラック・グレース 『Paradise Rumour』 【愛知県芸術劇場 小ホール／4公演】	362	一般	134	3,500	469,000
			U25	23	2,000	46,000
			一般(当日)	63	4,000	252,000
			U25(当日)	5	2,500	12,500
			ペア	76	3,250	247,000
			一般(3演目チケット)	33	3,300	108,900
			U25(3演目チケット)	5	1,800	9,000
			一般(全演目チケット)	19	3,000	57,000
U25(全演目チケット)	4	1,750	7,000			
2	バゼル・アッバス&ルアン・アブ＝ラ ーメ、バラリ、ハイカル、ジュルムッド 『Enemy of the Sun』 【Live&Lounge Vio・CLUB MAGO ／2公演】	500	一般	169	3,500	591,500
			U25	56	2,000	112,000
			一般(当日)	110	4,000	440,000
			U25(当日)	45	2,500	112,500
			ペア	76	3,250	247,000
			一般(3演目チケット)	19	3,300	62,700
			U25(3演目チケット)	2	1,800	3,600
			一般(全演目チケット)	19	3,000	57,000
U25(全演目チケット)	4	1,750	7,000			
3	態変 『BRAIN』 【愛知県芸術劇場 小ホール／3公演】	441	一般	186	3,500	651,000
			U25	37	2,000	74,000
			一般(当日)	55	4,000	220,000
			U25(当日)	8	2,500	20,000
			ペア	96	3,250	312,000
			一般(3演目チケット)	34	3,300	112,200
			U25(3演目チケット)	2	1,800	3,600
			一般(全演目チケット)	19	3,000	57,000
U25(全演目チケット)	4	1,750	7,000			
4	マユンキキ* 『クシテ』 【瀬戸蔵つばきホール／3公演】 【愛知県芸術劇場 大リハーサル室 ／4公演】	468	一般	189	3,500	661,500
			U25	25	2,000	50,000
			一般(当日)	64	4,000	256,000
			U25(当日)	4	2,500	10,000
			ペア	126	3,250	409,500
			一般(3演目チケット)	34	3,300	112,200
			U25(3演目チケット)	3	1,800	5,400
			一般(全演目チケット)	19	3,000	57,000
U25(全演目チケット)	4	1,750	7,000			

	演目	販売枚数 (枚)	券種	枚数 (枚)	単価 (円)	販売金額 (円)
5	オル太 『Eternal Labor』 【愛知県芸術劇場 小ホール／9公演】	579	一般	257	3,500	899,500
			U25	39	2,000	78,000
			一般(当日)	79	4,000	316,000
			U25(当日)	19	2,500	47,500
			ペア	116	3,250	377,000
			一般(3演目チケット)	44	3,300	145,200
			U25(3演目チケット)	2	1,800	3,600
			一般(全演目チケット)	19	3,000	57,000
			U25(全演目チケット)	4	1,750	7,000
6	セルマ&ソフィアン・ウイスイ 『Bird』 【愛知県芸術劇場 大リハーサル室 ／3公演】	437	一般	182	3,500	637,000
			U25	27	2,000	54,000
			一般(当日)	44	4,000	176,000
			U25(当日)	5	2,500	12,500
			ペア	106	3,250	344,500
			一般(3演目チケット)	44	3,300	145,200
			U25(3演目チケット)	6	1,800	10,800
			一般(全演目チケット)	19	3,000	57,000
			U25(全演目チケット)	4	1,750	7,000
7	AKN プロジェクト 喜劇『人類館』 【愛知県芸術劇場 小ホール／4公演】	502	一般	214	3,500	749,000
			U25	22	2,000	44,000
			一般(当日)	87	4,000	348,000
			U25(当日)	7	2,500	17,500
			ペア	112	3,250	364,000
			一般(3演目チケット)	33	3,300	108,900
			U25(3演目チケット)	4	1,800	7,200
			一般(全演目チケット)	19	3,000	57,000
			U25(全演目チケット)	4	1,750	7,000
8	フォスタン・リニエクラ 『My body, my archive』 【愛知県芸術劇場 小ホール／3公演】	351	一般	146	3,500	511,000
			U25	14	2,000	28,000
			一般(当日)	65	4,000	260,000
			U25(当日)	10	2,500	25,000
			ペア	52	3,250	169,000
			一般(3演目チケット)	38	3,300	125,400
			U25(3演目チケット)	3	1,800	5,400
			一般(全演目チケット)	19	3,000	57,000
			U25(全演目チケット)	4	1,750	7,000
計		3,640		3,640		12,132,300

※クオン・ピョンジュン『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』【愛知県陶磁美術館 芝生広場／314公演】、
オル太『Eternal Labor』（展示）【愛知県芸術劇場小ホール】は現代美術展のチケットで入場可能であるため、
販売金額等の記載は省略している。

3 アンケート調査結果

- ・ 来場者の満足度や要望・意見等を把握するため、現代美術展、パフォーミングアーツ、「あいち2025」ポップ・アップ！の来場者へのアンケート調査を行った。
- ・ 会期後には、ボランティアや各種プログラムへの参加団体等を対象とした関係者へアンケートを行った。

※ 質問項目の中で複数回答ありの設問については、割合を示す際の分母を回答者数としているため、設問の合計が100%を超えている。

(1) 来場者アンケート

区分	対象者数	回収数	回収割合	該当ページ
現代美術展	460,553人	4,594人	1.0%	101ページ
パフォーミングアーツ	8,039人	337人	4.2%	110ページ
「あいち2025」ポップ・アップ！	3,336人	1,403人	42.1%	114ページ

■ 現代美術展

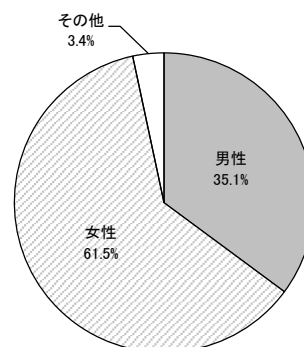
実施時期	9月～11月
調査対象	現代美術展の来場者
配布・回収方法	会場出入口付近において、アンケート用紙の配付及び Web により実施
回収数／来場者数	4,594人／460,553人(1.0%)

○ 回答者の属性

- ・ 性別では、女性が61.5%、男性が35.1%となっている。年齢別では、30代までの世代が46.1%を占め、40代以上が53.9%となっている。
- ・ 住まいでは、名古屋市内30.0%、愛知県内(名古屋市以外)37.3%、愛知県外(海外含む)32.7%となっている。
- ・ これまでに訪れたことのある芸術祭を聞いたところ、「あいちトリエンナーレ2010・2013・2016・2019」(42.8%)、国際芸術祭「あいち2022」(41.0%)の順となっている。一方、「訪れたことがない」と答えた方も34.5%と、新規の来場者も一定数みられた。

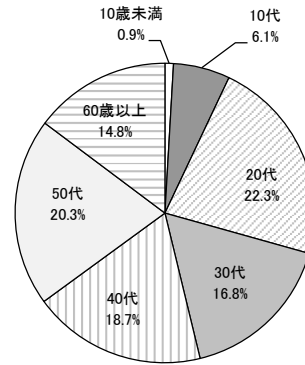
● 性別

選択肢	数	割合
男性	1,614	35.1%
女性	2,826	61.5%
その他(無回答を含む)	154	3.4%
計	4,594	100.0%



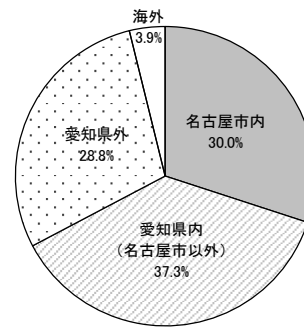
● 年齢

選択肢	数	割合
10歳未満	42	0.9%
10代	280	6.1%
20代	1,020	22.3%
30代	770	16.8%
40代	856	18.7%
50代	928	20.3%
60歳以上	675	14.8%
計	4,571	100.0%



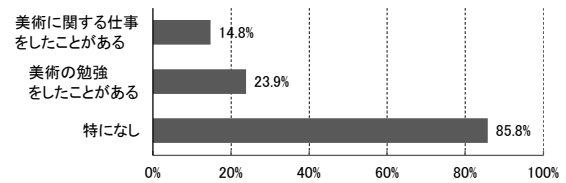
● お住まい

選択肢	数	割合
名古屋市内	1,377	30.0%
愛知県内(名古屋市以外)	1,712	37.3%
愛知県外	1,323	28.8%
海外	177	3.9%
計	4,589	100.0%



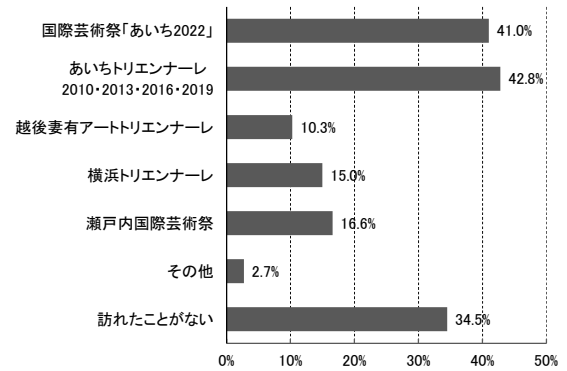
● 美術に関する仕事の経験の有無等(複数回答可)

選択肢	数	割合
美術に関する仕事をしたことがある	680	14.8%
美術の勉強をしたことがある	1,098	23.9%
特になし	3,942	85.8%
計	5,720	—



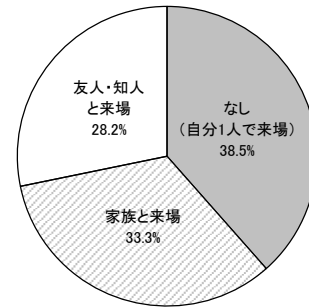
● これまでに訪れたことのある芸術祭(複数回答可)

選択肢	数	割合
国際芸術祭「あいち2022」	1,882	41.0%
あいちトリエンナーレ 2010・2013・2016・2019	1,965	42.8%
越後妻有アートトリエンナーレ	471	10.3%
横浜トリエンナーレ	688	15.0%
瀬戸内国際芸術祭	762	16.6%
その他	126	2.7%
訪れたことがない	1,587	34.5%
計	7,481	—



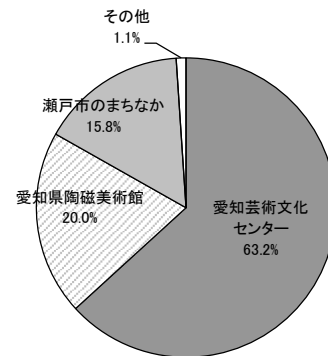
● 本日の同伴者

選択肢	数	割合
なし(自分1人で来場)	1,755	38.5%
家族と来場	1,517	33.3%
友人・知人と来場	1,286	28.2%
計	4,558	100.0%



● アンケートの回答場所

選択肢	数	割合
愛知芸術文化センター	2,875	63.2%
愛知県陶磁美術館	908	20.0%
瀬戸市のまちなか	717	15.8%
その他	48	1.1%
計	4,548	100.0%

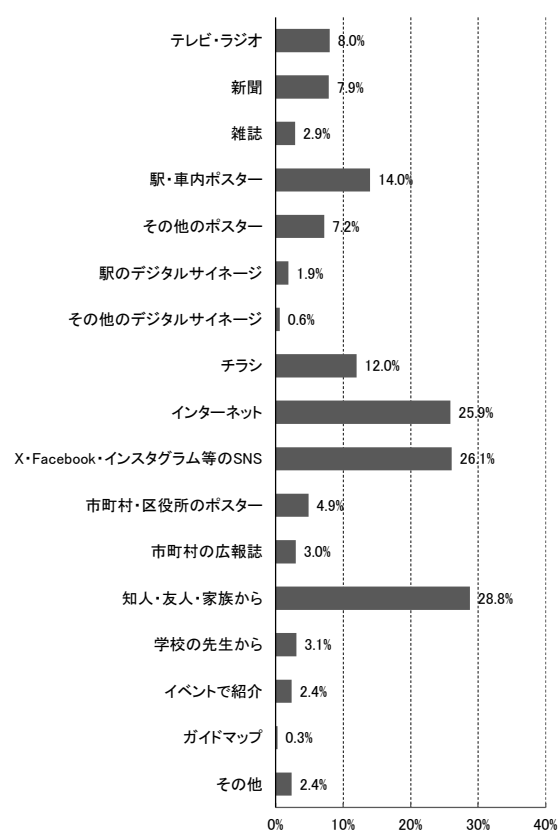


○ 来場理由

- ・「あいち2025」を何で知ったか聞いたところ、「知人・友人・家族から」(28.8%)、「X・Facebook・インスタグラム等のSNS」(26.1%)、「インターネット」(25.9%)の順で多くなっている。
- ・「あいち2025」に来た理由を聞いたところ、「美術に関心がある」(55.0%)、「過去のあいちトリエンナーレをきっかけに関心を持ったから」(14.0%)、「知人・友人に誘われた」(11.5%)の順で多くなっている。

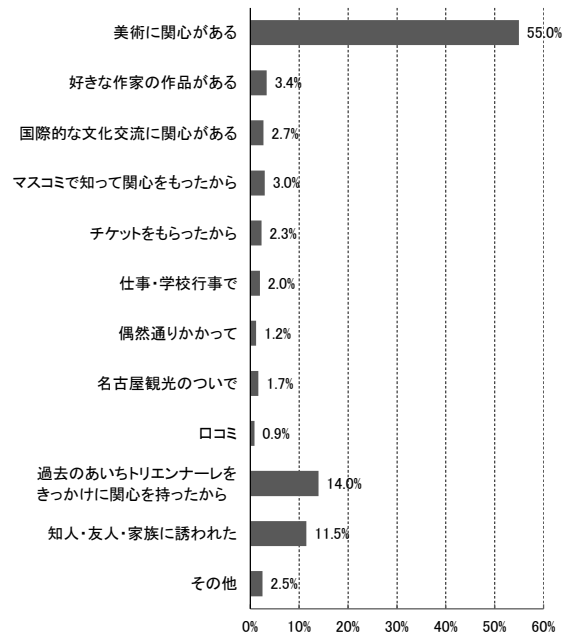
● 「あいち2025」を何で知り、来場しようと思いましたが(複数回答可)

選択肢	数	割合
テレビ・ラジオ	368	8.0%
新聞	363	7.9%
雑誌	132	2.9%
駅・車内ポスター	643	14.0%
その他のポスター	332	7.2%
駅のデジタルサイネージ	85	1.9%
その他のデジタルサイネージ	27	0.6%
チラシ	550	12.0%
インターネット	1,192	25.9%
X・Facebook・インスタグラム等のSNS	1,198	26.1%
市町村・区役所のポスター	227	4.9%
市町村の広報誌	136	3.0%
知人・友人・家族から	1,323	28.8%
学校の先生から	144	3.1%
イベントで紹介	110	2.4%
ガイドマップ	14	0.3%
その他	110	2.4%
計	6,954	—



● 「あいち2025」に来た理由を教えてください

選択肢	数	割合
美術に関心がある	2,511	55.0%
好きな作家の作品がある	153	3.3%
国際的な文化交流に関心がある	121	2.6%
マスコミで知って関心をもったから	135	3.0%
チケットをもらったから	106	2.3%
仕事・学校行事で	90	2.0%
偶然通りかかって	54	1.2%
名古屋観光のついで	76	1.7%
口コミ	39	0.9%
過去のあいちトリエンナーレをきっかけに関心を持ったから	639	14.0%
知人・友人・家族に誘われた	524	11.5%
その他	115	2.5%
計	4,563	100.0%

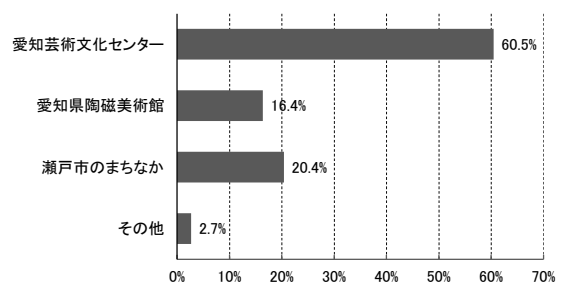


○ 現代美術展の感想

- ・ 最も面白かった会場については、「愛知芸術文化センター」が60.5%と最も高くなっている。
- ・ 陶の歴史や文化を感じることができる「瀬戸市のまちなか」も20.4%と好評であった。
- ・ 現代美術展の展示作品の感想を聞いたところ、「大変良かった」「良かった」が合わせて92.5%となっており、極めて高い評価であった。

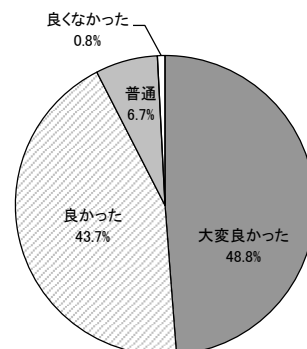
● 最も面白かった会場はどこでしたか

選択肢	数	割合
愛知芸術文化センター	2,676	60.5%
愛知県陶磁美術館	726	16.4%
瀬戸市のまちなか	901	20.4%
その他	120	2.7%
計	4,423	100.0%



● 現代美術展の展示作品の感想をお聞かせください

選択肢	数	割合
大変良かった	2,218	48.8%
良かった	1,986	43.7%
普通	306	6.7%
良くなかった	37	0.8%
計	4,547	100.0%

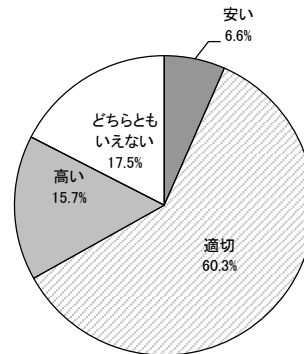


○ 運営について

- ・ 入場料金について、1DAYパスについては、「安い」「適切」が66.9%であった。また、フリーパスについては、「安い」「適切」が74.3%であった。
- ・ 開催時期については、「今の時期でよい(秋)」が87.7%で最も多くなった。

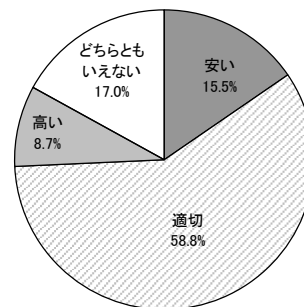
● 1DAYパスの入場料金についてどう思われましたか

選択肢	数	割合
安い	290	6.6%
適切	2,654	60.3%
高い	689	15.7%
どちらともいえない	768	17.5%
計	4,401	100.0%



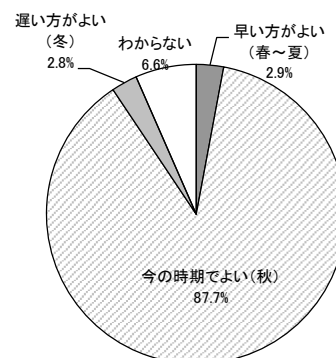
● フリーパスの入場料金についてどう思われましたか

選択肢	数	割合
安い	684	15.5%
適切	2,606	58.8%
高い	387	8.7%
どちらともいえない	753	17.0%
計	4,430	100.0%



● 開催時期についてどう思われましたか

選択肢	数	割合
早い方がよい(春～夏)	132	2.9%
今の時期でよい(秋)	3,926	87.7%
遅い方がよい(冬)	126	2.8%
わからない	294	6.6%
計	4,478	100.0%

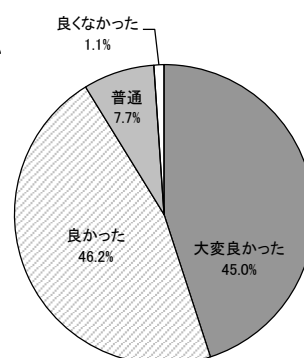


○「あいち2025」全体について

- ・「あいち2025」全体の感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせると91.2%であり、極めて高い評価であった。
- ・国際芸術祭にはどんな効果があると思うか聞いたところ、「文化芸術の発展」(63.5%)や「文化芸術の日常生活への浸透」(51.4%)が多かったが、これらに次いで、「地域の魅力の向上」(37.8%)や「地域の活性化」(36.4%)という回答も多くあり、地域づくりへの効果も期待されている。
- ・次回3年後の国際芸術祭に行きたいかどうかという質問については、82.5%が「絶対行く」「たぶん行く」と回答した。

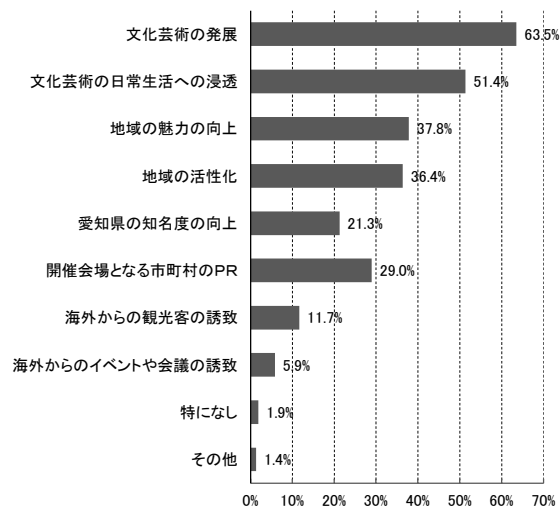
●「あいち2025」について、全体的な感想をお聞かせください

選択肢	数	割合
大変良かった	1,996	45.0%
良かった	2,052	46.2%
普通	342	7.7%
良くなかった	48	1.1%
計	4,438	100.0%



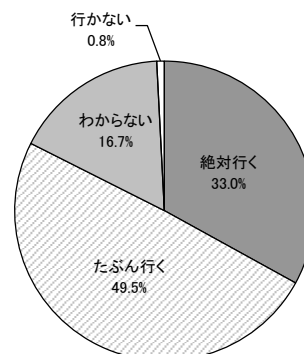
●国際芸術祭には、どんな効果があると思いますか(複数回答可)

選択肢	数	割合
文化芸術の発展	2,915	63.5%
文化芸術の日常生活への浸透	2,363	51.4%
地域の魅力の向上	1,736	37.8%
地域の活性化	1,671	36.4%
愛知県の知名度の向上	980	21.3%
開催会場となる市町村のPR	1,331	29.0%
海外からの観光客の誘致	539	11.7%
海外からのイベントや会議の誘致	271	5.9%
特になし	85	1.9%
その他	66	1.4%
計	11,957	—



●次回3年後の国際芸術祭に行きたいと思いますか

選択肢	数	割合
絶対行く	1,483	33.0%
たぶん行く	2,223	49.5%
わからない	752	16.7%
行かない	37	0.8%
計	4,495	100.0%



○ 自由意見抜粋

《次回の国際芸術祭がより良いものとなるための御意見》

- ・ 世界情勢の不安定さが続き、紛争・戦争・食糧危機が続く今、国際芸術祭の意味は大きいので、今後も続けてほしい。
- ・ 今回の作品の充実度は、本当に素晴らしかった。芸術監督のセンス、手腕、世界観の賜物だと思う。今後もインターナショナルで開かれた国際芸術祭であってほしい。
- ・ 海外の芸術監督だったので、視点や感覚が日本人と違って面白かった。
- ・ 国際的に知られた、外国人の芸術監督は、やはり力量があると感じた。
- ・ 前回と比べ、愛知芸術文化センター内の作品は明らかに減ったが、ゆったり作品を見ることができた。
- ・ 大きな会場（美術館など）での展示より、まちなかでのオープン形式での展示がより面白かった。
- ・ 地域の生きている町とアートの融合が素晴らしかった。今後もまちなかで開催してほしい。
- ・ 部数が限られていたため、期間中にカタログの購入ができず、残念だった。後日、受注生産でもいいので増刷してほしい。
- ・ アフリカなど、あまり知らない地域の作家の作品に触れることができてよかった。
- ・ アラブやアジアの作家の作品が多く、メッセージ性があり、面白かった。世界の出来事を身近に感じることができた。
- ・ 漫画家の作品をアートとして捉えたところがよかった。他のアート作品との調和もとれていた。
- ・ 愛知で開催する国際芸術祭なので、愛知県出身の作家も見られるとよいと感じた。
- ・ 映像作品については、映像の放映時間と放映している映像の時間表示があるとよい。
- ・ 映像作品について、音声がいいものの、作品が並びすぎていて、隣の作品の音声が聞こえてしまい、作品の世界感を崩してしまっていると感じた。
- ・ スタッフが化粧箱を開けて中にある作品を見せる形で展示をする仕掛けがよかった。実験的な見せ方を今後も取り入れてほしい。
- ・ 過去の騒動により、マイナスイメージを持つ人や、関心を失ってしまった人もいたと思うが、来場してみるとやはり素晴らしいイベントだと感じた。プラスイメージがつくような動画などを展開するとよいと感じた。
- ・ 広告を含めて、SNSでの発信を増やしていけるとよいと思う。
- ・ 子どもが参加できるワークショップがあると子連れでも行きやすいと思う。
- ・ 作品数が前回と比べて少なく、物足りなく感じた。
- ・ 作品解説ツアーの開催回数、参加可能人数を抜本的に増やしてほしい。
- ・ 夏開催から秋開催に変わってよかった。秋開催だからこそ、まちなかの作品を増やしてほしい。
- ・ 夏休み期間に開始していないので、子どもの来場は減ってしまうと思うが、猛暑の時期に開催するよりはよいと思う。
- ・ 11/1～11/3に開催した愛知県陶磁美術館での特別プログラム「炎を囲む三日三晩」はとてもよかった。
- ・ 今回はグッズの値段が高く、手が出にくかった。安価なグッズがあるとよかった。

《会場運営に関する御意見》

- ・ボランティアの方がたくさんいたので、分からないことがあってもすぐに質問できてよかった。気軽に話かけられる雰囲気も良かった。
- ・作品に近づいて鑑賞していたところ、監視スタッフに注意された。近づいてほしくないなら、もっとわかりやすく表示してほしい。
- ・禁止のサインは大きめに作るとよいと思う。
- ・まちなかの展示会場のサインがもう少しあるとよかった。もっと派手に展開してもよい。
- ・瀬戸市のまちなかで、チケットがいるところといらないところがわかりにくかったので改善してほしい。
- ・会場間をつなぐバスなどがもう少しあると安心して作品を見られた。
- ・平日金曜の展示時間の延長について、愛知芸術文化センターだけでなく、他の会場でもあるとよかった。
- ・電波がなくオンラインチケットが使えなかった点が改善されるとよい。入場に時間がかかるときがあった。
- ・各会場でもう少し座れるところがあるとよかった。
- ・映像作品はゆっくり見られるように十分な椅子の配置があるとよかった。
- ・自由な順路で見られる展示会場作りは混んでいてもストレスなくみることができるので、今後も続けてほしい。
- ・作品に触れない、順路がない、写真OKなどの指示がわかりにくいと感じた。
- ・作品解説パネルの前で混雑してしまいがちだが、デジタルマップで解説が見られたのでよかった。
- ・学芸員による解説がとてもよかったので、学芸員による解説がイヤホンで聴ける仕組みがあるとよいと思った。
- ・愛知芸術文化センターの地下などの作品への誘導が薄いと感じた。

《開催会場に関する御意見》

- ・国際芸術祭を通して、知らなかった町を知ることができたので、まちなかでの開催はとても良い企画だと思う。特に、旧小学校での展示は迫力があつた。
- ・愛知県内の地方都市で開催する手法はとても良いので、継続してほしい。
- ・まちなかを歩くのが楽しかったので、また地域を観光しながら鑑賞したい。
- ・交通の便を考慮し、1日で周れる開催場所を選定してほしい。
- ・地域活性化としてまちなか会場は有効だが、利便性も考慮してほしい。チケットは安価に設定されているが、交通費がかなりかかった。
- ・名古屋地区での展示がなくなったのがさみしい。次回に期待したい。
- ・あいちトリエンナーレの時のように名古屋市と協力して、名古屋市の街を生かした展示もしてほしい。
- ・愛知県陶磁美術館は初めて来館した。やきものと文化の関わりをととてもよく伝える展示空間だった。

■ パフォーミングアーツ

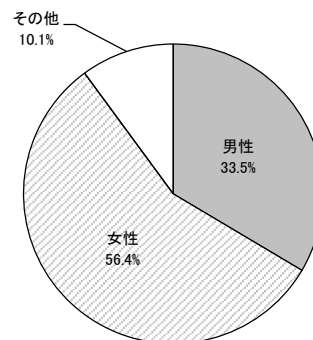
実施時期	9月13日(土)～11月30日(日)
調査対象	パフォーミングアーツ(愛知県芸術劇場大リハーサル室・小ホール、Live & Lounge Vio・CLUB MAGO、瀬戸蔵つばきホール、愛知県陶磁美術館芝生広場)9演目346公演の来場者
配布・回収方法	インターネットを利用して回答、または入場時にアンケート用紙を配付し、公演終了後に出口付近で回収
回収数／来場者数	337人／8,039人(4.2%)

- ・ 回答者の年齢をみると、50代が29.4%と一番多く、その他は20代から70歳以上まで幅広いが、10代は1.5%と少ない。
- ・ 御覧になったきっかけは、回答者の57.9%が「作品への興味・関心」、20.2%が「アーティスト・出演者への興味・関心」と答えているが、「国際芸術祭「あいち」の催しに興味があるから」も57.0%と多くなっている。
- ・ 催しの感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせて86.3%を占め、大変好評であった。

○ 回答者の属性

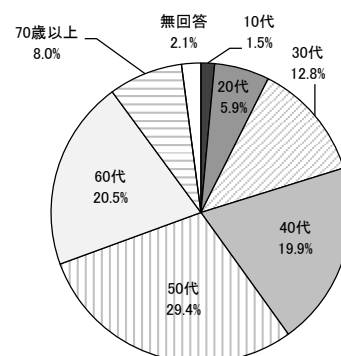
● 性別

選択肢	数	割合
男性	113	33.5%
女性	190	56.4%
その他(無回答を含む)	34	10.1%
計	337	100.0%



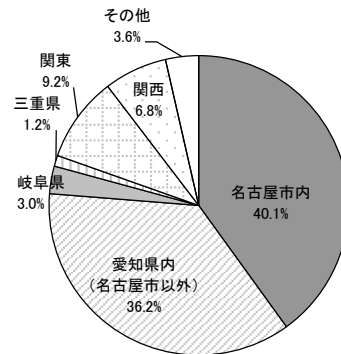
● 年齢

選択肢	数	割合
10代	5	1.5%
20代	20	5.9%
30代	43	12.8%
40代	67	19.9%
50代	99	29.4%
60代	69	20.5%
70歳以上	27	8.0%
無回答	7	2.1%
計	337	100.0%



● お住まい

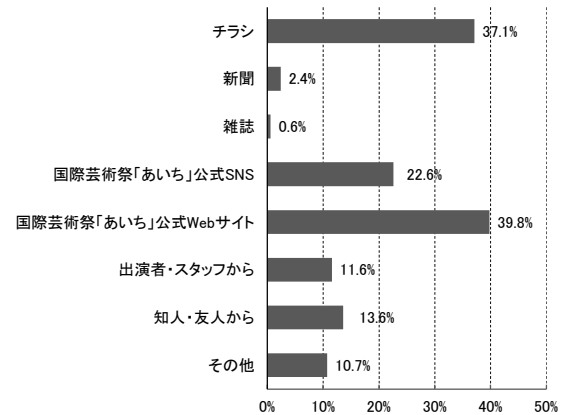
選択肢	数	割合
名古屋市内	135	40.1%
愛知県内(名古屋市以外)	122	36.2%
岐阜県	10	3.0%
三重県	4	1.2%
関東	31	9.2%
関西	23	6.8%
その他(無回答を含む)	12	3.6%
計	337	100.0%



○ 来場理由

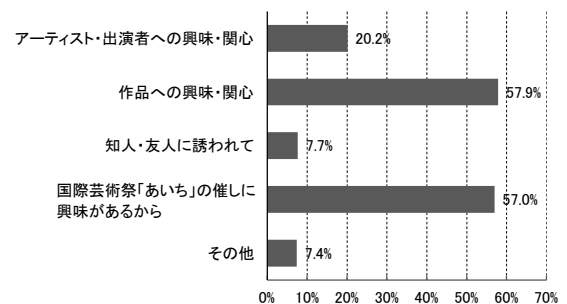
● 本日の催しはどこでお知りになりましたか(複数回答可)

選択肢	数	割合
チラシ	125	37.1%
新聞	8	2.4%
雑誌	2	0.6%
国際芸術祭「あいち」公式SNS	76	22.6%
国際芸術祭「あいち」公式Webサイト	134	39.8%
出演者・スタッフから	39	11.6%
知人・友人から	46	13.6%
その他	36	10.7%
計	466	—



● 本日の催しを御覧になったきっかけは何ですか(複数回答可)

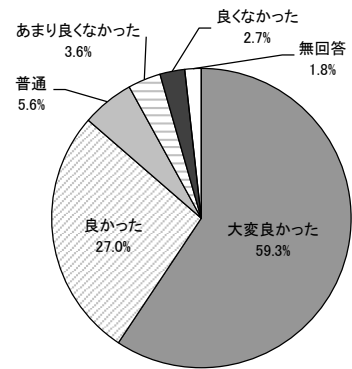
選択肢	数	割合
アーティスト・出演者への興味・関心	68	20.2%
作品への興味・関心	195	57.9%
知人・友人に誘われて	26	7.7%
国際芸術祭「あいち」の催しに興味があるから	192	57.0%
その他	25	7.4%
計	506	—



○ 催しの感想

● 本日の催しはいかがでしたか

選択肢	数	割合
大変良かった	200	59.3%
良かった	91	27.0%
普通	19	5.6%
あまり良くなかった	12	3.6%
良くなかった	9	2.7%
無回答	6	1.8%
計	337	100.0%



○ 自由意見抜粋

- ・ダンサーのダンス力が素晴らしい。作品の意味をよく理解できる構成だった。ニュージーランドのカンパニーを初めて観て、世界にはまだ知らない、カンパニーや世界観を持ったダンス集団があることに新たに感動しました。また、ぜひ観たい。

(ブラック・グレース『Paradise Rumour』)

- ・とてもよかった、かっこよかった。
- ・リモート出演であったこと、会場にクーフィーヤ姿の人も印象に残った。

(バゼル・アツパス&ルアン・アブ＝ラーメ、バラリ、ハイカル、ジュルムツド『Enemy of the Sun』)

- ・とても豊かな体験でした。陶磁美術館のまわりを歩くことや、音を捕まえる為に探ること、耳をすますこと、音と風を感じることに、歌に記憶を呼び覚まされること、全てが、泣きたくなくなるような愛しい体験でした。
- ・とても不思議な体験ができて良かった。こういう技術を使ったアートをもっと楽しみたい。

(クオン・ビョンジュン『ゆっくり話して、そうすれば歌になるよ』)

- ・初めて知ったアーティストでしたが、国際芸術祭に来てくださらなければ知り得ないアーティストで、参加してとても良かったです。太古の昔の海から始まりAIを経て、地面に戻るテーマが壮大で、動物って何？生命って何？身体って何？と深いところで考え感じるきっかけとなりました。そして終始緊張感のある舞台で、魅入っていました。特に脊椎と相対するシーンは圧巻でした。

(態変『BRAIN』)

- ・影絵の動きがとても幻想的で、目が離せなくなりました。アイヌのうたをもっと聴きたいと思いました。
- ・演者や歌、音声、シルエット、全てとても心に残るよい公演でした。県美の8階の展示で、公演の思い出に浸ることが出来るのでとても良いです。後から何度も足を運んでいます。

(マユンキキ『クシテ』)

- ・オル太、大変興味深く鑑賞させて頂きました。様々なパフォーマンスが次から次へと繰り広がる中で、歴史的背景から強制労働、性による差別など本当にリアルに表現されていた。
- ・回遊型の舞台は初めてでした。演者さんを間近で観られたり、自身が参加しているようで大変面白い体験でした。舞台装置も興味深く楽しませていただき感謝です。

(オル太『Eternal Labor』)

- ・ポップ・アップ！のウイスィさんの作品が良かったこと、鳩さんが出演する作品ということで鑑賞しました。予測不可能な鳩さんの動きはどんなものか緊張して開演時間を迎えましたが、不思議とアーティストの動き・音楽とシンクロしてみえて、場から生み出される遠心力に巻き込まれる感覚が心地良かったです。

(セルマ&ソフィアン・ウイスィ『Bird』)

- ・コの字型に舞台を客席が囲んでいたため、上演が始まった瞬間、観客である自分が“人類館”を見に来た来場者になるようでとても緊張しました。一方で、沖縄言葉だけで話される場面になると、一気に舞台上から自分が突き放されていくようで、日本と沖縄の歴史や距離感を再現されているような気持ちになりました。
- ・いろいろな想いが湧き上がり、考えさせられる作品でした。

(AKNプロジェクト 喜劇『人類館』)

- ・国内では、なかなか見る機会のない公演を鑑賞することができて、とても良かった。鎮魂という言葉が頭に浮かんだ。深い精神性を感じさせるダンスパフォーマンスだったと思う。

(フォスタン・リニエクラ『My body, my archive』)

■ 「あいち2025」ポップ・アップ！

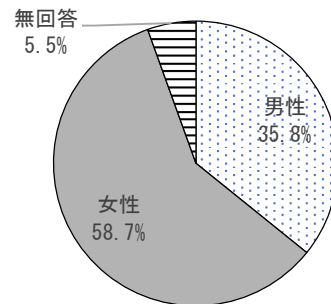
実施時期	巡回展示「ポップ・アップ！」の開催日
調査対象	巡回展示「ポップ・アップ！」の来場者（4会場）
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、出口付近に設置したアンケートボックスにて回収
回収数／来場者数	1,403人／3,336人（42.1%）

- ・ 年齢が高くなるにつれ来場者の割合が大きくなっている。また、住まいについては、開催市町からの来場が5割近くを占め、地域に近いイベントであった。
- ・ 展示内容の感想については、「とても良かった」と「良かった」が合わせて89.7%を占め、好評であった。また、本展未来場の方に対する、展示を見て「あいち2025」の本展会場に行ってみようと思ったかという質問において、5割近くの方が「思った」と回答し、現代美術の普及という当展の目的を果たすことができた。

○ 回答者の属性

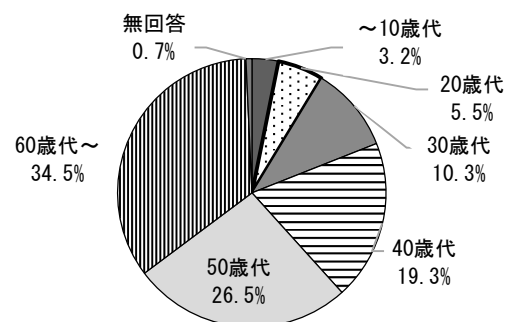
● 性別

選択肢	数	割合
男性	502	35.8%
女性	824	58.7%
無回答	77	5.5%
計	1,403	100.0%



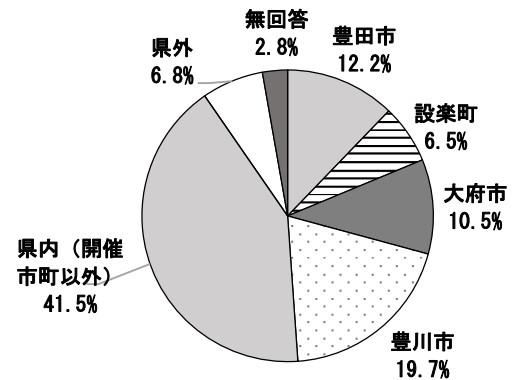
● 年齢

選択肢	数	割合
～10歳代	45	3.2%
20歳代	77	5.5%
30歳代	145	10.3%
40歳代	271	19.3%
50歳代	372	26.5%
60歳代～	483	34.5%
無回答	10	0.7%
計	1,403	100.0%



● お住まい

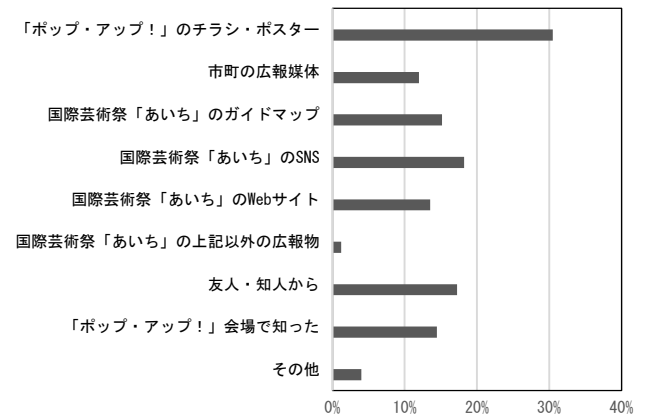
選択肢		数	割合	計
開催市町	豊田市	171	12.2%	48.9%
	設楽町	92	6.5%	
	大府市	147	10.5%	
	豊川市	276	19.7%	
県内（開催市町以外）		582	41.5%	41.5%
県外		96	6.8%	6.8%
無回答		39	2.8%	2.8%
計		1,403	100.0%	100.0%



○ 来場理由

● ポップ・アップ！をどのようにお知りになりましたか？（複数回答可）

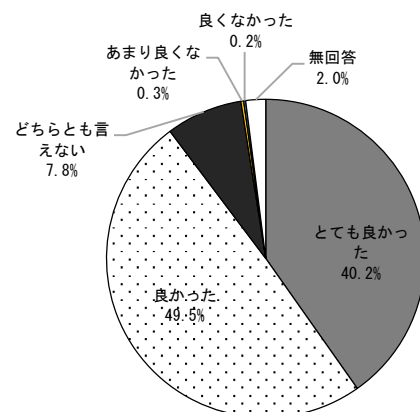
選択肢	数	割合	
「ポップ・アップ！」のチラシ・ポスター	428	30.5%	
市町の広報紙	168	12.0%	
国際芸術祭「あいち」の	ガイドマップ	213	15.2%
	SNS	256	18.2%
	Webサイト	190	13.5%
	上記以外	17	1.2%
友人・知人から	242	17.2%	
「ポップ・アップ！」会場で知った	203	14.5%	
その他	56	4.0%	
計	1,773	—	



○ 展示の感想

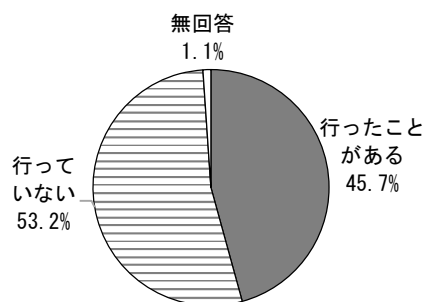
● 展示の内容はいかがでしたか？

選択肢	数	割合
とても良かった	564	40.2%
良かった	694	49.5%
どちらとも言えない	109	7.8%
あまり良くなかった	4	0.3%
良くなかった	3	0.2%
無回答	29	2.0%
計	1,403	100.0%



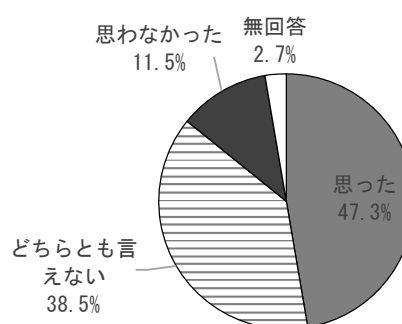
● 国際芸術祭「あいち2025」の本展会場（愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市）に行ったことはありますか？

選択肢	数	割合
行ったことがある	642	45.7%
行っていない	746	53.2%
無回答	15	1.1%
計	1,403	100.0%



● (前問で「行っていない」と答えた方のみ) 本日の展示を見て、「あいち2025」の本展会場に行ってみたいと思いましたか？

選択肢	数	割合
思った	353	47.3%
どちらとも言えない	287	38.5%
思わなかった	86	11.5%
無回答	20	2.7%
計	746	100.0%



○ 自由意見抜粋

- ・ 芸術には詳しくなくても楽しめました。
- ・ 展示品とコラボした展示が面白かった。場所を生かしているいいなと思った。今回の芸術祭のための新作が展示してありよかったです。ポップ・アップ！だけの展示はもったいないと思いました。
- ・ 奥三河で芸術作品の展示を観ることができてとても良かった。
- ・ 大府でポップ・アップ！が開催されるなんてとてもうれしいです！もっと長くやってほしい。
- ・ 学芸員の方のお話が分かりやすく、作品の魅力をさらに引き立ててください、参加して本当に良かったと思いました。
- ・ 芸術は難解なところもありますが、感性を刺激されて楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ ベビー連れでは美術館にいきづらいますが本展会場に行こうと思いつつなかなか足を運ばなかったのここを見てやっぱり行こうと思った。今回一緒に来られて嬉しかったです。
- ・ 地方都市の文化施設の設備をうまく使って、とても見ごたえのある展示になっていました。ポップ・アップ！ならではのここで見られない展示と作品に出会えてすばらしい機会だと思います。ぜひつづけてほしいです。きてよかったです。
- ・ 本展作品とは違い、コンパクトにまとめてあった。各アーティストの良い部分、特徴を存分に出している展示になっていた！！

(2) 関係者・関係機関等アンケート

区分	対象者数	回収数	回収割合	該当ページ
ボランティアプログラム	1,099人	307人	27.9%	117ページ
連携企画プログラム	28団体	14団体	50.0%	123ページ
パートナーシップ・プログラム	90団体	41団体	45.6%	124ページ
学校向け団体鑑賞プログラム	21校	10校	47.6%	126ページ

■ ボランティアプログラム

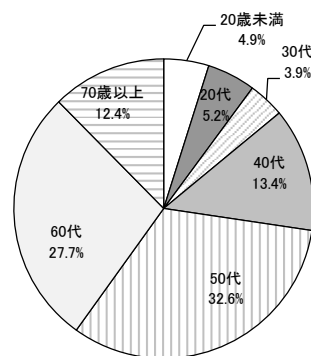
実施時期	12月
調査対象	ボランティア参加者
配布・回収方法	Web
回収数／対象者数	307人／1,099人(27.9%)

○ 回答者の属性

- ・ 10歳代から70歳以上まで、幅広い年代の方に参加していただいた。職業については会社員と無職、主婦・主夫の方の割合が高くなっている。
- ・ 以前にボランティア活動を経験したことのある方が64.8%を占め、そのうち59.3%の方が「過去のあいちトリエンナーレ・国際芸術祭「あいち」でのボランティア」経験ありと回答している。

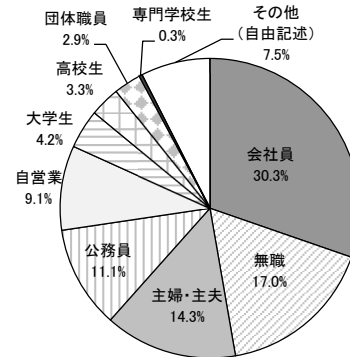
● 年齢

選択肢	数	割合
20歳未満	15	4.9%
20代	16	5.2%
30代	12	3.9%
40代	41	13.4%
50代	100	32.6%
60代	85	27.7%
70歳以上	38	12.4%
計	307	100.0%



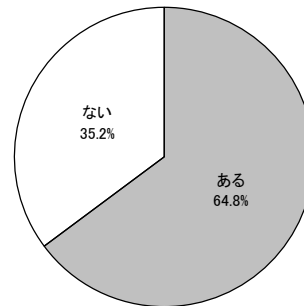
● 職業

選択肢	数	割合
会社員	93	30.3%
無職	52	17.0%
主婦・主夫	44	14.3%
公務員	34	11.1%
自営業	28	9.1%
大学生	13	4.2%
高校生	10	3.3%
団体職員	9	2.9%
専門学校生	1	0.3%
その他(自由記述)	23	7.5%
計	307	100.0%



● 「あいち2025」のボランティアに参加する前に、ボランティア活動に参加した経験がありますか

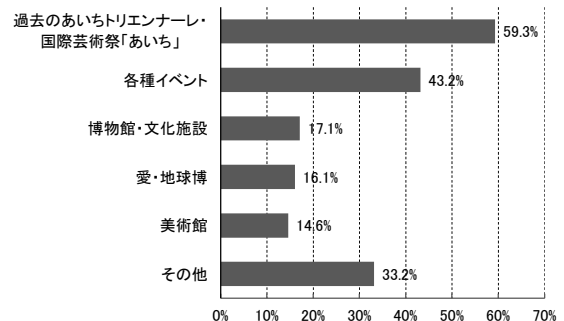
選択肢	数	割合
ある	199	64.8%
ない	108	35.2%
計	307	100.0%



● これまで、どのようなボランティア活動に参加されましたか(複数回答可)

※前問で「ある」と回答した方のみ

選択肢	数	割合
過去のあいちトリエンナーレ・国際芸術祭「あいち」	118	59.3%
各種イベント	86	43.2%
博物館・文化施設	34	17.1%
愛・地球博	32	16.1%
美術館	29	14.6%
その他	66	33.2%
計	365	—

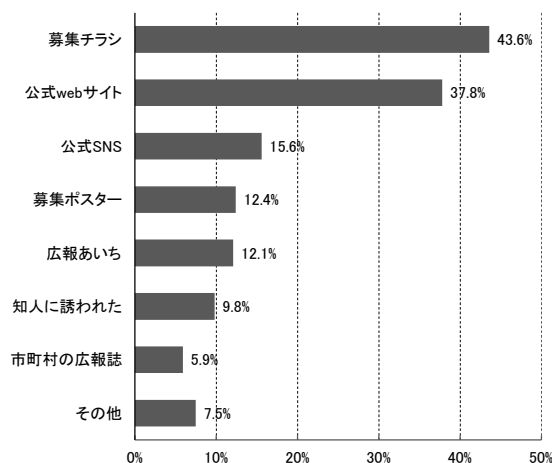


○ 参加理由

- ・ 募集を知ったきっかけは、「募集チラシ」と「公式 Web サイト」が多い。
- ・ 参加理由としては、「現代アートや文化芸術関係に興味があったから」や「あいち2025に興味があったから」という回答の割合が最も高いが、「ボランティア活動に興味がある」との回答の割合も高くなっている。

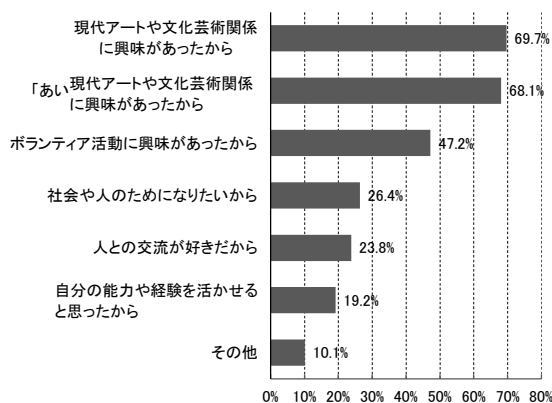
● ボランティア募集について、どのように知りましたか(複数回答可)

選択肢	数	割合
募集チラシ	134	43.6%
公式webサイト	116	37.8%
公式SNS	48	15.6%
募集ポスター	38	12.4%
広報あいち	37	12.1%
知人に誘われた	30	9.8%
市町村の広報誌	18	5.9%
その他	23	7.5%
計	444	—



● ボランティアに参加した理由をお聞かせください(複数回答可)

選択肢	数	割合
現代アートや文化芸術関係に興味があったから	214	69.7%
「あいち2025」に興味があったから	209	68.1%
ボランティア活動に興味があったから	145	47.2%
社会や人のためになりたいから	81	26.4%
人との交流が好きだから	73	23.8%
自分の能力や経験を活かせると思ったから	59	19.2%
その他	31	10.1%
計	812	—

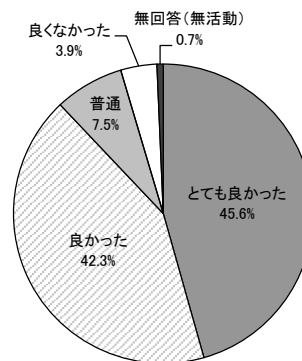


○ 感想

- ・ ボランティア活動に参加して、「とても良かった」又は「良かった」と回答した方の割合は87.9%に上った。その理由として、「現代アートや文化芸術関係に携わることができた」が88.9%で最も高く、続いて「来場者と交流することができた」が53.3%と高くなっている。
- ・ 次回の芸術祭など、今後このような芸術イベントにボランティアとして参加したいかとの問いには、86.0%の方が「参加したい」又は「参加を検討したい」と回答した。

● ボランティア活動をしていかがでしたか

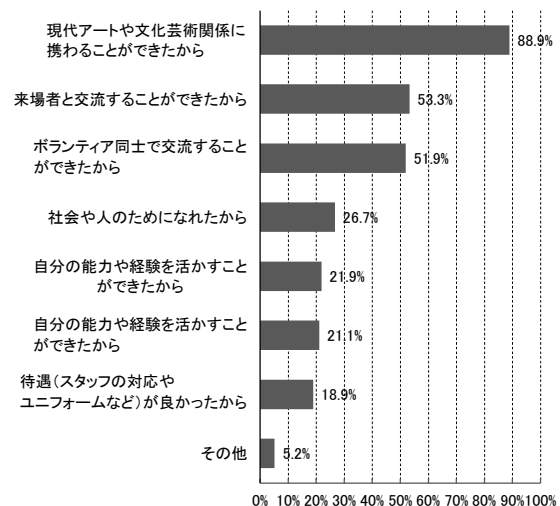
選択肢	数	割合
とても良かった	140	45.6%
良かった	130	42.3%
普通	23	7.5%
良くなかった	12	3.9%
無回答(無活動)	2	0.7%
計	307	100.0%



● どのような面で良かったと思いますか(複数回答可)

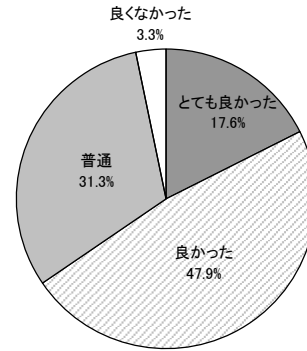
※前問で「とても良かった」「良かった」と回答した方のみ

選択肢	数	割合
現代アートや文化芸術関係に携わることができたから	240	88.9%
来場者と交流することができたから	144	53.3%
ボランティア同士で交流することができたから	140	51.9%
社会や人のためになれたから	72	26.7%
自分の能力や経験を活かすことができたから	59	21.9%
研修が充実していたから	57	21.1%
待遇(スタッフの対応やユニフォームなど)が良かったから	51	18.9%
その他	14	5.2%
計	777	—



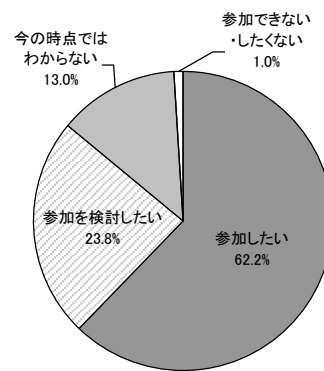
● 全体研修の内容はいかがでしたか

選択肢	数	割合
とても良かった	54	17.6%
良かった	147	47.9%
普通	96	31.3%
良くなかった	10	3.3%
計	307	100.0%



● 今後「あいち2025」のような芸術イベントにボランティアとして参加したいとお考えですか

選択肢	数	割合
参加したい	191	62.2%
参加を検討したい	73	23.8%
今の時点ではわからない	40	13.0%
参加できない・したくない	3	1.0%
計	307	100.0%



○ 自由意見抜粋

- ・ 対話型鑑賞ツアーに参加されたお客様から「ほんとにいい芸術祭ですよね！」とお声を掛けていただき、とても嬉しかったです。あいちの国際芸術祭のファンになってくださる方が増えているように感じます。これからも続いていくことを願っています。
- ・ 今回、ボランティア活動自体が初参加でした。ラーニングボランティア「あいま研」での参加でしたが、とても楽しく、充実した活動になりました。とくに自主企画を来場者向けとボランティア向けとふたつ立ち上げ、大変でしたが周囲の多くの方のご協力により、想像以上のものとなりました。企画すること、ワークショップを実践すること、多くの方と協創・共創することなど、短い期間でしたが非常に多くのことを学びました。
- ・ 初めてのボランティア活動で参加前は不安もありましたが、いざ参加してみるとボランティア事務局の方の対応も明るく丁寧で、他の参加者の方も気軽に情報共有してくださり、安心して楽しく毎回参加することができました。シフト変更への対応も早く、安心できました。ユニフォームもしっかりした品で、記念になりました。夏場の屋外活動はやはり暑かったので、次回もあるなら送風ファン付きの夏用ジャンパーや、公式日傘などがあると良いかもしれません。今回参加できて良かったです。ありがとうございました。
- ・ 来場者や同じボランティアの方との交流が楽しく、とても有意義な体験でした。今後も続けていただけるとありがたいです。他に県芸の特別展等のボランティアがあれば参加したいです。
- ・ これをきっかけに、また色々参加して新たな経験をしたい。
- ・ 1つ気になったのは、配置シフトの表が同じ日でも複数種類あったことです。次に誰か配置に付くのか、それとも空白時間になるのか。逆に配置人数が多いが、自分がポジション間違えてないか。なかなか不安になる部分でしたので、別の表も併用される場合は案内があると安心します。ともあれ、足腰にしんどさを感じつつ、終始楽しんで活動させていただきました。お世話になり、ありがとうございました。
- ・ 初めてラーニングボランティアとして活動し、芸術祭がどんな感じで実施され、スタッフの方達がいろいろ細かいところに気を使って努力されているのがよく分かった気がした。もしまた国際芸術祭が開かれるなら、その間このラーニングのような活動が有志で少しずつでも続けられたらいいかなと思った。年代や性別に関係なく活動できて、すごくいい刺激になった。
- ・ 立ちっぱなしなので時間が長くなると辛かった。今回はボランティア同志の交流があまりなかった。今回は参加希望者が多かったようで、芸文での活動が少なく残念でした。
- ・ ボランティアが、作品の近くにいること、存在していることが、芸術祭の賑わいを生み出す要素のひとつではないかと思いました。もう少し毎日の配置人員を増やしても良いのではないかと感じました。
- ・ 自主的に考えなければならぬ時もあり、あとで対応が良かったのか反省する事もありました。陶磁美術館の方は聞き取りをして下さったり、ノートを置いてくださったので良かったです。芸術センターの方は人数が多い分、ピリピリされていたのか緊張しました。

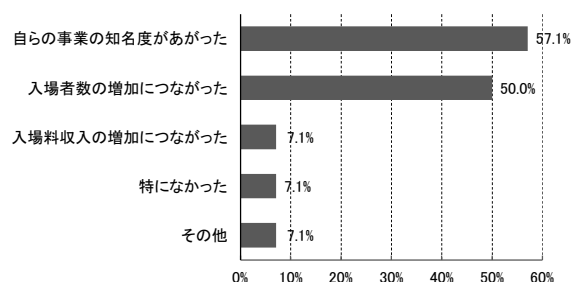
■ 連携企画プログラム

実施時期	12月
調査対象	連携企画プログラム参加団体
配布・回収方法	インターネットを利用して回答
回収数／対象団体数	14団体／28団体(50.0%)

- ・ 連携企画プログラムへ参加して感じた効果については、「自らの事業の知名度があがった」が57.1%、「入場者数の増加につながった」が50.0%と高かった。
- ・ 次回の芸術祭において連携企画プログラムがあれば参加したいか聞いたところ、「是非参加したい」「可能であれば参加したい」が合わせて92.8%であった。
- ・ 満足度としては、「大変満足」と「満足」が合わせて100%であった。

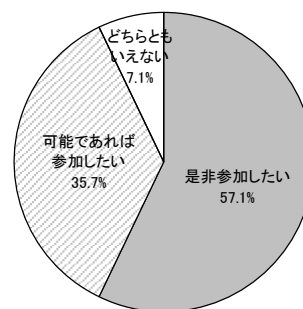
● 「連携企画プログラム」の相互広報・割引等によって、どのような効果があったと感じますか(複数回答可)

選択肢	数	割合
自らの事業の知名度があがった	8	57.1%
入場者数の増加につながった	7	50.0%
入場料収入の増加につながった	1	7.1%
特になかった	1	7.1%
その他	1	7.1%
計	18	—



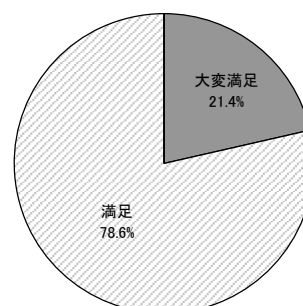
● 本芸術祭が次回も開催される場合、「連携企画プログラム」が実施されるとしたら、参加したいと思いますか

選択肢	数	割合
是非参加したい	8	57.1%
可能であれば参加したい	5	35.7%
どちらともいえない	1	7.1%
参加しない	0	0%
計	14	100.0%



● 連携企画プログラムに対する満足度をお聞かせください

選択肢	数	割合
大変満足	3	21.4%
満足	11	78.6%
どちらともいえない	0	0%
不満	0	0%
計	14	100.0%



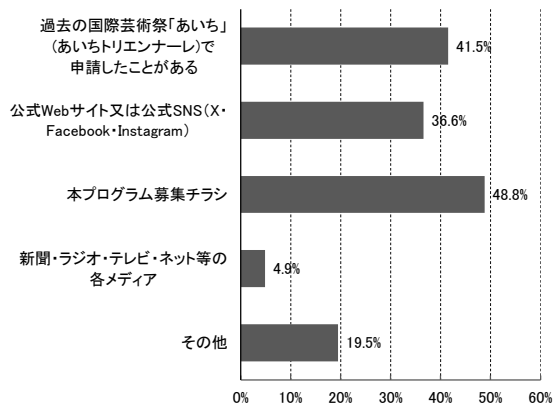
■ パートナーシップ・プログラム

実施時期	12月
調査対象	パートナーシップ・プログラム参加団体
配布・回収方法	インターネットを利用して回答
回収数／対象団体数	41団体／90団体(45.6%)

- ・満足度としては、「大変満足」と「満足」が合わせて85.4%、「どちらともいえない」が9.7%、「不満」が4.8%となっている。
- ・パートナーシップ・プログラムへ参加して感じられた効果については、「自らのプログラムの知名度が上がった」が63.4%、「ブランド力が高まった」が39.0%、「入場者数の増加につながった」が24.4%であった。
- ・次回、本芸術祭のパートナーシップ・プログラムがあれば参加したいか聞いたところ、「是非参加したい」「可能であれば参加したい」が合わせて90.3%であった。

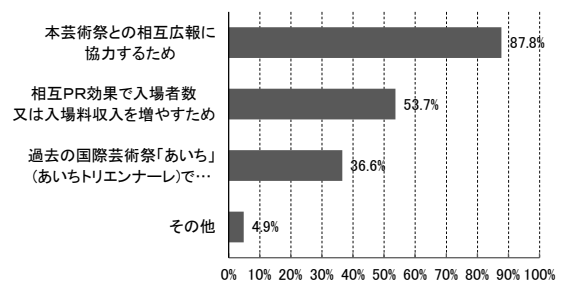
● 「パートナーシップ・プログラム」の募集を何で知りましたか(複数回答可)

選択肢	数	割合
過去の国際芸術祭「あいち」(あいちトリエンナーレ)で申請したことがある	17	41.5%
公式Webサイト又は公式SNS(X・Facebook・Instagram)	15	36.6%
本プログラム募集チラシ	20	48.8%
新聞・ラジオ・テレビ・ネット等の各メディア	2	4.9%
その他	8	19.5%
計	62	—



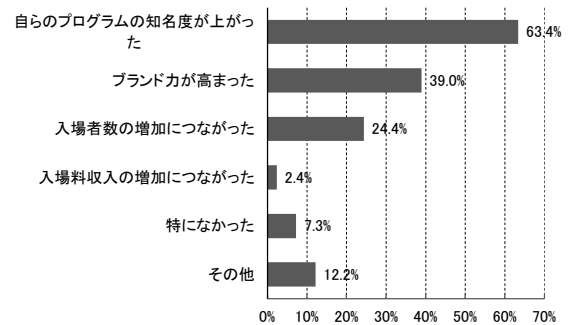
● 「パートナーシップ・プログラム」に参加された理由をお聞かせください(複数回答可)

選択肢	数	割合
本芸術祭との相互広報に協力するため	36	87.8%
相互PR効果で入場者数又は入場料収入を増やすため	22	53.7%
過去の国際芸術祭「あいち」(あいちトリエンナーレ)で申請したことがあるため	15	36.6%
その他	2	4.9%
計	75	—



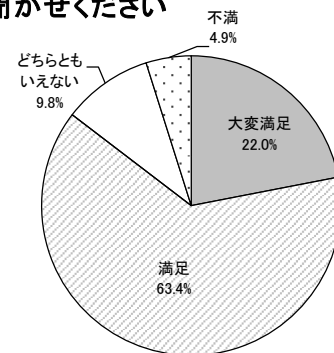
● 「パートナーシップ・プログラム」によって、どのような効果があったと感じられていますか(複数回答可)

選択肢	数	割合
自らのプログラムの知名度が上がった	26	63.4%
ブランド力が高まった	16	39.0%
入場者数の増加につながった	10	24.4%
入場料収入の増加につながった	1	2.4%
特になかった	3	7.3%
その他	5	12.2%
計	61	—



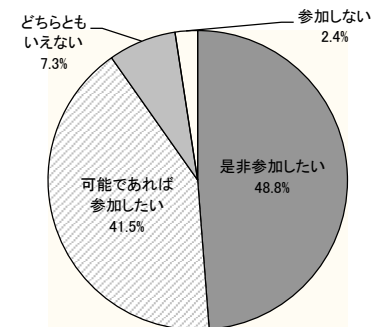
● 「パートナーシップ・プログラム」に対する満足度をお聞かせください

選択肢	数	割合
大変満足	9	22.0%
満足	26	63.4%
どちらともいえない	4	9.7%
不満	2	4.8%
計	41	100.0%



● 本芸術祭が次回も開催される場合、「パートナーシップ・プログラム」が実施されるとしたら、参加したいと思いますか

選択肢	数	割合
是非参加したい	20	48.8%
可能であれば参加したい	17	41.5%
どちらともいえない	3	7.3%
参加しない	1	2.4%
計	41	100.0%



○ 自由意見抜粋

- ・ 今後もパートナーシップ・プログラムを広く募集してほしいです。
- ・ パートナーシップ・プログラムの冊子がもう少し早く手元に届いたら良かったと感じました。
- ・ パートナーシップ・プログラムがあることで、芸術祭と一体感をあじわえ、また他のパートナーシップ・プログラムの方々との交流もうまれ、本当にうれしい日々でした。
- ・ 当初は選抜されて採用されるものだったが、(おそらく)すべての希望者が選ばれて、パートナーとしての価値が下がったように思う。またあいち2025のインスタでも、「リポスト」などで、しっかりとパートナーシップ・プログラムをとりあげてほしい。こちらではしっかり広告しているのに、という気持ちにはなったのが残念だった。

- ・パートナーシップのチラシを見てご来場いただけた方がいました。
- ・今回は宣伝が遅かったと思いました。しかしパートナーシップの冊子まで作っていただいたことに感謝致します。
- ・専用のパンフレットへの掲載などもしていただき、ご案内がしやすく、関係者の方々にもお話しやすかったです。
- ・パートナーシップ事業者のグループSNSなど、自由に書き込みができるサイトがあると、もっと沢山の方々に観てもらえるかな、と考えます。
- ・パートナーシップ・プログラムは素晴らしい活動なので、今後も是非続けていってください。応援しております。一般を巻き込むことはもっとも重要なことだと考えております。ただし、「パートナーシップ・プログラム」という名称、および、その名称が何を意味しているのか分かりにくいです。一般との協力・共同・提携・舞台・展示・企画、名称の決定作業は大変かと思いますが、英語などの外国語に逃げることなく、日本語で表記すれば、さらなる応募や発展(活性化)が期待できると思います。
- ・今回はとても分かりやすいパンフレット型の冊子にまとめていただき、開催前にはダンボールで冊子を送っていただいたことで、イベント当日も来場者にスムーズにご案内することができました。イベントが掲載されていることも嬉しく、開催後も記念として大切に保管しようと思っています。
- ・相互広報など、もう少しきちんと連携できたらよかったというのが反省点ですが、国際芸術祭あいち出展アーティストもイベントを見学していただいたりと、パートナーシップ・プログラムとして良いコラボレーションができたと思っています。

■ 学校向け団体鑑賞プログラム

実施時期	12月
調査対象	学校向け団体鑑賞プログラム参加校
配布・回収方法	メール
回収数／対象団体数	10校／21校※(47.6%)

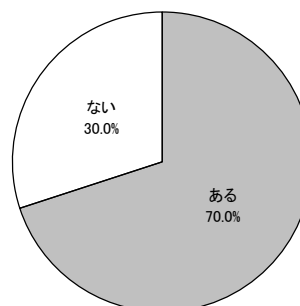
※複数日で参加した学校はまとめて1校分としてアンケートを依頼

○ 学校向け団体鑑賞プログラム参加校

- ・学校向け団体鑑賞プログラム参加校21校にアンケートを行い、10校から回答を得た。
- ・参加した児童・生徒が現代美術に興味を持つ機会になったと思うか、との問いについては、「とても思う」又は「思う」と回答した方の割合が100.0%であった。

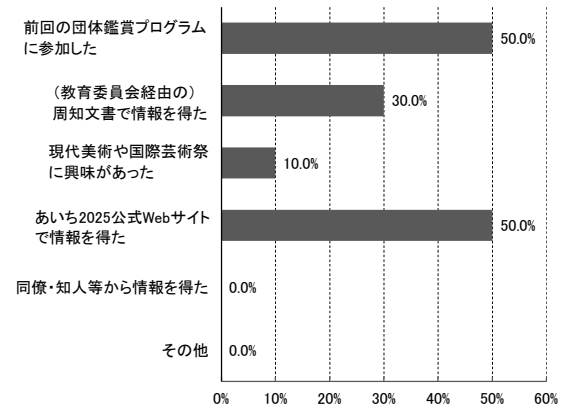
● これまでに、学校団体(部活動含む)で美術展を観覧したことはありますか。

選択肢	数	割合
ある	7	70.0%
ない	3	30.0%
計	10	100.0%



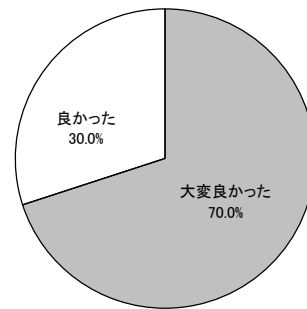
● 今回のプログラムをお知りになったきっかけをお聞かせ下さい(複数回答可)

選択肢	数	割合
前回の団体鑑賞プログラムに参加した	5	50.0%
(教育委員会経由の)周知文書で情報を得た	3	30.0%
現代美術や国際芸術祭に興味があった	1	10.0%
あいち2025公式Webサイトで情報を得た	5	50.0%
同僚・知人等から情報を得た	0	0%
その他	0	0%
計	14	—



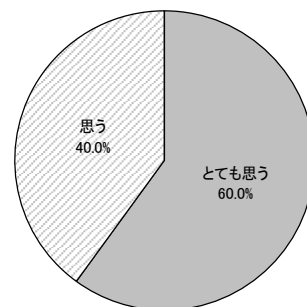
● 学校団体鑑賞プログラムに参加していかがでしたか

選択肢	数	割合
大変良かった	7	70.0%
良かった	3	30.0%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	10	100%



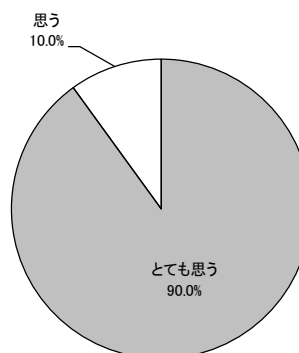
● 団体鑑賞に参加したことで、貴校の児童・生徒が現代美術に興味・関心を持つ機会になったと思われますか

選択肢	数	割合
とても思う	6	60.0%
思う	4	40.0%
あまり思わない	0	0%
思わない	0	0%
計	10	100%



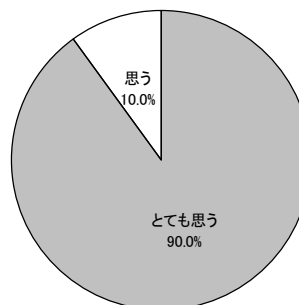
● 今後も校外での美術展鑑賞を実施したいと思われませんか

選択肢	数	割合
とても思う	9	90.0%
思う	1	10.0%
あまり思わない	0	0%
思わない	0	0%
計	10	100%



● 今後も国際芸術祭「あいち」の団体鑑賞プログラムに参加したいと思いますか

選択肢	数	割合
とても思う	9	90.0%
思う	1	10.0%
あまり思わない	0	0%
思わない	0	0%
計	10	100%



○ 自由意見抜粋

- ・美術館という場所のため、ツアーガイドの方が声を敢えて小さくしていらっしゃったのですが、美術館の中に音が流れていたり、鑑賞者も多い日だったため聞き取りにくい場面もあつたりしました。あと積極的に発言する子たちは、鑑賞の楽しさを存分に味わえたようですが、おとなしい子たちがどれだけ楽しめていたのかわからないので、次回の活動のときに聞いてみようと思います。とはいえみんな真剣に作品を見ていたので、やはり対話型鑑賞を体験することでアートを味わう喜びを感じてくれたと思います。
- ・生徒からは「面白かった」という声が一番多く届きました。また生徒の意外な一面を見ることができ、とても有意義な時間となりました。ありがとうございました。
- ・生徒の満足度が大変高かったです。今後ともよろしく願いいたします。
- ・現代アートについて授業で指導していたけれど、本物の作品を目の前で鑑賞できることは刺激になったようで、帰りに楽しかった、また行きたいという声をたくさん聞くことができました。また参加したいです。この度はありがとうございました。またよろしく願いします。
- ・ありがとうございました。ボランティアの方がグループ2人ずつついて下さり、とても丁寧に館内を回ったり、作品を鑑賞しながら対話したりできて、普段の美術鑑賞とは違う経験ができてよかったです。次回機会がありましたら、次は、対話型鑑賞は今回参加できたので、自由鑑賞も選択肢に入れて検討したいと思いました。
- ・現代アートの楽しみ方がわかった。
- ・10何人で2人のガイドさんについていただくなら、ガイドさん1人に数人に分けてもらった方が子どもたちの集中も、対話もしっかりできるのではないかなと感じました。

4 有識者意見

- ・ 文化芸術に関する専門的な知識・見識を有する者10名にヒアリングを行い、「あいち2025」に対する評価や今後の展開に向けたアドバイスをいただいた。
- ・ 海外出身の芸術監督による明確で一貫したテーマ設定のもと、グローバルサウスを含む国際的視点を高い作品クオリティで提示し、国際芸術祭として極めて高い水準を示したと評価された。
- ・ 会期を秋に移した判断と、まちなか・美術館を生かした会場構成により、作品と都市の関係が深まり、愛知らしい周遊型芸術祭の魅力が最大限に発揮されたとの意見があった。

■ ヒアリング対象者

(敬称略)

氏名	職名等
久野敦子	セゾン文化財団常務理事
藤井慎太郎	早稲田大学 文学学術院教授
浅野健	株式会社都市研究所スペース取締役
高橋綾子	名古屋造形大学教授
服部今日子	Paceギャラリー副社長 / フィリップス東京オフィス
島敦彦	国立国際美術館館長 元愛知県美術館館長
星野太	東京大学大学院 総合文化研究科准教授
木村絵理子	弘前れんが倉庫美術館長
岡村恵子	東京都写真美術館学芸員
光岡寿郎	東京経済大学 コミュニケーション学部教授

■ 「あいち2025」に対する評価

○ 評価できる点

- ・ 海外からの芸術監督という試みも非常に良かった。芸術監督が、先進国中心ではなくグローバルサウスのアーティストを多く選定されていて、チャレンジングなことだったと思う。オープニングにおける芸術監督の声明には、大変共感した。
- ・ 芸術監督のフール・アル・カシミさんのテーマ設定と62作品が見事に調和していた。極めて高いレベルの国際展だったと思う。私の周りには海外からの留学生たちからも、過去の日本で見た美術展で一番良かったという評価だった。
- ・ 芸術監督のテーマ設定と声明文からは強いメッセージを感じ、かつ作品もクオリティが高くメッセージに沿い、一貫性を持って見せていたという点で素晴らしい芸術祭だと思った。日本では、世界で起きている状況や海外で何が評価されているかということ、アートの視点で見ることはなかなかない。それが、今回は十分満たされている。
- ・ 海外の人からも、実際に見た人にはとても良い評価を聞いている。愛知の土地を活かした作品(文化や産業など)であり、その上でしっかりしたメッセージがあった。
- ・ 現代美術の一般的なテーマ(社会性、人間の内面性などに切り込むようなテーマ)とは違って良かった。現代美術に対する自分の考え方が、ステレオタイプ化していたことを反省した。実際は、非常に今日的な問題をはらんでいる内容だった。美術からのアプローチとしてはこういう方法もあるのだと感じた。

- ・ 芸術祭の準備期間から開催中も、世界各地での戦争や分断がますます深刻化する中で、単に昨今の時事的な問題提起ではなく、もっと広い視野と射程で「地質学的な時間軸で捉え直す」という意図が、各作家たちに共有され、またそうした意識のある作家たちが選ばれ、その成果が披露されたと言えよう。もちろん、翻訳の問題や普段馴染みのない国や地域の複雑な歴史や自然、産業史など、一度展示や公演を見ただけでは必ずしも腑に落ちない難しさはあった。
- ・ 国際芸術祭としては、時代との向き合い方のテーマが大切だと思う。今回はそれがしっかり出ていた。世界で起こっていることを身近に感じさせてくれるきっかけにはなっている。
- ・ 会期を夏から秋に移行した点については、トリエンナーレ以来、まちなか会場を回遊する楽しみを加えている愛知の芸術祭にとっては、とても良い判断だったと思う。今後もこの時期に設定することを期待したい。
- ・ 観光とアートが結びついている芸術祭が多い中、観光優先ではない地方都市での開催を行い、まちとアートがしっかり結びついている点が評価できる。愛知は観光ではなく芸術で勝負している点が良い。
- ・ 今回は、まちなか展開がとても良かった。狙って、まちに出てもらいたいという意図が最もうまくいったのではないかな。まちの資産と作家の作品がうまくマッチしていた。作家が力を発揮したという印象がある。
- ・ 愛知芸術文化センターについては、展示が美しかった。空間の使い方、壁も動線も良い。一緒に観賞した美術関係者（学芸員）も高く評価していた。作品数も絞られていて、ゆっくり見られた。芸術監督の意図や想いを学芸員が理解し、しっかりした文脈を作り上げていた。
- ・ 今回は、愛知県美術館に加え、愛知県陶磁美術館が会場になったが、それぞれが単なる貸会場ではなく、企画性のある美術館であることを、今回の展示（キュレーション）を通じ示すことができた。注目していた作家たちの新作を通じ、陶磁美術館の力の入れ具合、思い入れや意気込みが伝わってきた。
- ・ パフォーミングアーツについては、「灰と薔薇のあいまに」というテーマに対する向き合い方が、舞台美術（装飾など）にもしっかり現れている作品が多く、面白かった。
- ・ 手ごろな値段でパフォーミングアーツが見られるという機会は大切。これも継続してもらいたい。
- ・ 作家が62組ということも評価したい。同規模の芸術祭や、過去の愛知の芸術祭に比べても作品数としては少なかったが、それが良かった。適切なスケールだと思った。しっかり作品と向き合うことができた。1組にかけられる予算も多くなってきたのではないかな。各作品ともクオリティが高くなったと思う。
- ・ 継続的に大都市圏で行われてきた芸術祭として日本を代表するものになっている。海外のアート関係者からも、横浜と愛知は認知されている。
- ・ トリエンナーレから国際芸術祭に改称され、祝祭性を取り戻しながら再スタートした前回は踏まえ、国際的な状況の中で、国際芸術祭が国内においてこの時代に何をすべきかを、具体的に示す一つの回答だった。バランスを取り過ぎると見えなくなるメッセージを、今回は一貫した姿勢で思い切ったされたと思う。芸術監督が現代美術の専門家であったことも評価したい点だ。
- ・ 前提として、芸術祭において2泊3日は考えづらいので、今回の「愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか」は1泊2日で回れる立地であることが良い。
- ・ カタログが最後の1週間で出来上がったことは、終わってから出来上がるよりも良い効果が出ると思う。
- ・ 会場以外のサイン関係にも工夫があつて良かった。歩きながらアートを楽しむのによい距離であった。

○ 改善・修正すべき点

- ・ 無料配布のパンフレットからは、芸術監督の想いがあまり伝わってこない。テーマと作品とのつながりがもっと記載されていれば理解が深まる。
- ・ 産業的には世界に通じる愛知県存在感を、文化的にも発信するべき。
- ・ パフォーミングアーツについて、遠方から毎週末に1本だけ見に行くことはなかなかできない。前回は週末に2~3本見られるような配慮があった。週末に複数本見られるようになればありがたい。
- ・ 会期を秋にしたことで、パフォーミングアーツのフェスティバルが3つ重なった。(東京・愛知・京都)重なって見られないプログラムがあったので、主催者同士での調整ができれば集客にも良い効果がでると思う。
- ・ パフォーミングアーツは、とても良心的な価格で観られる。舞台芸術に触れる人を増やすためにも、この料金を活かしながら、もう少し有名なパフォーマーも入れてほしい。
- ・ 周回する順番を伝える方法に工夫があると良い。私は、瀬戸から周ったがストーリーが分かりづらいと感じた。前提として、3つの会場の周回順があるとストーリーがより伝わるのではないかと。
- ・ 名古屋市美術館の再参加の検討。若い学芸員にとっては、芸術祭に関わることは大きな刺激となる。地域のアートシーンの底上げのためにもお願いしたい。
- ・ 名古屋市内への街中展開がいくつかピンポイントでも行われることを期待したい。
- ・ 名古屋市内での分散(芸文以外の会場)がなかったこと。本体の拡張ということだけではなく、他の文化資源との連動が会期を通じて行われていれば、いろんな人がいろんな関わり方を持つことができ、それが祝祭性にもつながるのではないかと。
- ・ 愛知県の魅力を伝える意味で、例えば、知多半島の海や食とセットにするツアー方式、つまり都市型+食べ物ツアーの提案も面白い。
- ・ 日本においても、全国で多数の芸術祭や展覧会がある中、コアなアートファンにもまだまだ届いていない面がある。アートシーンの中で、キーとなるスポークスパーソンを活用するというのは有効である。
- ・ ラーニング・プログラムは、参加者以外になかなか浸透しないので、一般の来館者にも伝わる何か顕在化させる方法をもう少し探ってもいいように思われた。
- ・ 大きなプロジェクトを人材育成に結び付けるために、大学とアート関係者との関わりをもっと増やしたらどうか。美術だけではなく舞台芸術もあり、学んでいる人は多い。人材流出(首都圏などへ)を食い止めることにもなる。
- ・ 地元との連携が少し希薄になっていると感じる。ある授業で生徒に国際芸術祭に行ったかを聞いたが、一人もいなかった。特に芸大学生には強い動機づけが必要ではないか。地元のアート関係者からも若干距離のある対応を感じるという声が聞こえてきている。
- ・ 今後、美術館主体に事業を行いながら、作品の収蔵を増やし、広域展開と連動しながら事業を拡張し(トリエンナーレからビエンナーレへの移行なども含め)、人材を愛知に残していくという長期ビジョンを立案していったらどうか。

○ 今後の展開に向けたアドバイス

- ・ 愛知の芸術祭の場合は、議論ができる場になっている。このスタンスを続けてほしい。愛知は、歴史・産業的に重要な場所。地方会場はぜひ続けて欲しい。
- ・ 国内の多くの芸術祭が地域活性化を目的としている中で、愛知は、アートのための芸術祭である。これからもそのベクトルで突き進むべき。
- ・ 愛知の特色として、名古屋市以外にも独自色のある市町村が多い。これは他県ではあまり成り立たないと思う。愛知県は独特のアート文化がある。(ゼロ次元、REARなど)そういう意味で、愛知県内の美大との連携もあると良いのではないか。
- ・ アートとアート以外のキーワード／趣味・興味(食・音楽・ファッションなど)を紐づけ、それらの繋がりや関係性を生み出すことが大切。シンプルに楽しいと感じ、楽しみながらアートに触れることができる状態をつくる。
- ・ 日本における芸術祭は、「都市型」「地域型」の2つに分類される。その中で、愛知は「ハイブリッド型」という新しいタイプを打ち出してきた。これはユニーク。県外から訪れる人にとって、あるいは愛知の芸術祭に対するコミットメントが高い人にとっては楽しみだと思う。過去の開催都市をマッピングしていくこと、それを一度に見られるようにすることも、ハイブリッド型の特性をアピールするには良いのではないか。
- ・ 芸術監督が会期中も何らかの方法で関わりつづけられると良い。海外の芸術監督の場合、そのあたりの検討が必要だと思う。
- ・ 海外から招聘しても回せる組織であることが証明できた。ただ、世界に通じるクオリティの芸術祭を行うとき、どんな芸術監督が必要なのかを熟慮して選出すべき。国籍にこだわる必要はない。国際芸術祭あいちは今回までで、世界に通じる基盤はできたと思う。自信をもって世界に飛躍して欲しい。
- ・ 海外からの芸術監督を選定する際は、今回のように、芸術祭関係者との事前交流やコミュニケーションがしっかりとれている方にすると良い。
- ・ 海外で成功した人を持ってくるのではなく、今回のように愛知での独自展開ができる人、地元との連携ができる人なら、海外の芸術監督も良いと思う。
- ・ メッセージ性の強いプログラムをどんどん行ってほしい。今回は、あまり知られていないグローバルサウスの作家を起用したが、これも大きなチャレンジングな企画と言える。
- ・ 県立美術館や施設がやるのであれば、県のPRや県民サービスのなもので良いが、国際レベルで芸術表現をする場合は、世界・社会の動向に対する芸術祭としてのテーゼが大事である。
- ・ アーティストトークを行うと人が集まる。現状は、開催の3日前、4日前に決まることが多い。告知の時間が足りないので、改善する余地がある。
- ・ 芸術祭は3年に一度だが、前後にミニマムなイベントやワークショップなど芸術祭に向けた施策を積み重ねていくと良い。
- ・ 全体に落ち着いた展示で、個々の作家に十分な空間が与えられ、鑑賞しやすい雰囲気作りがなされていた。一方で、芸文センター内からはみ出るような空間の使い方、いわば意外性があまりなかった。映像はいくつかあったものの、動きのある作品や観客参加型の作品が少なかった。
- ・ 日本のマンガに対する海外のレスポンスはあるし、日本の学生たちもマンガを描いている子は多い。日本の新しい文化として、向き合っていくべきではないか。
- ・ 地面とつながっていることが重要。愛知芸術文化センターの10階・8階という難しさがある(子連れでは入りづらいかもしれない)。オアシス21をメインエントランスにして、芸術祭のイメージを一般の人に伝えると全く変わるのではないか。オープニングの1週間でも行えば、新たな層の獲得につながると思う。

5 経済波及効果

- ・「あいち2025」の開催により、愛知県内では約77.8億円の経済波及効果があったと考えられる。

■ 経済波及効果の推計結果

経済波及効果			
①+②+③	①直接効果	②第1次波及効果	③第2次波及効果
77.8億円	48.1億円	17.6億円	12.1億円

(推計：名古屋学院大学社会連携センター)

① 直接効果:

国際芸術祭「あいち」組織委員会等の2023年度から2025年度までの愛知県内での総支出と来場者消費支出(飲食・買い物、交通費、宿泊費)との合計による最終需要増加額

② 第1次波及効果:

直接効果が、その他の産業にもたらす生産誘発額

③ 第2次波及効果:

先の需要の発生により雇用者の所得が生まれるが、その雇用者が消費したことによる生産誘発額

○ 算出の前提条件等

- ・産業連関分析の方法により、「平成27年愛知県産業連関表(43部門表)」を用いて算出した。具体的な前提条件等は、次のとおりである。

● 主催者総支出額(県内支出分)

- ・国際芸術祭「あいち」組織委員会等の2023年度から2025年度までの総支出約13.6億円から、愛知県外への支出約1.2億円を差し引いた額とした。

区分	2023年度	2024年度	2025年度(見込)	計
国際芸術祭「あいち」 組織委員会 総支出(県内)	0.4億円	1.3億円	10.7億円	12.4億円

● 来場者数

- ・総来場者数は524,069人であるが、この中には複数会場を訪れた来場者がいることから、会期中に行った経済波及効果調査アンケートの調査結果を用いて、平均来訪会場数等を算出し、想定実来場者数を375,884人とした。うち宿泊者については、同アンケートの調査結果を用いて、約10.8%(40,595人)と推計した。

総来場者数(A)	平均来訪会場数(B)	平均来訪日数(C)	想定実来場者(A÷B×C)	うち宿泊者
524,069人	1.45か所	1.04日	375,884人	40,595人

● 来場者消費額

- ・ 経済波及効果調査アンケート等からわかる一人当たりの消費額に、想定実来場者数を乗じることで算出した。

区分	一人当たり消費額 (全体平均)	総消費額
飲食・買い物	3,981円	15.0億円
交通費	3,735円	14.0億円
宿泊費	16,724円	6.8億円
計	—	35.8億円

6 パブリシティ効果

- ・ 「あいち2025」のメディア報道におけるパブリシティ効果(広告費換算額)は、12.7億円以上と考えられる。

■ パブリシティ効果の推計結果

種別	掲載・放映件数	合計金額	備考(対象期間)
新聞(一般紙、ブロック紙、地方紙等)	119件	593百万円	2023年4月～2025年12月
雑誌(美術誌、一般紙等)	80件	82百万円	2023年4月～2025年12月
テレビ	36件	146百万円	2023年4月～2025年12月
ラジオ	16件	12百万円	2023年4月～2025年12月
Web	1,068件	440百万円	2023年4月～2025年12月
計	1,319件	1,273百万円	

(推計:株式会社NHKエンタープライズ)

※各メディアにおいて掲載・放映された同じ分量を広告出稿した場合の料金を1件ごとに算出し、その合計をパブリシティ効果の金額とした。

$$\left(\begin{array}{l} \text{新聞・雑誌のパブリシティ効果} = \text{原単位価格} \times \text{記事面積} \\ \text{テレビ・ラジオのパブリシティ効果} = \text{原単位価格} \times \text{放送時間} \\ \text{Webのパブリシティ効果} = \text{簡易換算方式(各Webサイトの広告金額の平均値を基準として加算)} \end{array} \right)$$

※掲載・放映の確認ができたもののみを対象として算出しているため、実際には12.7億円以上の効果があったと考えられる。



VII 組織委員会の状況等

1 組織委員会の収支状況

■ 総括（2023年度～2025年度）

○ 収入の部

（単位：千円）

区分	2023年度 （決算）	2024年度 （決算）	2025年度 （予算）※1	計
事業収入	—	—	125,185	125,185
負担金収入	42,483	137,263	1,135,866	1,315,612
広告・協賛金等収入	—	—	26,799	26,799
雑収入（利息等）	1	52	1	54
計	42,484	137,315	1,287,851	1,467,650

○ 支出の部

（単位：千円）

区分	2023年度 （決算）	2024年度 （決算）	2025年度 （予算）※1	計
事業費	37,120	135,266	1,264,038	1,436,424
管理費	5,364	2,049	13,240	20,653
予備費	—	—	10,573	10,573
計	42,484	137,315	1,287,851	1,467,650

※1 2025年度は、2026年3月現在で決算額が未確定のため、予算額を記載

■ 2023年度内訳(決算)

○ 収入の部

区分		金額(円)
負担金収入	愛知県負担金	42,482,151
雑収入	受取利息	1,148
計		42,483,299

○ 支出の部

区分		金額(円)
事業費		37,119,252
	事業企画活動費	16,133,312
	連携事業・ラーニング	11,171,245
	広報関係費	9,814,695
管理費		5,364,047
計		42,483,299

■ 2024年度内訳(決算)

○ 収入の部

区分		金額(円)
負担金収入	愛知県負担金	137,262,440
雑収入	受取利息	51,901
計		137,314,341

○ 支出の部

区分		金額(円)
事業費		135,265,268
	企画準備費	81,405,012
	連携事業・ラーニング	11,392,915
	広報関係費	42,467,341
管理費		2,049,073
計		137,314,341

■ 2025年度内訳(予算)

○ 収入の部

区分		金額(円)
事業収入		125,185,000
	現代美術展チケット収入	113,398,000
	パフォーミングアーツチケット収入	11,131,000
	諸収入	656,000
公的負担金収入		1,135,866,000
	愛知県負担金	1,130,866,000
	瀬戸市負担金	5,000,000
広告・協賛金等収入	企業協賛寄付金、国及び各種文化財団等の助成金等	26,799,000
雑収入	受取利息	1,000
計		1,287,851,000

○ 支出の部

区分		金額(円)	
事業費		1,264,038,000	
	現代美術	641,736,000	
		芸術監督・キュレーター等委託活動費	63,513,000
		現代美術展開催費	563,372,000
		ポップ・アップ！開催費	3,036,000
		事業事務費	11,815,000
	パフォーミングアーツ	134,748,000	
	ラーニング	51,337,000	
	連携事業	27,555,000	
		アートラボあいち運営費	10,763,000
		連携事業開催費	7,806,000
		賑わい創出事業費	8,986,000
	会場運営・ボランティア	302,604,000	
	広報・PR	106,058,000	
管理費		13,240,000	
予備費		10,573,000	
計		1,287,851,000	

2 組織委員会事務局組織

区分	2023年度	2024年度	2025年度
事務局長	愛知県県民文化局文化部長	愛知県県民文化局文化部長	愛知県県民文化局文化部長
愛知県 県民文化局 文化部 文化芸術課 国際芸術祭 推進室	国際芸術祭推進室長 (事務局次長)	国際芸術祭推進室長 (事務局次長)	国際芸術祭推進室長 (事務局次長)
	担当課長(国際芸術祭)	担当課長(調整・広報) 担当課長(事業)	担当課長(調整・広報) 担当課長(事業)
	調整・広報グループ 5名	調整グループ 5名	調整グループ 5名
	・職員 3名 ・一般職非常勤職員 2名	・職員 3名 ・一般職非常勤職員 2名	・職員 3名 ・一般職非常勤職員 2名
		広報グループ 8名	広報グループ 10名
		・職員 4名 ・臨時的任用職員 3名 ^{※1} ・プロジェクトマネージャー 1名 ^{※2}	・職員 4名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 3名 ^{※1} ・プロジェクトマネージャー 1名 ^{※2} ・市町村等職員実務研修生 1名 (大府市)
	事業グループ 6名	事業第一グループ 10名	事業第一グループ 12名
・職員 5名 ・一般職非常勤職員 1名	・職員 6名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 3名 ^{※1}	・職員 6名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 4名 ^{※1} ・市町村等職員実務研修生 1名 (一宮市)	
	事業第二グループ 8名	事業第二グループ 10名	
	・職員 4名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 2名 ^{※1} ・プロジェクトマネージャー 1名 ^{※2}	・職員 4名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 3名 ^{※1} ・プロジェクトマネージャー 1名 ^{※2}	
	計13名	計34名	計40名

※1 臨時的任用職員はそれぞれ任期が異なる

※2 2024年10月から2025年12月まで

■ 国際芸術祭「あいち」組織委員会事務局

(愛知県県民文化局文化部 文化芸術課 国際芸術祭推進室内)

〒461-8525

愛知県名古屋市中区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター内

TEL: 052-971-3111

FAX: 052-971-6115

E-mail: triennale@pref.aichi.lg.jp

**(資料) 国際芸術祭「あいち」の開催経緯****■ 2005年度(平成17年度)**

2006年3月	・「新しい政策の指針」公表
---------	---------------

我が国屈指の複合的文化芸術施設である愛知芸術文化センターの機能や蓄積を十分に活用するとの観点や、経済面のみならず、文化芸術面においても世界に向けた創造力、発信力を一層強化しながら、心の豊かさや潤いのある生活が実感できる魅力的な地域づくりに繋げていくとの視点から、2006年3月に策定した「新しい政策の指針」において、「愛知芸術文化センターを拠点として、国際的に注目される文化芸術イベントの開催をめざす」とこととした。

■ 2006年度(平成18年度)

2006年12月25日	・「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」報告書 ～文化芸術あいち百年の軸をつくる～
-------------	--

2006年度に開催した「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」において、「文化芸術施策の総合戦略としての愛知ビエンナーレを開催すべき」との提言を受ける。

■ 2007年度(平成19年度)

2007年12月	・「文化芸術創造あいちづくり推進方針」策定
----------	-----------------------

国際芸術祭の開催を「文化芸術政策全体を推進するための先導的役割を担う取組」として位置づける。

2008年3月21日	・「あいち国際芸術祭(仮称)基本構想」公表
------------	-----------------------

初回となる2010年は、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、現代美術を中心に、舞台芸術も含めた芸術祭を開催していくこと、この地域から世界に向けた、新しい芸術の創造・発信に加え、芸術文化の普及・教育、祝祭的な賑わいを図ることなどを盛り込んだ基本構想を策定・公表。

○ 「あいち国際芸術祭(仮称)基本構想」の概要

開催意義	「国際文化交流の豊富な基盤やノウハウ」、「世界にも誇り得る複合的文化芸術施設とその活動の蓄積」、「様々な文化芸術資源」などを十分に活かしながら、経済面だけではなく文化芸術面でも日本、世界に貢献。
開催目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。 ・ 現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。 ・ 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。
事業構想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創造・発信: 初回(2010年)は美術部門の現代美術を基軸とするが、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、音楽、舞踊、オペラなども併せて展開。 ・ 普及・教育: 美術、舞台芸術などの部門で幅広い層を対象にした様々な普及・教育プログラムを展開。 ・ 祝祭的展開: 美術、舞台芸術を始め、伝統芸能、生活文化も含む様々な部門で県民に親しまれる事業を展開。

■ 2008年度(平成20年度)

2008年6月28日	【設立総会】 ・実行委員会の設立 【第1回運営会議】 ・平成20年度事業計画及び収支予算等決定
2008年7月22日	・芸術監督選任(2008年8月1日芸術監督就任)

○ 2010芸術監督
建島 哲(国立国際美術館館長)

2008年10月14日	・【第2回運営会議】 ・正式名称、テーマ、基本方針決定・公表
-------------	--

○ 正式名称、テーマ・基本方針の決定・公表

- ・正式名称 あいちトリエンナーレ2010/Aichi Triennale 2010
- ・テーマ 都市の祝祭 Arts and Cities
- ・基本方針(要約)
あいちトリエンナーレ2010を愛知・名古屋の文化のシンボルとして多くの市民に親しまれ、海外への芸術の発信基地としても注目されるユニークな特色をもったものにするために、次の三つの基本方針を掲げた。
方針① 美術を中心とした現代芸術の先端的な動向を、国際的な視野によって紹介する。
方針② 美術館や劇場のみならずまちなかへも進出し、都市の祝祭としての高揚感を演出する。
方針③ 現代美術を基軸にしつつ、オペラやダンス、音楽などのパフォーマンス・アートをも積極的に取り込む。

2009年3月25日	【第3回運営会議】 ・企画概要、ロゴマーク公表 ・平成21年度事業計画及び収支予算等決定
------------	---

○ ロゴマークの公表
《ロゴマークデザインのコンセプト》

- ・あいちトリエンナーレの頭文字、AとTを組合せ、芸術の先端的な動向を示す矢印として形作られている。
- ・その矢印は、従来のロゴマークのような固定的なものではなく、あらゆる方向を指し示すことで、芸術表現の多様性、国内外への発信、祝祭的ひろがりを表現できる。
- ・また、街中にもひろがる会場では、視覚的な案内表示としても機能するように考えられている。



デザイナー：山本誠(愛知県生まれ、東京都在住。愛知県立芸術大学卒業)

■ 2009年度(平成21年度)

2009年8月21日	【第4回運営会議】 ・企画概要公表
2010年3月25日	【第5回運営会議】 ・企画概要公表 ・平成22年度事業計画及び収支予算等決定

■ 2010年度(平成22年度)

2010年8月～10月	・あいちトリエンナーレ2010開催 (8月21日～10月31日[72日間])
2011年3月25日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ2010開催結果報告 ・平成23年度事業計画及び収支予算等決定

○ 開催概要	
・ 正式名称	あいちトリエンナーレ2010/Aichi Triennale 2010
・ テーマ	都市の祝祭 Arts and Cities
・ 開催期間	2010年(平成22年)8月21日(土)～10月31日(日)[72日間]
・ 主な会場	愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、名古屋城、オアシス21、中央広小路ビル、七ツ寺共同スタジオなど
・ 来場者数	572,023人
・ 芸術監督	建島哲
・ 開催内容	[現代美術] 招聘作家による国際美術展、企画コンペによる展示、映像プログラム [舞台芸術] パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ [普及・教育] キッズトリエンナーレ、学校向けプログラム [祝祭的展開・まちなか展開] 祝祭ウィーク共催事業等

■ 2011年度(平成23年度)

2011年7月20日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定
2011年7月28日	・芸術監督選任(2011年8月1日芸術監督就任)

○ 2013芸術監督 五十嵐太郎(東北大学大学院工学研究科教授(都市・建築学))	
---	--

2011年10月21日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表
-------------	---------------------

○ テーマ 揺れる大地 - われわれはどこに立っているのか : 場所、記憶、そして復活 Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection	
---	--

2012年3月29日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成24年度事業計画及び収支予算等決定
------------	---

■ 2012年度(平成24年度)

2012年7月25日	【運営会議】 ・企画概要公表
2013年3月22日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成25年度事業計画及び収支予算等決定

■ 2013年度(平成25年度)

2013年8月～10月	・あいちトリエンナーレ2013開催 (8月10日～10月27日[79日間])
-------------	---

○ 開催概要	
・ 正式名称	あいちトリエンナーレ2013/Aichi Triennale 2013
・ テーマ	揺れる大地－われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活 Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection
・ 開催期間	2013年(平成25年)8月10日(土)～10月27日(日)[79日間]
・ 主な会場	[名古屋地区]愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、 中央広小路ビル、オアシス21、名古屋テレビ塔、若宮大通公園など [岡崎地区]東岡崎駅会場、康生会場、松本町会場
・ 来場者数	626,842人
・ 芸術監督	五十嵐太郎
・ 開催内容	[現代美術] 招聘作家による国際美術展、企画コンペによる展示、映像プログラム、 モバイル・トリエンナーレ [舞台芸術] パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ [普及・教育] キッズトリエンナーレ、学校向けプログラム [祝祭的展開・まちなか展開] 祝祭ウィーク事業、大学連携プロジェクト、建築関連プロジェクト

2014年3月26日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ2013開催結果報告 ・平成26年度事業計画及び収支予算等決定
------------	---

■ 2014年度(平成26年度)

2014年7月22日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定
2014年7月25日	・芸術監督選任(2014年8月1日芸術監督就任)

○ 2016芸術監督 港千尋(写真家・著述家 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授(映像人類学))	
--	--

2014年10月29日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表
-------------	---------------------

○ テーマ 虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅 Homo Faber: A Rainbow Caravan	
--	--

2015年3月26日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成27年度事業計画及び収支予算等決定
------------	---

■ 2015年度(平成27年度)

2016年3月30日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成28年度事業計画及び収支予算等決定
------------	--

■ 2016年度(平成28年度)

2016年8月～10月	・あいちトリエンナーレ2016開催 (8月11日～10月23日[74日間])
-------------	---

○ 開催概要	
・ 正式名称	あいちトリエンナーレ2016/Aichi Triennale 2016
・ テーマ	虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅 Homo Faber: A Rainbow Caravan
・ 開催期間	2016年(平成28年)8月11日(木・祝)～10月23日(日)[74日間]
・ 主な会場	[名古屋地区]愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、 名古屋市内のまちなか(長者町会場、栄会場、名古屋駅会場) [豊橋地区]PLAT会場、水上ビル会場、豊橋駅前大通会場 [岡崎地区]東岡崎駅会場、康生会場、六供会場
・ 来場者数	601,635人
・ 芸術監督	港千尋
・ 開催内容	[現代美術]国際現代美術展、映像プログラム [舞台芸術]パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ [普及・教育]創作プログラム、鑑賞プログラム、レクチャープログラム、 学校等団体向けプログラム [連携事業]モバイル・トリエンナーレ、舞台芸術公募プログラム、芸術大学連携プロジェクト、 特別連携事業、並行企画事業、パートナーシップ事業、サポート体制(ボランティア、市民団体等によるあいちトリエンナーレ2016連携事業)

2017年3月28日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ2016開催結果報告 ・平成29年度事業計画及び収支予算決定
------------	---

■ 2017年度(平成29年度)

2017年5月19日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定
2017年7月18日	・芸術監督選任(2017年8月1日芸術監督就任)

○ 2019芸術監督 津田大介(ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)	
--	--

2017年10月20日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表
-------------	----------------------------

○ テーマ 情の時代 Taming Y/Our Passion	
---------------------------------------	--

2018年3月22日	【運営会議】 ・開催概要、平成30年度事業計画及び収支予算決定
------------	---

■ 2018年度（平成30年度）

2019年3月27日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成31年度事業計画及び収支予算等決定
------------	--

■ 2019年度（令和元年度）

2019年8月～10月	・あいちトリエンナーレ2019開催 （8月1日～10月14日〔75日間〕）
-------------	--

○ 開催概要	
・ 正式名称	あいちトリエンナーレ2019／Aichi Triennale 2019
・ テーマ	情の時代 Taming Y/Our Passion
・ 開催期間	2019（令和元）年8月1日（木）～10月14日（月・祝）〔75日間〕
・ 主な会場	愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか（四間道・円頓寺）、豊田市（豊田市美術館及び豊田市駅周辺）
・ 来場者数	675,939人
・ 芸術監督	津田大介
・ 開催内容	[現代美術] 国際現代美術展、映像プログラム [舞台芸術] パフォーミングアーツ、音楽プログラム [ラーニング] アート・プレイグラウンド、アーティスト派遣事業、学校向け団体鑑賞プログラム、ボランティア研修、トリエンナーレスクール [連携事業] モバイル・トリエンナーレ、舞台芸術公募プログラム、芸術大学連携プロジェクト、芸術祭等連携事業、連携企画事業、パートナーシップ事業

2019年12月26日	【運営会議】 ・「あいちトリエンナーレ2019」開催結果概要 ・あいちトリエンナーレのあり方検討委員会からの提言
-------------	---

■ 2020年度（令和2年度）

2020年9月8日	【設立総会】 ・新・国際芸術祭（仮称）組織委員会の設立 【運営会議】 ・2020年度事業計画及び収支予算決定
2020年10月15日	【アドバイザー会議】 ・芸術監督の選考基準決定
2020年11月4日	【運営会議】 ・芸術監督選任報告 ・新・国際芸術祭（仮称）の正式名称決定
2020年11月17日	・芸術監督就任 ・新・国際芸術祭（仮称）の正式名称公表

- 2022芸術監督
片岡真実(森美術館館長／国際美術館会議(CIMAM)会長)
- 2022正式名称
国際芸術祭「あいち2022」
- 組織名称
国際芸術祭「あいち」組織委員会

2020年12月15日	【運営会議】 ・テーマ報告
2020年12月22日	・テーマ公表

- テーマ
STILL ALIVE
今、を生き抜くアートのちから

2021年3月30日	【運営会議】 ・企画概要決定・公表 ・2021年度度事業計画及び収支予算決定
------------	--

■ 2021年度(令和3年度)

2021年5月20日	【運営会議】 ・開催会場決定
2021年5月25日	・開催会場公表

- 開催会場
愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区(名古屋市)

2021年8月20日	【運営会議】 ・ロゴマーク、参加アーティスト(第一弾)等報告
2021年8月23日	・ロゴマーク、参加アーティスト(第一弾)等公表

- ロゴマーク
《ロゴマークデザインのコンセプト》
・芸術監督とデザイナーがディスカッションを行う中で、愛知県の形状や、テーマ「STILL ALIVE」からインスピレーションを得て生まれた。
・色は、「猩々緋(しょうじょうひ)」や「常滑焼」など、愛知県をイメージする複数の赤を集約している。



デザイナー：田中義久

2022年2月7日	【運営会議】 ・参加アーティスト(第二弾)等報告
2022年2月15日	・参加アーティスト(第二弾)等公表
2022年3月30日	【運営会議】 ・2022年度事業計画及び収支予算等決定 ・全体概要報告・公表

■ 2022年度(令和4年度)

2022年7月～10月	・国際芸術祭「あいち2022」開催 (7月30日～10月10日[73日間])
-------------	---

○ 開催概要	
・ 正式名称	国際芸術祭「あいち2022」
・ テーマ	STILL ALIVE 今、を生き抜くアートの中から
・ 開催期間	2022(令和4)年7月30日(土)～10月10日(月・祝)[73日間]
・ 主な会場	愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区(名古屋市)
・ 来場者数	487,834人
・ 芸術監督	片岡真実
・ 開催内容	[現代美術]現代美術展 [パフォーマンスアーツ]パフォーマンスアーツ [ラーニング]リサーチ、レクチャー、ガイドツアー、スクール・プログラム、ボランティアプログラム [連携事業]巡回展示「ポップ・アップ!」、円頓寺商店街・円頓寺本町商店街連携事業、芸術大学連携プロジェクト、舞台芸術公募プログラム、連携企画事業、パートナーシップ事業

■ 2023年度(令和5年度)

2023年6月30日	【運営会議】 ・芸術監督選任報告
2023年7月1日	・芸術監督就任

○ 2025芸術監督 フール・アル・カシミ (シャルジャ美術財団理事長兼ディレクター / 国際ビエンナーレ協会(IBA)会長)	
---	--

2023年10月23日	【運営会議】 ・開催会場・会期決定
2023年10月26日	・開催会場・会期公表

○ 開催会場 愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか	
--	--

2024年1月16日	【運営会議】 ・開催概要、参加アーティスト(第一弾)等報告
2024年2月1日	・開催概要、参加アーティスト(第一弾)等公表

○ テーマ 灰と薔薇のあいまに A Time Between Ashes and Roses	
---	--

2024年3月27日	【運営会議】 ・2024年度事業計画及び収支予算決定
------------	-------------------------------

■ 2024年度(令和6年度)

2024年9月9日	【運営会議】 ・キービジュアル、参加アーティスト(第二弾)等報告
2024年9月12日	・キービジュアル、参加アーティスト(第二弾)等公表

○ キービジュアル

《キービジュアルのコンセプト》

このシンプルで豊かな詩を絵にする。私がまず考えたのは「薔薇がどこに咲くのだろう」ということでした。灰は理不尽な破壊や死の結果なのか？だとしたら薔薇は死者の国に咲くのかもしれない。わたしは死者の国の住人として幽霊を描くことにしました。描いているうちに、死んでいるはずの幽霊たちが少し生き生きとしてきたような気がしました。“死者の国”と思っていたのはもしかしたら“生まれる前の者たちの国”なのかもしれない。それがこの絵です。



デザイナー:五十嵐大介

2025年1月29日	【運営会議】 ・全参加アーティスト報告
2025年2月26日	・全参加アーティスト公表
2025年3月24日	【運営会議】 ・2025年度事業計画及び収支予算等決定

■ 2025年度(令和7年度)

2025年5月16日	【運営会議】 ・国際芸術祭「あいち2025」企画概要決定
2025年5月30日	・国際芸術祭「あいち2025」企画概要公表

2025年9月～11月	・国際芸術祭「あいち2025」開催 (9月13日～11月30日[79日間])
-------------	---

○ 開催概要

- ・ 正式名称 国際芸術祭「あいち2025」
- ・ テーマ 灰と薔薇のあいまに A Time Between Ashes and Roses
- ・ 開催期間 2025(令和7)年9月13日(土)～11月30日(日)[79日間]
- ・ 会場 愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか
- ・ 来場者数 524,069人
- ・ 芸術監督 フール・アル・カシミ
- ・ 開催内容 [現代美術]現代美術展、巡回展示「ポップ・アップ！」
[パフォーマンス]パフォーマンス
[ラーニング]ボランティアプログラム、ラーニング・ラーニング、アクセシビリティプログラム、
学校向けプログラム、瀬戸の版築プロジェクト「凸と凹」
[連携事業]芸術大学連携プロジェクト、連携企画プログラム、
パートナーシップ・プログラム、芸術祭等との連携



(資料) 国際芸術祭「あいち」組織委員会規約等

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、国際芸術祭「あいち」組織委員会（以下「組織委員会」という。）と称する。

(事務所)

第2条 組織委員会は、事務所を愛知県名古屋市東区東桜一丁目13番2号に置く。

(目的)

第3条 組織委員会は、現代美術等を中心とした国際的な芸術祭（以下「国際芸術祭「あいち」」という。）の準備及び開催運営等を行うことにより、次の各号に掲げる事項を達成することを目的とする。

- (1) 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献すること。
- (2) 現代美術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ること。
- (3) 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ること。

(事業)

第4条 組織委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 国際芸術祭「あいち」の準備及び開催運営
- (2) その他組織委員会の目的を達成するために必要な事業

第2章 組織

(委員)

第5条 組織委員会の委員は、第6条第1項第1号に規定する会長、同項第2号に規定する副会長、公益財団法人愛知県文化振興事業団理事長、第10条第3項に規定する者及び第11条第1項に規定するアドバイザー会議委員とする。

2 委員は、組織委員会に関する活動を通じて知り得た秘密を漏らしてはならない。

(役員)

第6条 組織委員会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 監事 2名

2 会長は、愛知県知事が委嘱する者をもって充てる。

3 副会長は、愛知県民文化局長及び愛知県知事が委嘱する者をもって充てる。

4 監事は、第10条第1項に規定する運営会議の同意を得て会長が委嘱する。

(職務)

第7条 会長は、組織委員会を代表し、会務を統括する。

- 2 会長は、テーマ・コンセプト及び出展作家・作品について承認する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ別表で定めた順序により、その職務を代理する。
- 4 監事は、組織委員会の業務及び会計を監査する。

(任期)

第8条 役員及び委員の任期は3年以内とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠又は増員により選任された役員及び委員の任期は、前任者又は他の現任者の残任期間とする。
- 3 役員及び委員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(芸術監督)

第9条 組織委員会に、国際芸術祭「あいち」の学芸部門の責任者として芸術監督を置く。

- 2 芸術監督は、会長が委嘱する。
- 3 芸術監督の職務は、次のとおりとする。
 - (1) テーマ・コンセプトの立案
 - (2) 出展作家・作品の選考
 - (3) その他学芸部門に関すること。

(運営会議)

第10条 組織委員会に、運営会議を置く。

- 2 運営会議は、会長、副会長、公益財団法人愛知県文化振興事業団理事長及び2名のアドバイザー会議委員をもって構成する。
- 3 会長は、前項に定める者のほか、必要と認める者を、運営会議の同意を得て、構成員に加えることができる。
- 4 運営会議は、次の各号に掲げる事項を議決する。
 - (1) 規約の改廃
 - (2) 事業計画及び収支予算
 - (3) 事業報告及び収支決算
 - (4) その他組織委員会の運営に関する重要な事項
- 5 運営会議は、会長が招集する。
- 6 会長が必要と認める場合、構成員は、運営会議にウェブ会議システム（映像と音声の送受信により相手の状態を相互に認識しながら通話することができるシステムをいう。）を利用して出席することができる。
- 7 運営会議の議長は、会長がこれに当たる。
- 8 運営会議は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 9 運営会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決する

ところによる。

- 10 やむを得ない理由のため運営会議に出席できない構成員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、その構成員は出席したものとみなす。
- 11 会長が必要と認める場合、あらかじめ通知した事項に対する構成員による書面表決をもって、運営会議の議決に代えることができる。
- 12 会長は、必要と認めるときは、運営会議に構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(アドバイザー会議)

第11条 組織委員会に、アドバイザー会議を置き、アドバイザー会議の委員は、愛知県知事が委嘱する。

- 2 アドバイザー会議は、会長の求めに応じテーマ・コンセプト等について助言を行う。
- 3 アドバイザー会議は、芸術監督候補を選出する。

(その他の会議)

第12条 前2条に定めるもののほか、組織委員会に会長が必要と認める会議を置くことができる。

第3章 会長の専決処分

(会長の専決処分)

- 第13条 会長は、運営会議の議決事項について、緊急を要するときは、これを専決処分することができる。
- 2 会長は、前項の規定により専決処分をしたときは、これを次の運営会議において報告しなければならない。

第4章 事務局

(事務局)

第14条 組織委員会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局長は愛知県民文化局文化部長、事務局次長は愛知県民文化局文化部文化芸術課国際芸術祭推進室長をもって充てる。
- 3 事務局は、愛知県民文化局文化部文化芸術課国際芸術祭推進室に置く。
- 4 事務局には、所要の職員を置く。
- 5 事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

第5章 会 計

(経費)

第15条 組織委員会の活動に必要な経費は、負担金その他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第16条 組織委員会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 補 則

(委任)

第17条 この規約に定めるもののほか、必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、2020年9月8日から施行する。
- 2 組織委員会の設立当初の会計年度は、第16条の規定にかかわらず、設立の日から2021年3月31日までとする。

附 則

この規約は、2020年11月17日から施行する。

附 則

この規約は、2021年1月1日から施行する。

附 則

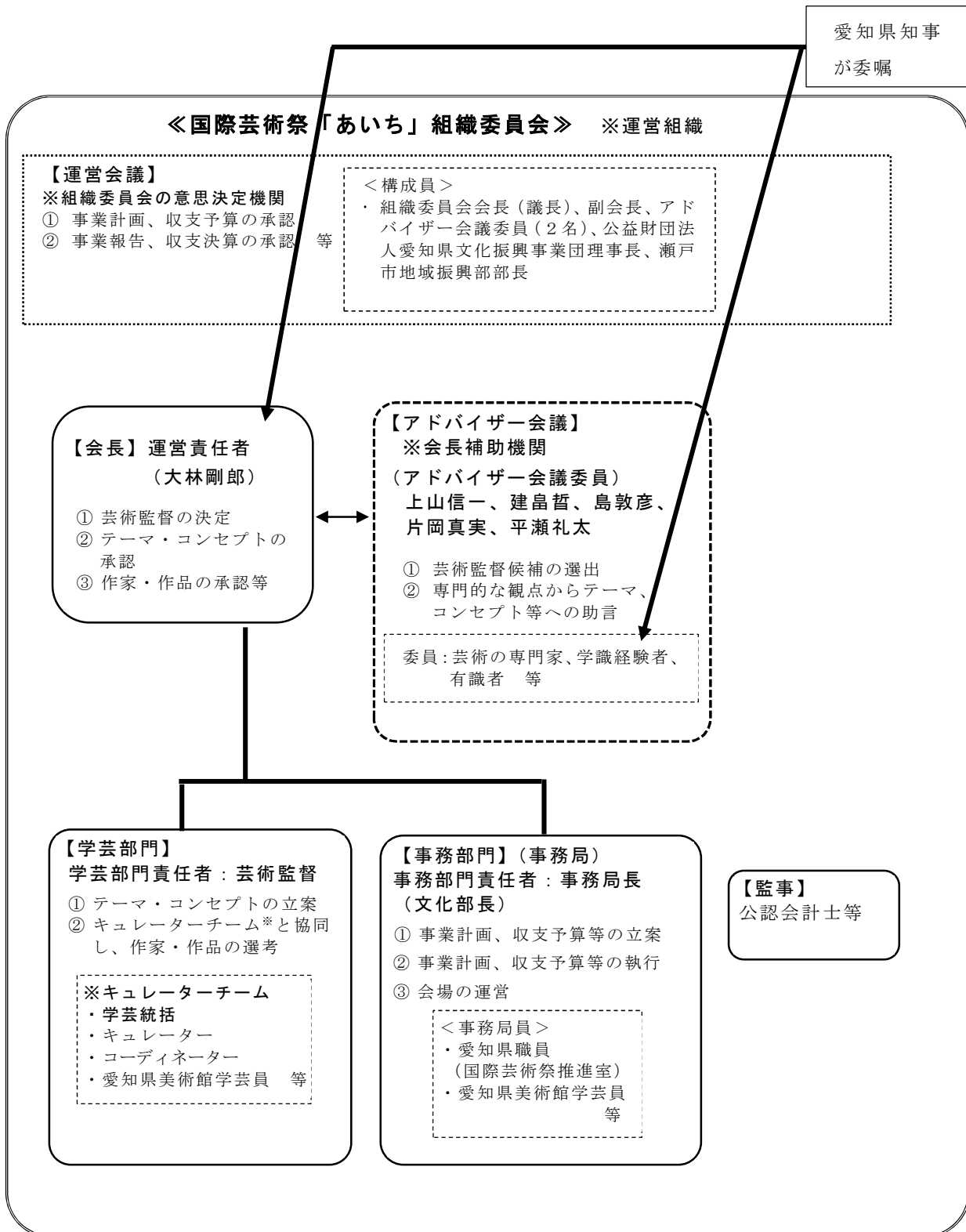
この規約は、2023年4月1日から施行する。

附 則

この規約は、2025年1月1日から施行する。

■ 国際芸術祭「あいち」組織委員会組織図

2026年3月1日現在





(資料) 国際芸術祭「あいち」の推移

項目	2010	2013	2016	2019	2022	2025
名称	あいちトリエンナーレ2010 Aichi Triennale 2010	あいちトリエンナーレ2013 Aichi Triennale 2013	あいちトリエンナーレ2016 Aichi Triennale 2016	あいちトリエンナーレ2019 Aichi Triennale 2019	あいち2022 Aichi Triennale 2022	あいち2025 Aichi Triennale 2025
テーマ	都市の祝祭 Arts and Cities	揺れる大地ーわれわれはどこに立っているのか: 場所、記憶、そして復活 Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection	虹のキャラヴァン アンサライ 創造する人間の旅 Homo Faber: A Rainbow Caravan	情の時代 Taming Y/Our Passion	STILL ALIVE 今、を生き抜くアートのみから	灰と薔薇のあいまに A Time Between Ashes and Roses
芸術監督 (就任当時の職)	建畠哲 (国立国際美術館館長)	五十嵐太郎 (東北大学大学院工学研究科教授 (都市・建築学))	港千尋 (多摩美術大学美術学部情報デザイン学科 教授 映像人類学))	津田大介 (ジャーナリスト/メディア・アクトビスト)	片岡真実 (森美術館館長/国際美術館会議(CIMAM)会長)	フルール・アル・カシミ (シャルジャ美術財団理事長兼ディレクター/国際ビエンナーレ協会(IBA)会長)
会期	2010(平成22)年 8月21日(土)~10月31日(日)[72日間]	2013(平成25)年 8月10日(土)~10月27日(日)[79日間]	2016(平成28)年 8月11日(木・祝)~10月23日(日)[74日間]	2019(令和元)年 8月1日(木)~10月14日(月・祝)[75日間]	2022(令和4)年 7月30日(土)~10月10日(月・祝)[73日間]	2025(令和7)年 9月13日(土)~11月30日(日)[79日間]
会場	・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・納屋橋会場 ※その他、名古屋城、オアシス21、中央広小路ビル、オアシス七ツ寺共同スタジオなど	■名古屋地区 ・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・納屋橋会場 ※その他、中央広小路ビル、オアシス21、名古屋テレビ塔、若宮大通公園など ■岡崎地区 ・東岡崎駅会場 ・康生会場 ・松本町会場	■名古屋地区 ・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・栄会場 ・名古屋駅会場 ■豊橋地区 ・PLAT会場 ・水上ビル会場 ・豊橋駅前大通会場 ■岡崎地区 ・東岡崎駅会場 ・康生会場 ・六供会場	■名古屋地区 ・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・四間道・円頓寺 ■豊田地区 ・豊田市美術館 ・豊田市駅周辺	■愛知芸術文化センター ■一宮市 ■常滑市 ■有松地区 (名古屋市)	■愛知芸術文化センター ■愛知県陶磁美術館 ■瀬戸市のまちなか

項目	2010	2013	2016	2019	2022	2025
参加アーティスト数	24の国と地域から131組	34の国と地域から122組	38の国と地域から119組	30の国と地域から93組	32の国と地域から100組	22の国と地域から62組
来場者数	572,023人	626,842人	601,635人	675,939人	487,834人	524,069人
現代美術展 展示面積	18,127㎡	33,963㎡	21,644㎡	20,033㎡	14,781㎡	14,600㎡
全体事業費 (決算額)	(2008(平成20)～2010(平成22)年度) 1,207,537千円	(2011(平成23)～2013(平成25)年度) 1,178,248千円	(2014(平成26)～2016(平成28)年度) 1,265,008千円	(2017(平成29)～2019(令和元)年度) 1,204,167千円	(2020(令和2)～2022(令和4)年度) 1,205,748千円	(2023(令和5)～2025(令和7)年度) 1,467,649千円 ※
経済波及 効果	約78.1億円	約69.0億円 (うち愛知県内 約58.2億円)	愛知県内 約63.3億円	愛知県内 約87.1億円	愛知県内 約73.0億円	愛知県内 約77.8億円
パブリシティ効果 (広告費換算)	47億円以上	55億円以上	33億円以上	約200億円	約9.6億円	約12.7億円
ボランティア 登録者数 (実人数)	1,289人	1,310人	1,144人	1,219人	983人	1,099人
主な特徴 (新たな展開)		<ul style="list-style-type: none"> ・象徴的なテーマ展開 ・建築の視点の導入 ・まちなか展開の拡大(岡崎市内での展開) ・建築関連プロジェクト ・モバイル・トリエンナーレ(移動型展示) ・パブリック・プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加アーティストと企画体制の地域的な拡がり ・まちなか展開の拡大(豊橋市内での展開) ・グループとして多様な活動をするアーティストを紹介 ・舞台芸術公演が集中する「レインボーウィークス」 ・コラムプロジェクト等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポピュラーミュージックを新たなプログラムとして展開 ・演劇を中心としたパフォーミングアーツ公演 ・ラーニングとして対話型鑑賞を重視 ・名古屋市のまちなか展開を新たに四間道・円頓寺にて実施 ・豊田市内でのまちなか展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における開催 ・歴史や地場産業、伝統文化を視野に入れ、会場を選定 ・コンセプトチュアル・アートの源流を再訪 ・フェーズごと(開幕前・会期中)にラーニング・プログラムを構成 ・パフォーマン・ス・アートにも注目 ・オンライン展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外から芸術監督を初めて招聘 ・ステートメントを策定 ・アジアに加え、中東・アフリカ・中南米など非欧米圏のアーティストを多く紹介 ・「陶」に着目し、愛知県陶磁美術館と瀬戸市のまちなかを会場に選定

※2025(令和7)年度分は2026年3月現在で決算額が未確定のため予算額で積算

国際芸術祭「あいち2025」開催報告書

2026(令和8)年3月

編集：国際芸術祭「あいち」組織委員会事務局

発行：国際芸術祭「あいち」組織委員会

国際芸術祭「あいち」組織委員会事務局

(愛知県県民文化局文化部文化芸術課国際芸術祭推進室内)

〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター内

Tel 052-971-3111 Fax 052-971-6115